



2015年上期の業種別部会長シンポジウム

**SIMPÓSIO DOS PRESIDENTES DOS
DEPARTAMENTOS SETORIAIS**

CÂMARA DE COMÉRCIO E INDÚSTRIA JAPONESA DO BRASIL

HomePage: www.camaradojapao.org.br / E-mail: secretaria@camaradojapao.org.br

司会

相原 良彦 総務委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Coordenação Geral:**

Yoshihiko Aihara

開催挨拶

村田 俊典 会頭

Palavras do Presidente da Câmara:

Toshifumi Murata

金融 部会

加藤 清己 部会長

Departamento Financeiro

Presidente: Kiyomi Kato

2014年度の回顧と2015年度の展望

～再生目指すブラジル経済！どう頑張る日系ビジネス～

—金融部会—

2015年2月24日(火)

2014年の回顧

- ・ 景気停滞と高インフレが同時進行。W杯効果も限定的。
- ・ 個人消費を原動力とした成長モデルが限界に。
- ・ 大接戦の大統領選結果は、ジルマ政権の経済運営へ修正を強いることに。

【GDP】 個人消費の伸び鈍化に加え、投資の低迷が成長を抑制し、**マイナス成長**に

【インフレ】 **政府目標圏の上限付近で高止まり**。根強い賃金上昇圧力に加え、水不足による飲食物品の上振れ、電力料金上昇がインフレ高止まりの背景に

【金利】 計5回、1.75%の利上げによる**金融引締め**。金融緩和による景気刺激は困難

【為替】 経済ファンダメンタルズの脆弱さと資源価格の低下を背景に**リアル安に推移**

【財政】 政府債務は悪化ペースが加速。**プライマリーバランスは赤字**に。

【失業率】 景気悪化にもかかわらず、**歴史的低水準**を維持

【経常収支】 2000年以降初の貿易赤字、経常赤字910億ドルは**過去最悪の水準**

主要マクロ経済指標推移

金融部会

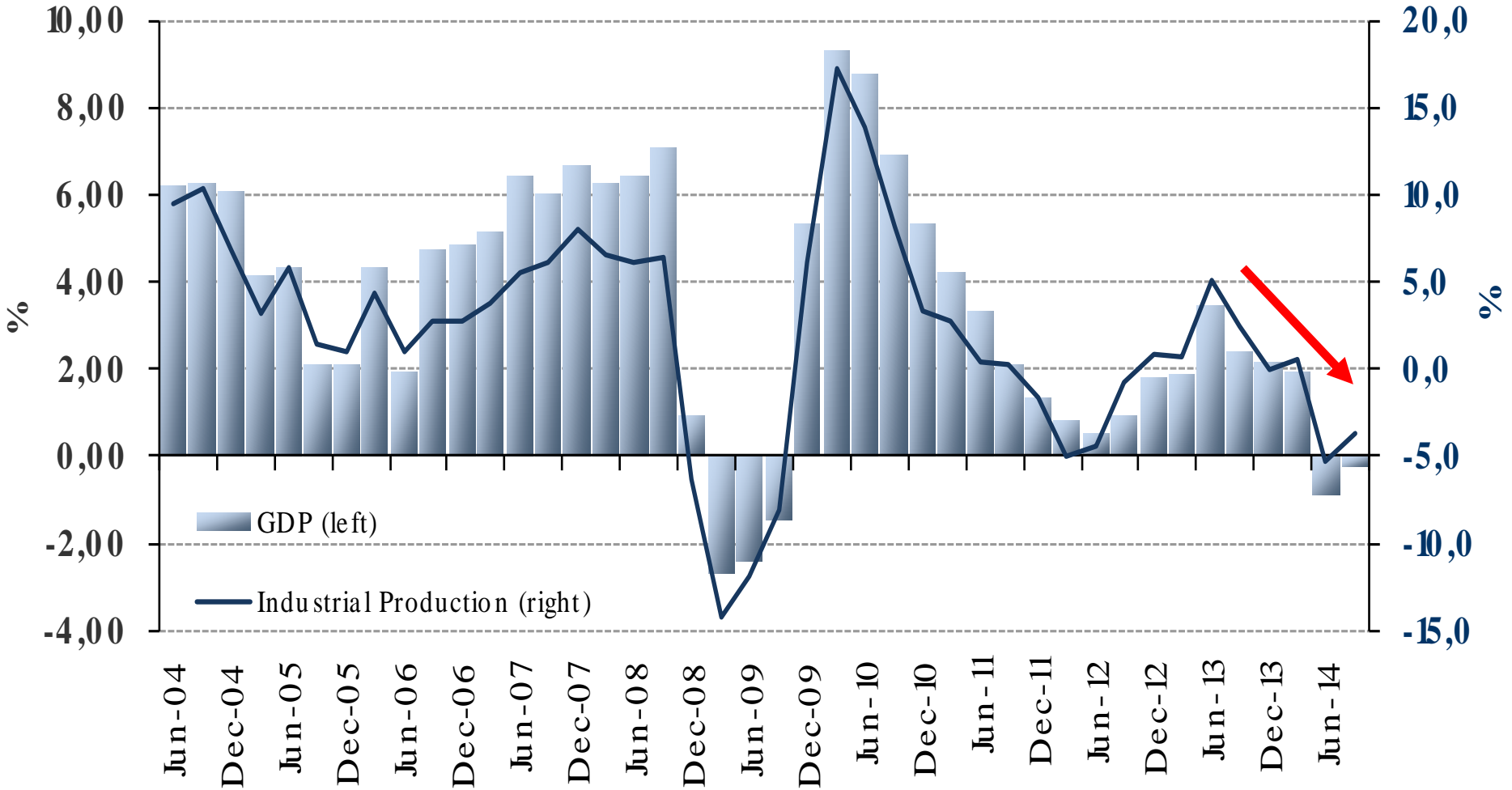
項目	単位	2011年	2012年	2013年	2014年	注記
GDP成長率	%	2.7	1.0	2.5	▲0.1	2014年は予測値
名目GDP	BRL/Bi	4143	4392	4844	5162	2014年は予測値
	USD/Bi	2473	2247	2245	2193	2014年は予測値
一人当たりのGDP	USD	12532	11278	11168	10816	2014年は予測値
貿易収支	USD/Bi	29.8	19.4	2.6	▲3.9	
経常収支	USD/Bi	▲52.5	▲54.2	▲81.4	▲90.9	
プライマリーバランス	BRL/Bi	129	105	91	▲33	
株価指数 (BOVESPA)	Point	56754	60952	51507	50007	
BRAZIL 5 YCDS USD	Point	161	108	196	197	
政策目標金利SELIC	%	11.00	7.25	10.00	11.75	2015年2月 12.25
拡大消費者物価指数IPCA	%	6.50	5.84	5.91	6.41	
失業率〔年平均〕	%	6.0	5.5	5.4	4.8	
最低賃金	BRL	545	622	678	724	2015年 788

出所：ブラジル中央銀行、Bloomberg、IBGE

GDP成長率・工業生産

金融部会

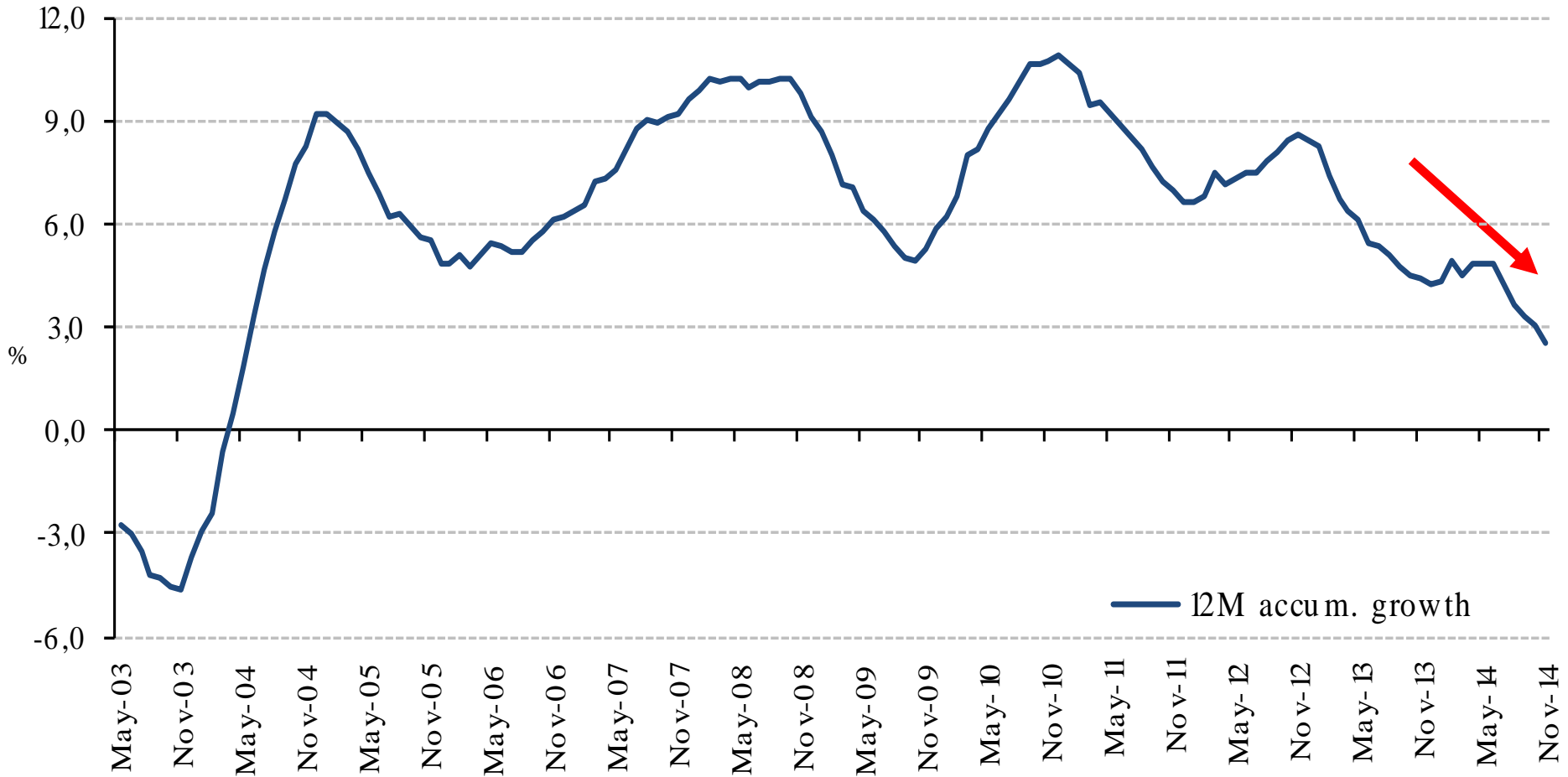
前年比(%)



Source: IBGE, Mizuho

小売売上高

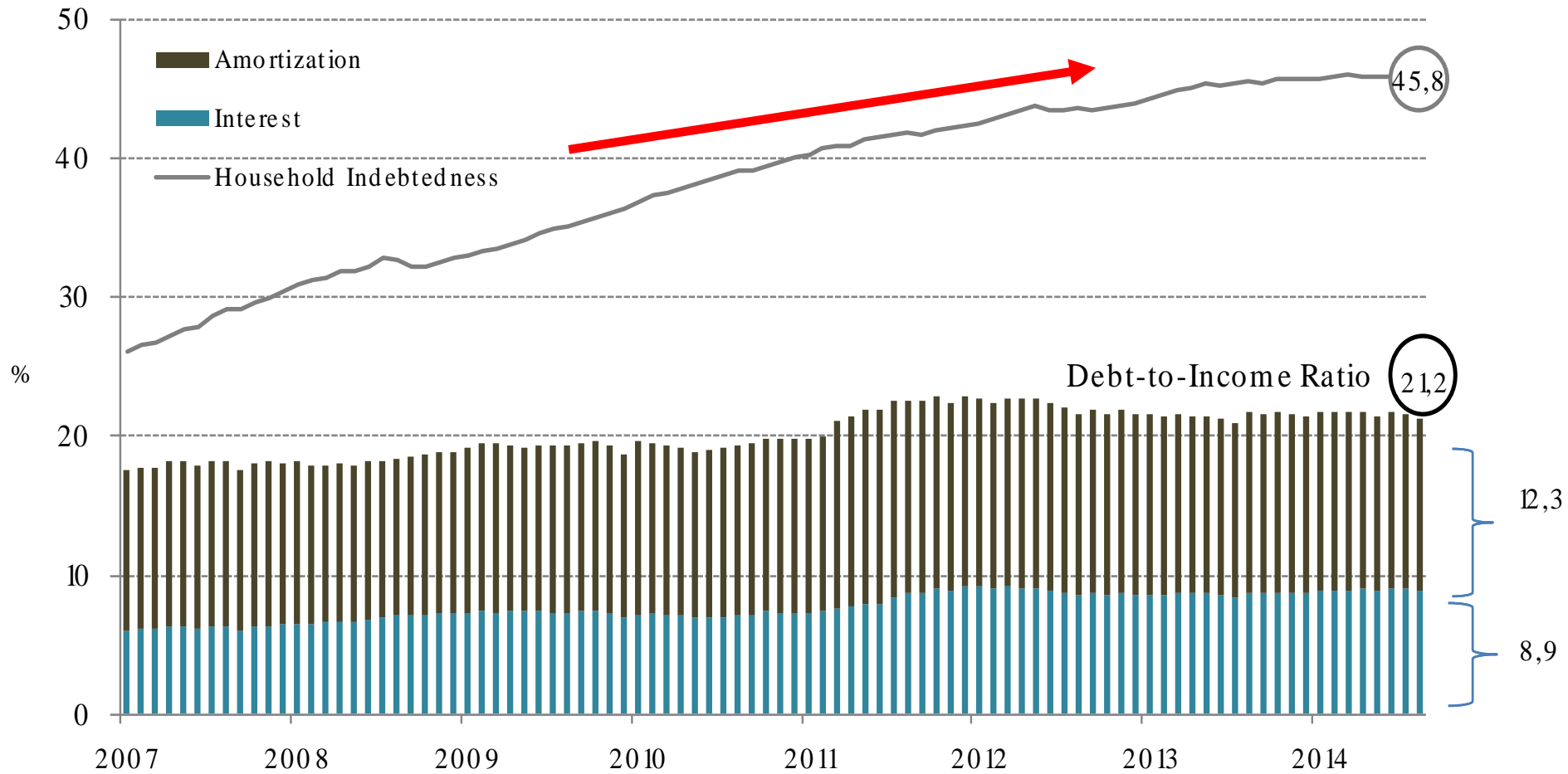
金融部会



Source: IBGE, Mizuho

家計に占める債務比率・返済比率

金融部会

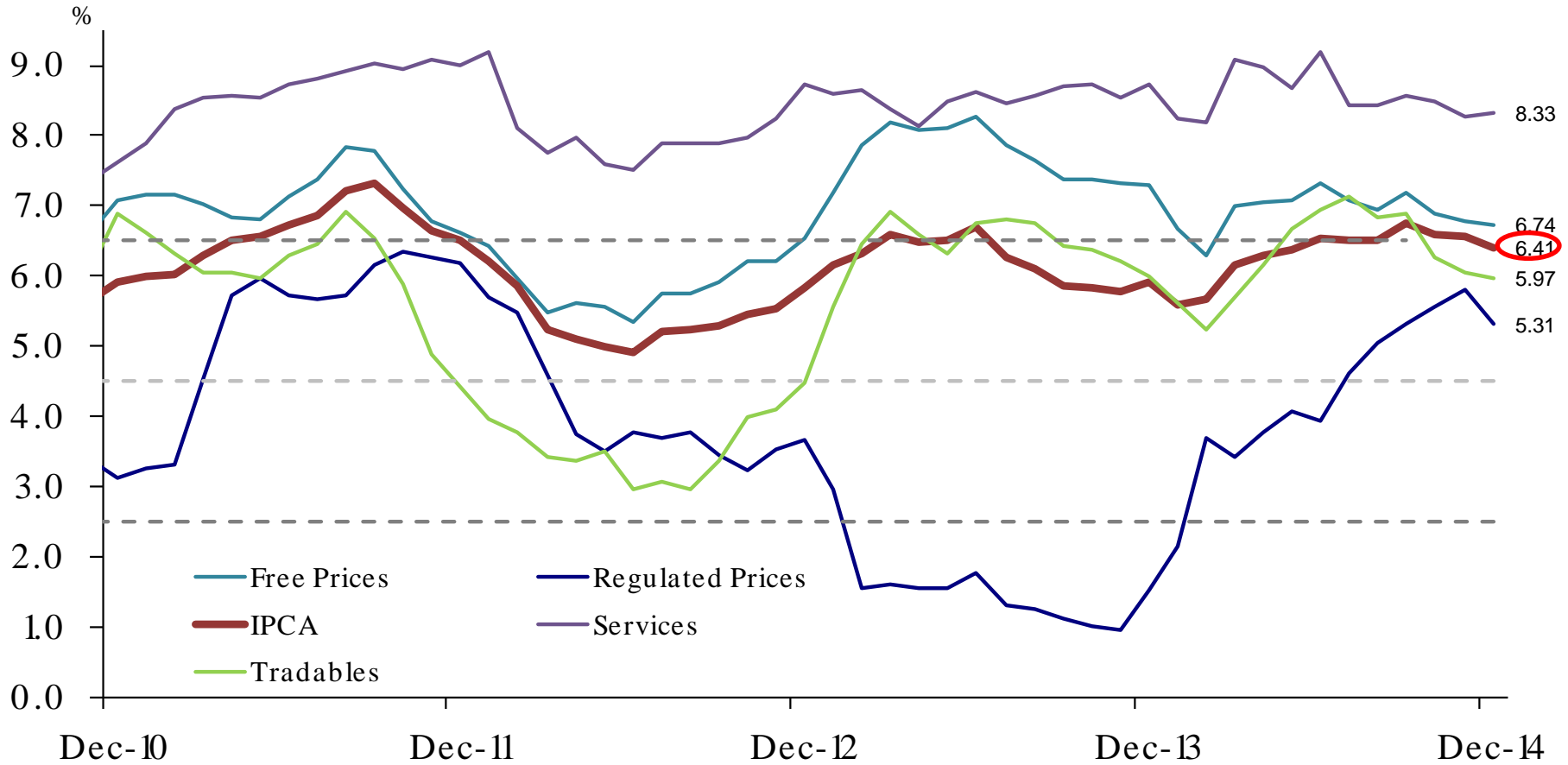


Source: BCB, Mizuho

インフレ

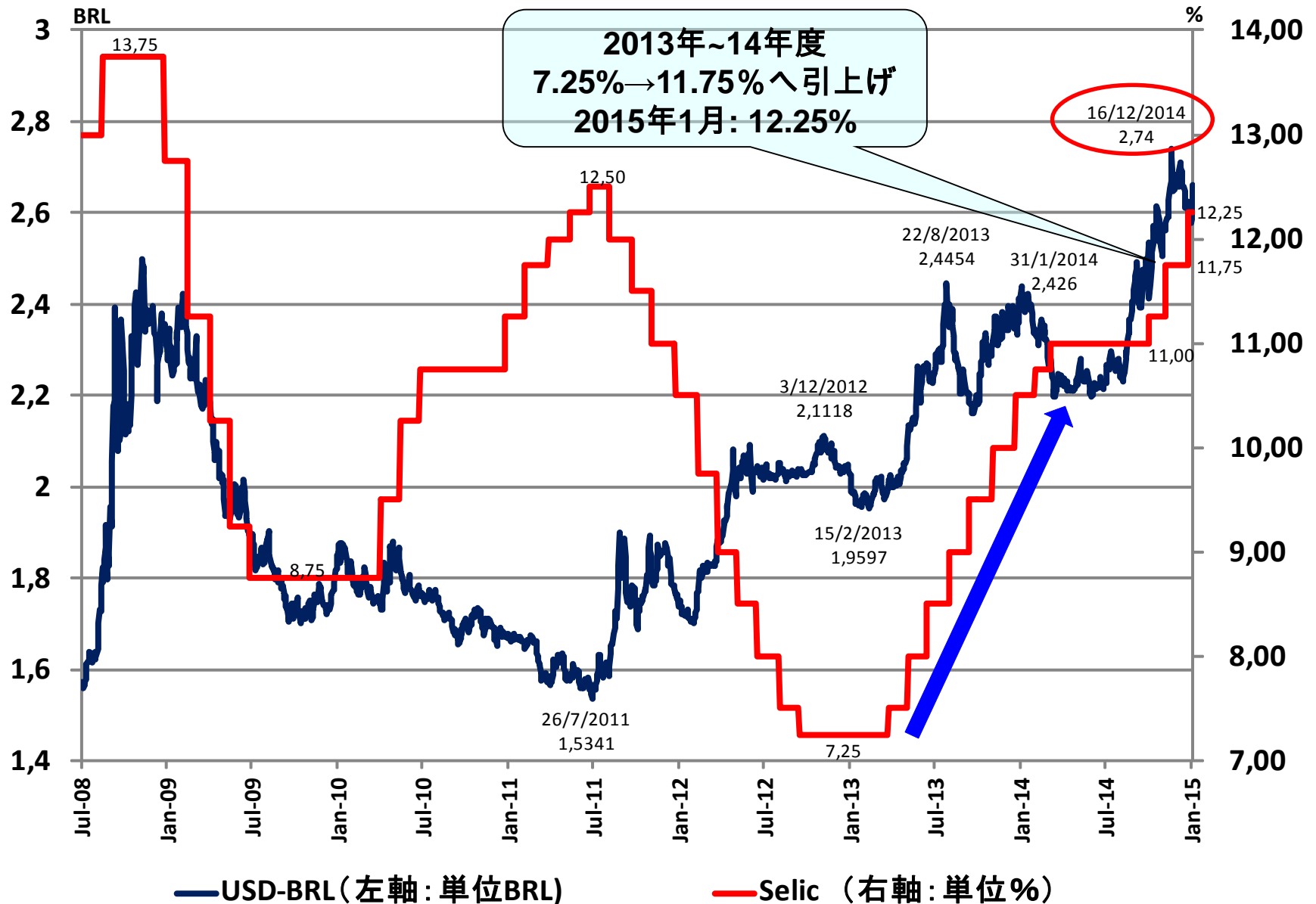
金融部会

前年比 (%)



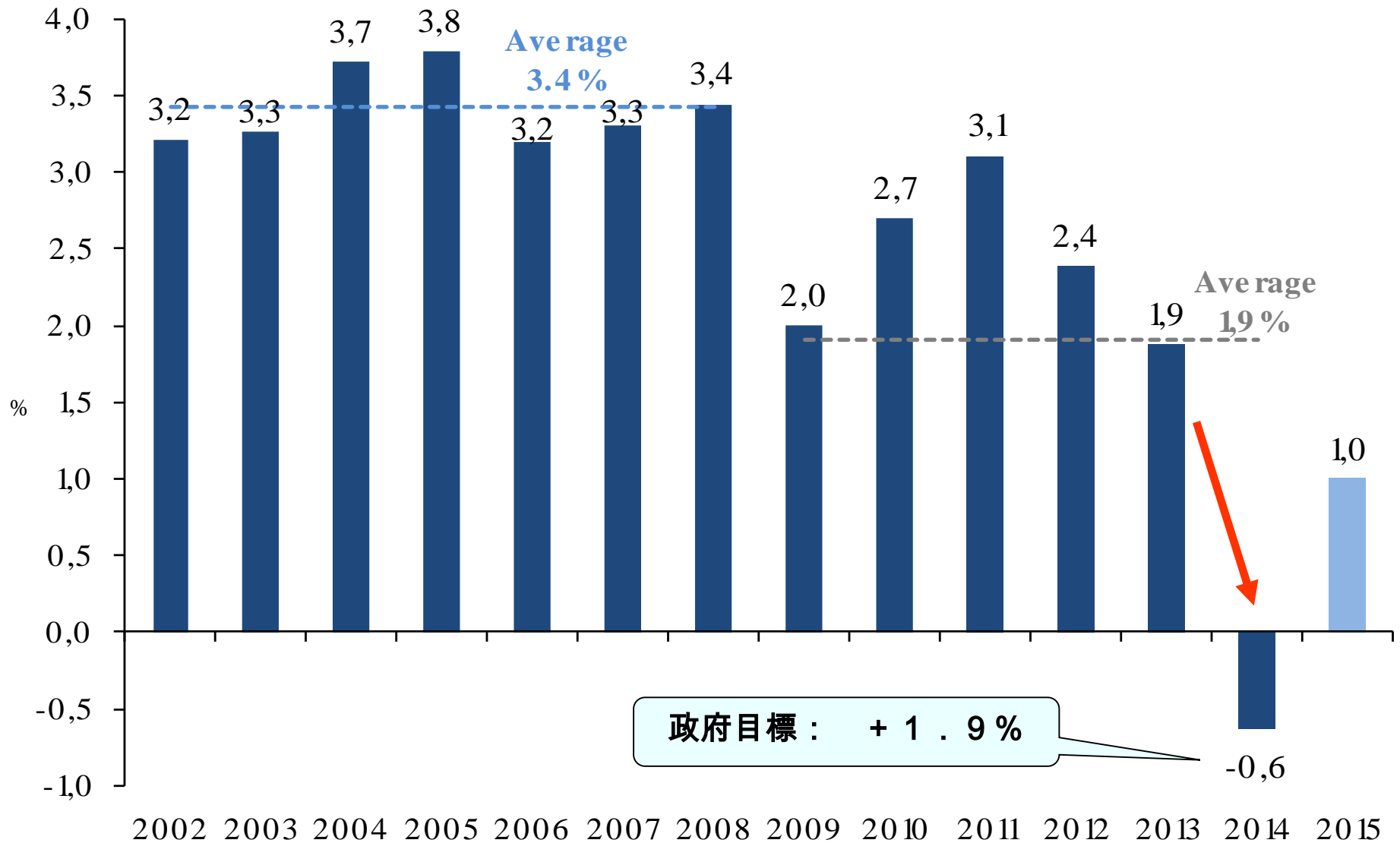
Source: IBGE, Mizuho.

金利・為替レート推移



プライマリー収支(対GDP比)

金融部会

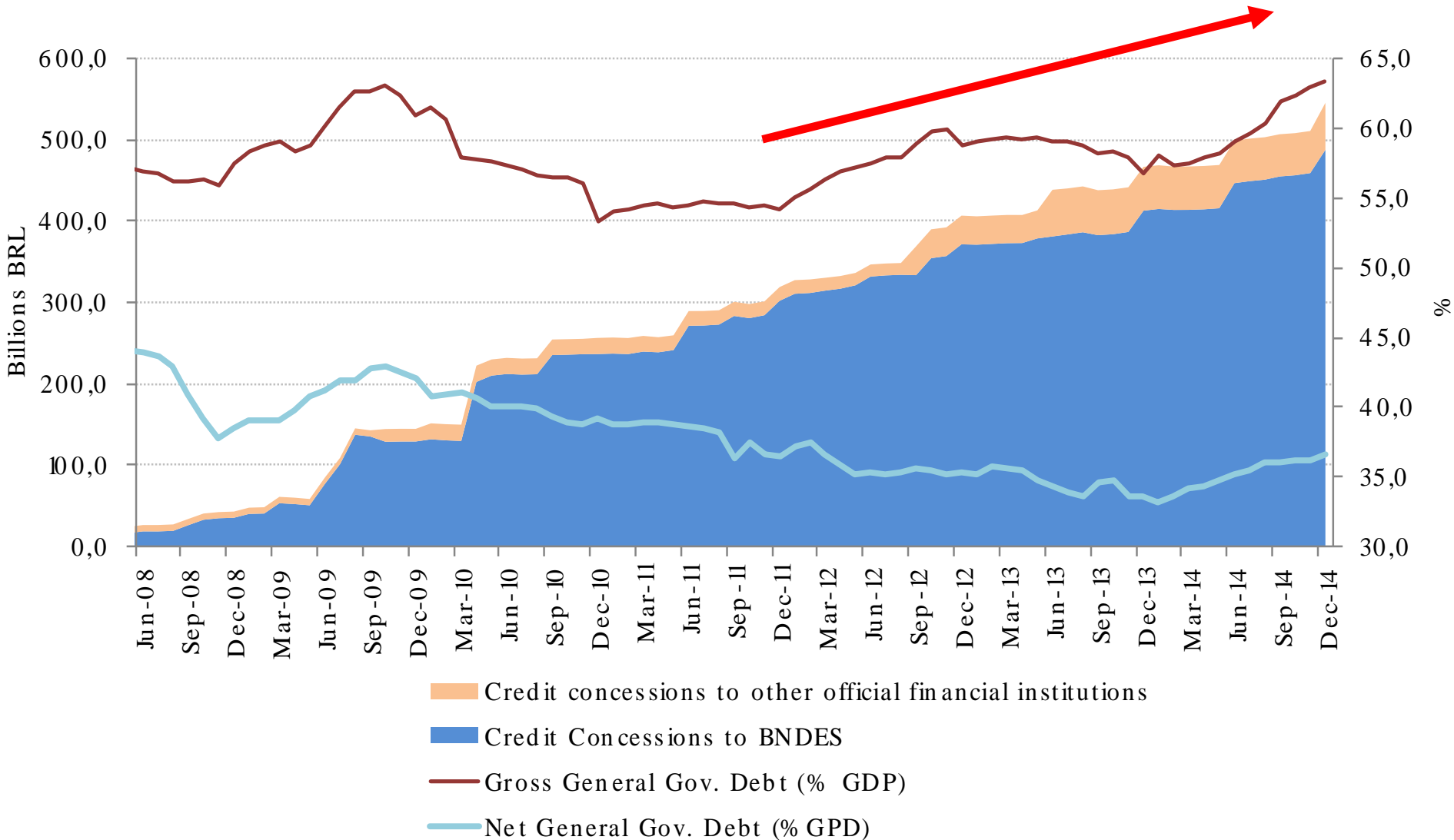


政府目標 : + 1 . 9 %

Source: Bloomberg, Mizuho.

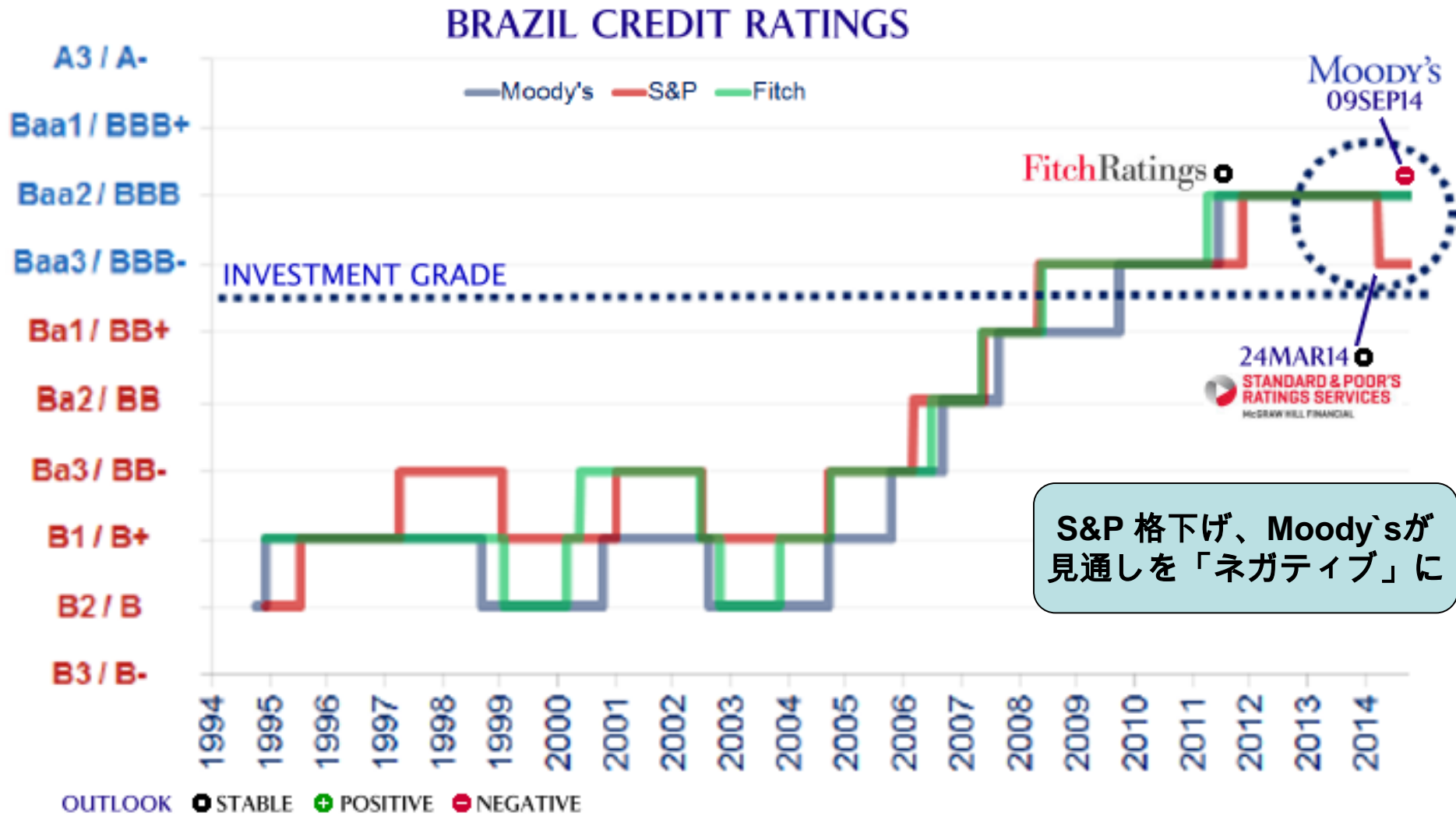
政府債務・公的金融機関貸出

金融部会



Source: BCB, Mizuho.

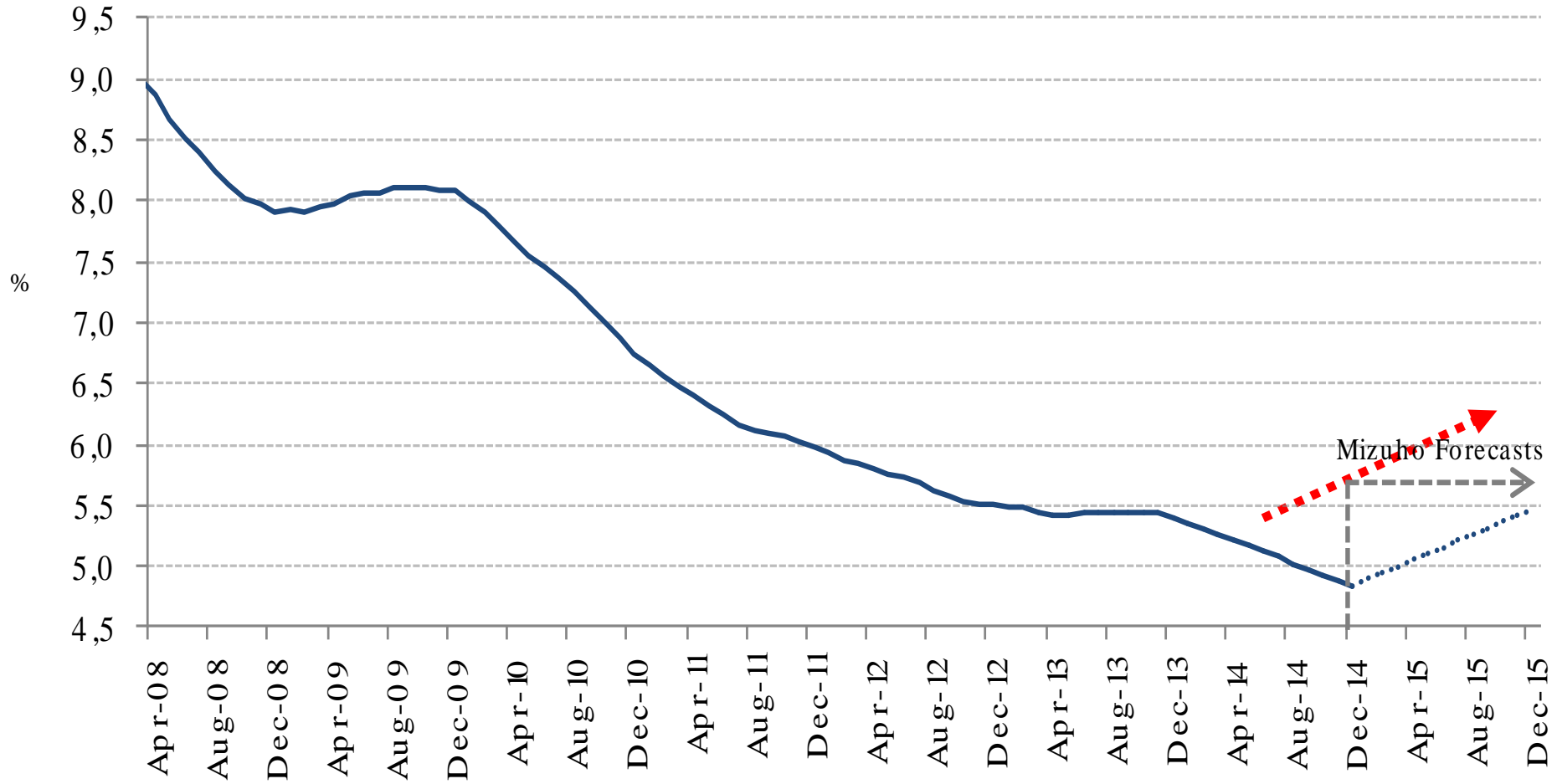
ソブリン格付



S&P 格下げ、Moody'sが見通しを「ネガティブ」に

失業率

金融部会

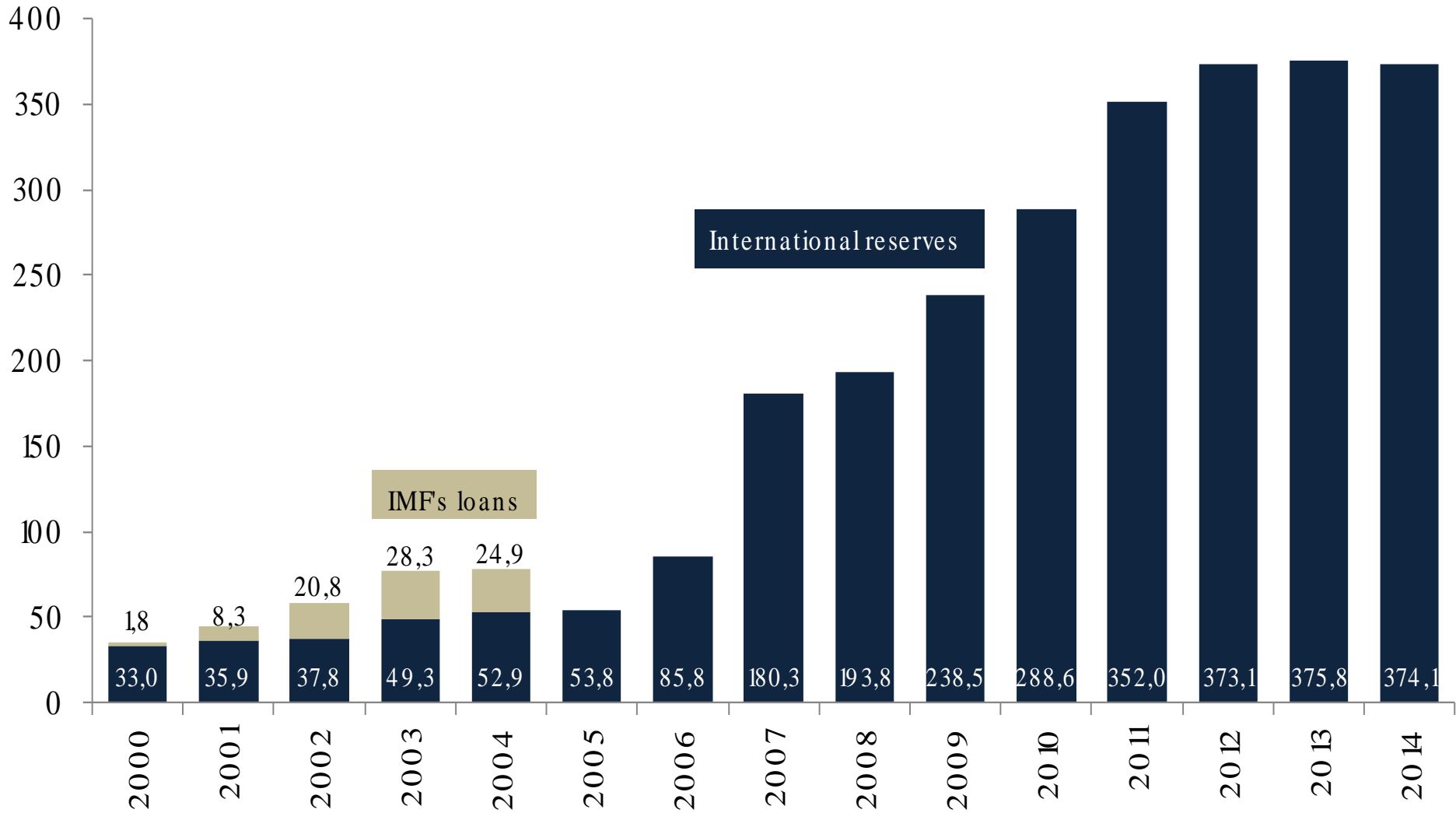


Source: IBGE, Mizuho

外貨準備高

金融部会

Billions USD



Source: BCB, Mizuho

第二次ルセフ政権新経済閣僚の顔ぶれ

金融部会



ネルソン・バルボザ
企画予算管理大臣

1969年 財生まれ (45歳)
1992年 財連邦大卒経済学士
2001年 米コロンビア大経済博士
1994~97年 ブラジル中銀
2003年 企画・予算管理省
2004~06年 BNDES
2006~13年 財務省

2013年には財務省経済政策局長を辞任。国庫庁長官との確執が原因？。
1月2日に最低賃金の抑制を発表するも、大統領の反対により即日撤回。



ジョアキン・レビ
財務大臣

1961年 財生まれ(53歳)
1984年 財連邦大学卒
1992年 リゴ大学経済学博士
1999~00年 欧州中銀エコノミスト
2001~02年 企画省主席エコノミスト
2003~06年 財務省国庫局長
2007~09年 財州政府財務長官

国庫局や財財務長官時代に歳出削減を進め、はさみの手 (Mão de Tesoura) と呼ばれた財政規律重視派。
財州政府財務長官時代は、同州の投資適格格付け取得に貢献。



アレシャンドレ・トンビニ
中央銀行総裁

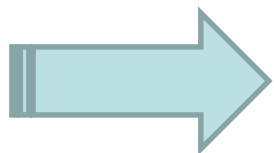
1963年 ポルア生まれ(51歳)
1984年 ブラジル大卒経済学士
1991年 米イリノイ大経済博士
1991~95年 財務省
1995~98年 大統領府
1998年~ ブラジル中銀
2011年~ 現職

第一次ルセフ政権からの留任。独断的な行動は取らず柔軟な姿勢 (大統領のいいなり) に変化の兆しも？。

既の実施あるいは発表された経済政策

レビ財務相は、「プライマリー収支黒字目標（2015年+1.2%、2016/17年+2.0%以上）」、「財政運営の透明性を高めること」等を方針とする旨発表。

- 個人向け融資に対するIOF（金融取引税）を1.5%から3%へ
- 燃料に対するPIS/COFINS（社会統合基金/社会負担金）の増税（ガソリンR\$0.22/ℓ、ディーゼルR\$0.15/ℓ）及びCIDE（特別財源負担金）の復活
- 化粧品の卸売りに対するIPI（工業製品税）適用
- 輸入品に対するPIS/COFINSを9.25%から11.75%へ引き上げ
- 長期金利（TJLP）を5%から5.5%へ引き上げ（BNDESの貸出抑制する方針）
- 自動車に対するIPIの減税恩典策の撤廃
- 失業保険、年金制度の運用厳格化



- ・ 2015年内に総額206億レアルの増収を見込む
- ・ 2015年は調整の年に？
- ・ 新経済スタッフの政策運営の自由度が鍵

2015年ブラジル経済の展望

金融部会

指標	予測値	メインシナリオ (2015年1月末時点)
GDP成長率 (前年比%)	▲0.4 ~ 0.5	✓ 高水準のインフレ・金利が消費マインドを冷やす一方、公共支出の抑制、IPI減税廃止等により鉱工業生産も伸び悩み、景気低迷。2014年に引き続きほぼゼロ成長。
インフレ率 (IPCA%)	6.5 ~ 7.0	✓ 新政権による増税や水不足による公共料金値上げもあり、インフレはターゲット上限6.5%を超えて高止まり。
年末為替レート (リアル/ドル)	2.65 ~ 2.85	✓ 為替のリアル安要因としては、商品価格下落や米国の利上げ開始。リアル高要因としては、レビ財務相が主導する緊縮財政政策(歳出抑制と増税)への高評価、米国の利上げ観測の後退、等があげられよう。
年末政策目標金利 (%)	12.5 ~ 12.75	✓ 財政面での改善が顕著となればこれが呼び水となり、経済への信頼が戻り投資の回復の兆しが表れる可能性も。

2015年ブラジル経済の展望

金融部会

指標	予測値	リスクシナリオ (2015年1月末時点)
GDP成長率 (前年比%)	▲2.0 ~ 0.0	
インフレ率 (IPCA%)	6.2 ~ 7.1	<p>✓レビ財務相とルセフ大統領の関係悪化により、財政改善策の実現性が後退。 (⇒ 政権支持率低下、失業率上昇、等のシグナルに注意)</p>
年末為替レート (リアル/ドル)	3.0 ~ 3.1	<p>✓国債格下げのリスクが高まり、為替レートはUS\$=R\$3.00を超える水準に上昇。</p> <p>✓高金利、高インフレが重なり負のスパイラルに。</p>
年末政策目標金利 (%)	10.0 13.0 ~ 13.5	<p>✓加えてペトロプラス問題が泥沼化、反政府デモ活発化等社会不安も顕在化。</p>

貸出残高推移

金融部会

貸金残高推移

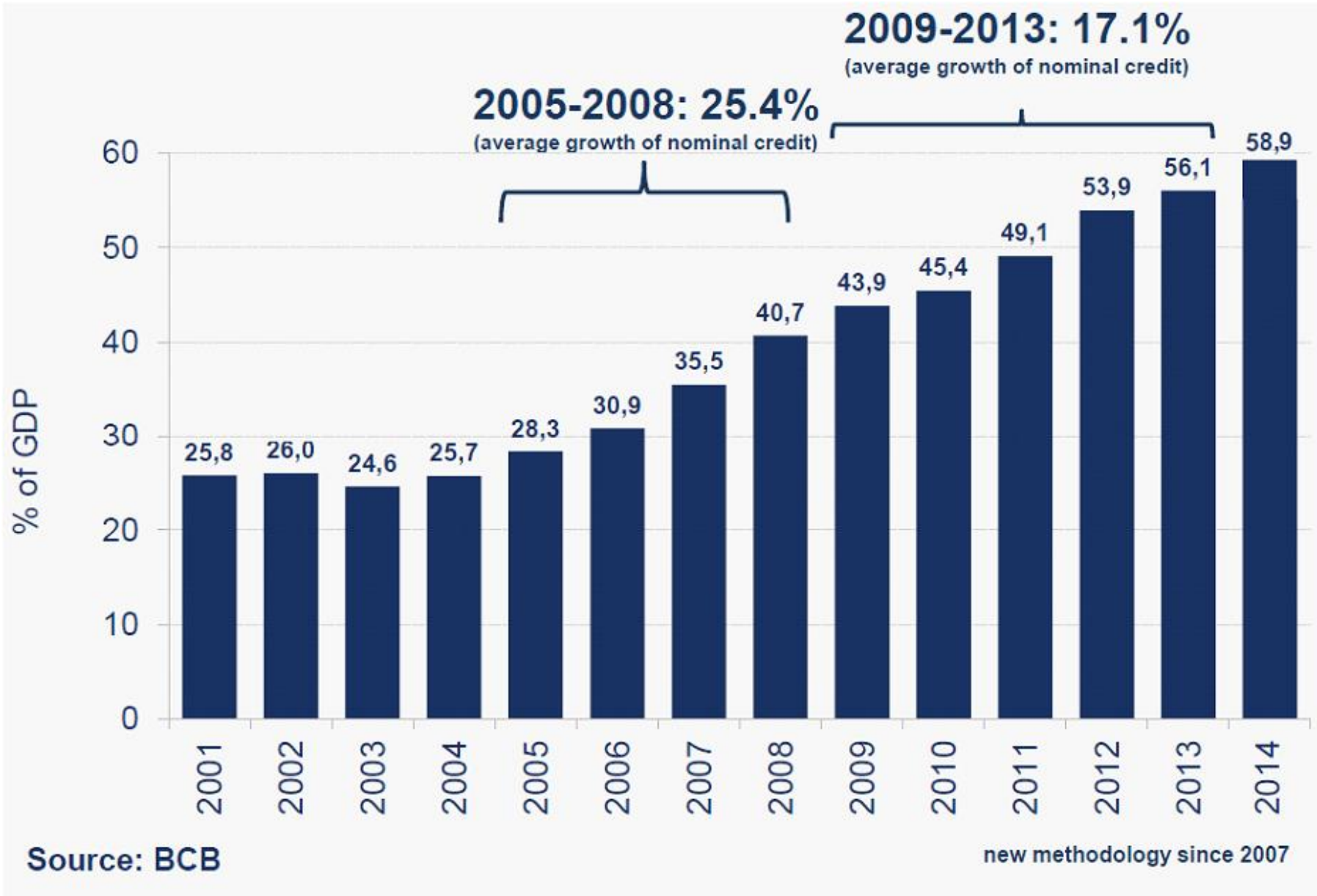
(BRL Bi)

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
個人	236	314	390	462	549	642	709	768	786
(同増加率)	N/A	33%	24%	19%	19%	17%	10%	8%	↓ 2%
住宅	36	46	63	92	139	221	298	395	502
(同増加率)	N/A	28%	38%	45%	51%	59%	35%	33%	↓ 27%
農業	78	89	106	112	124	141	167	218	258
(同増加率)	N/A	15%	19%	6%	10%	14%	18%	31%	↓ 18%
法人	383	487	668	748	894	1 030	1 194	1 334	1 454
(同増加率)	N/A	27%	37%	12%	20%	15%	16%	12%	↓ 9%
内BNDES	139	160	209	283	358	418	476	552	638
(同増加率)	N/A	15%	31%	35%	26%	17%	14%	16%	→ 16%
合計	733	936	1 227	1 414	1 706	2 034	2 368	2 715	3 000
(同増加率)	N/A	28%	31%	15%	21%	19%	16%	15%	↓ 10%

出所：ブラジル中央銀行

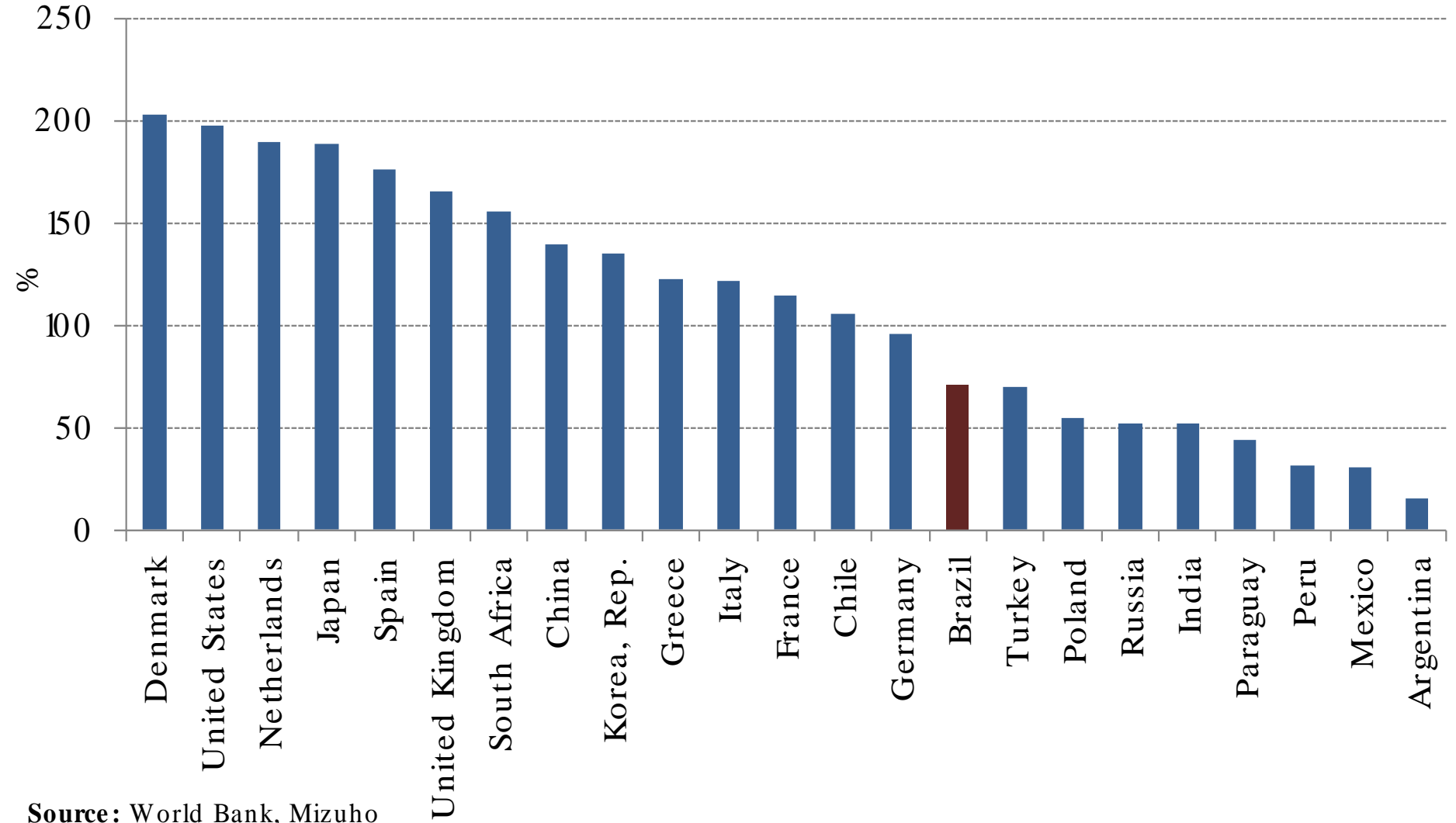
貸出残高/対GDP比率

金融部会



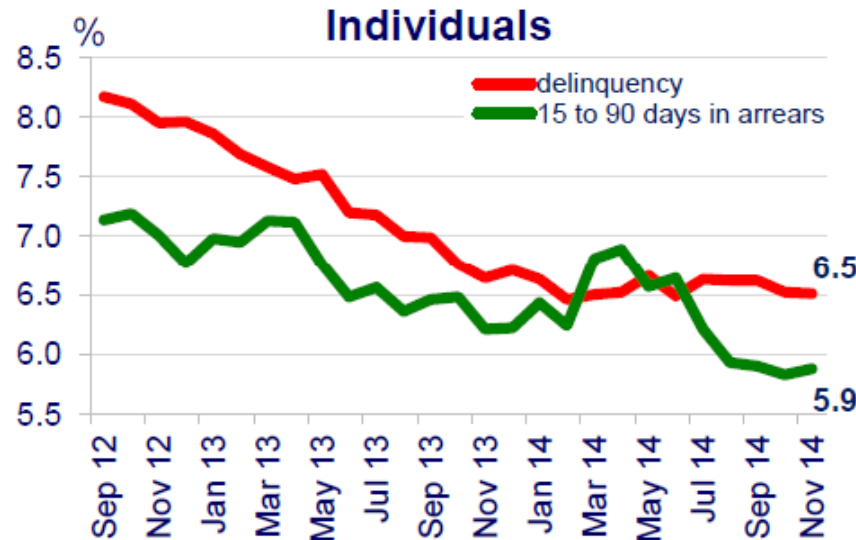
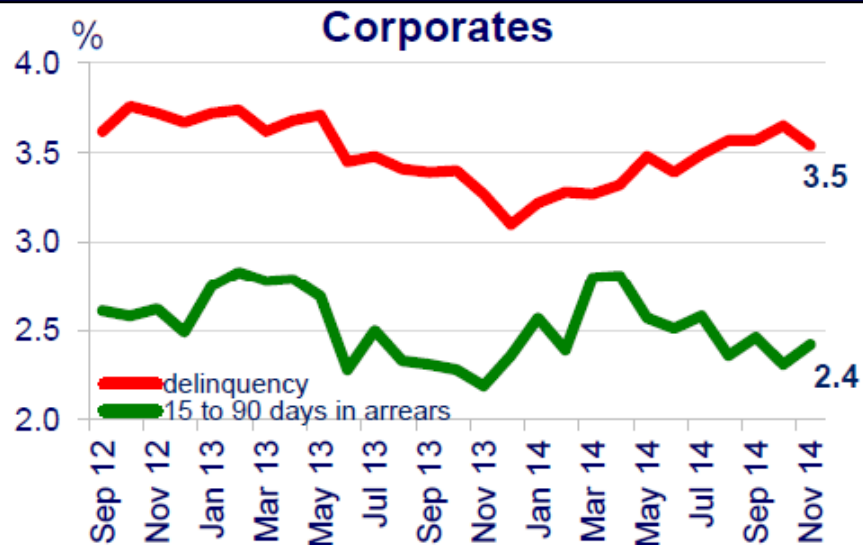
国別貸出残高/GDP比率

金融部会



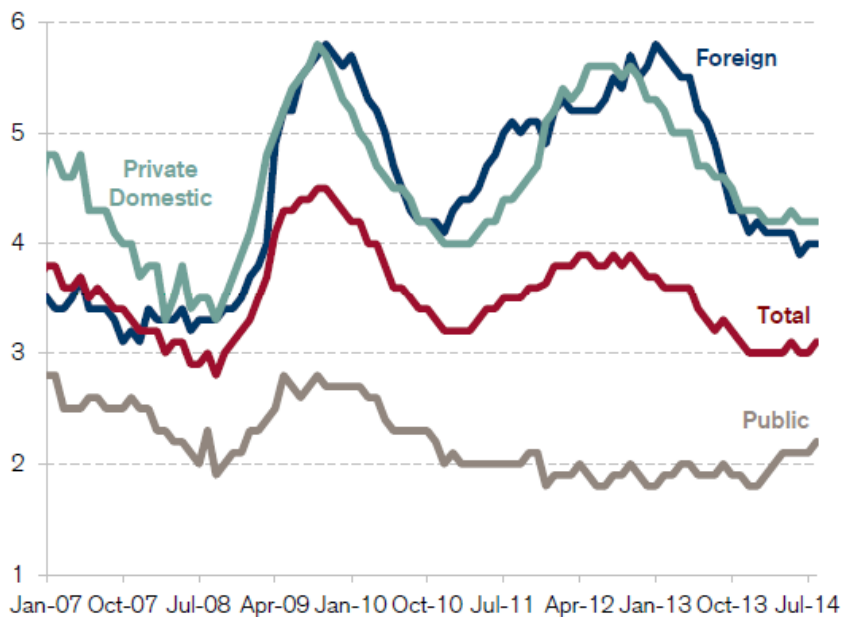
Source: World Bank, Mizuho

延滞率推移



Source: BCB

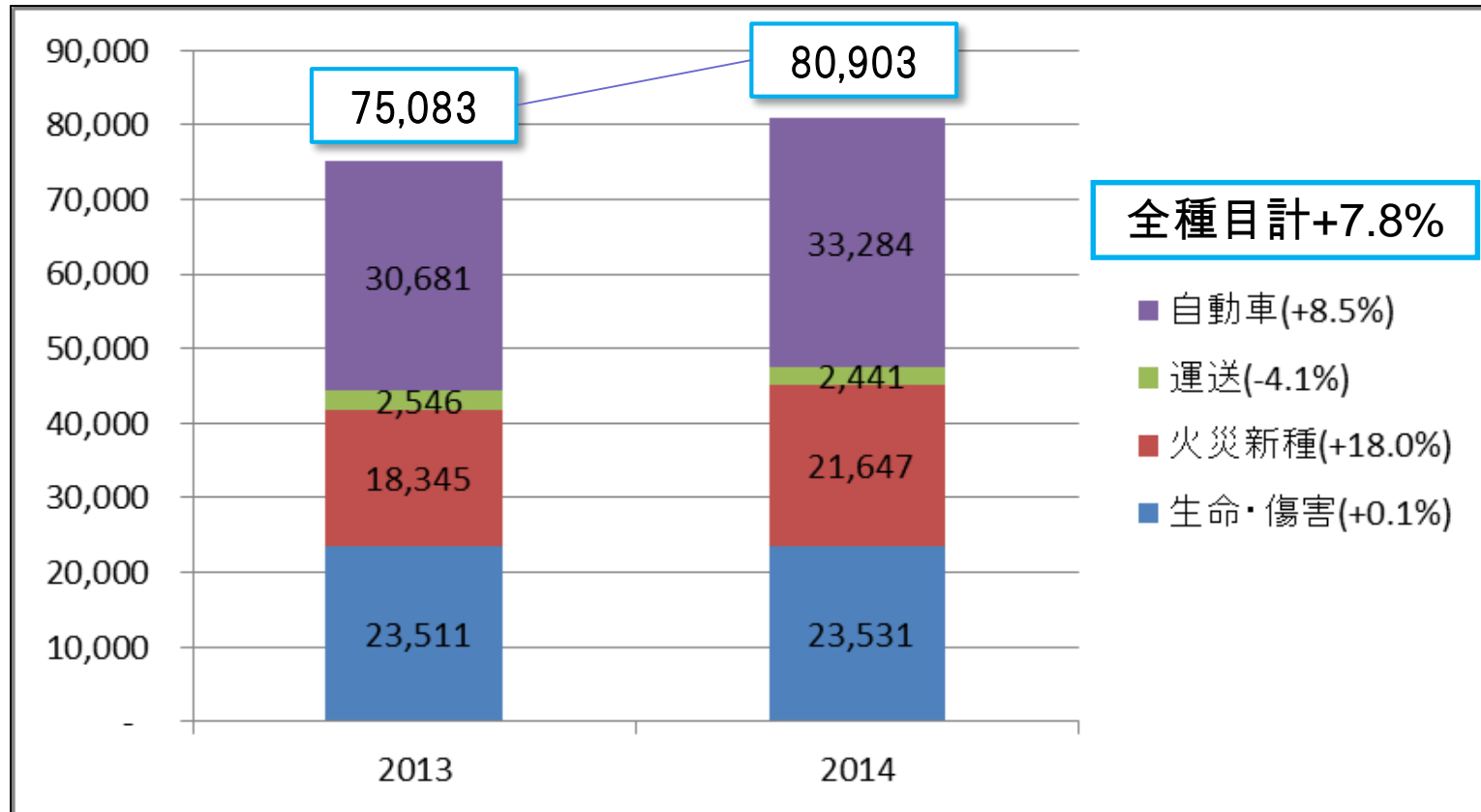
Historic 90-day NPL ratio (%)
Marked and unmarked loans (Aug/14)



Source: Central Bank, Credit Suisse Research

2014年1-11月の保険料収入と増収率

単位：R\$ Milhão



ブラジル経済の成長鈍化と共に、保険業界の成長も鈍化しています。

2014年の保険種目別損害率

保険種目	2013年1-11月	2014年1-11月	前年比
自動車	65.0%	64.2%	↓-0.8%
火災新種	31.7%	38.9%	↑7.2%
運送	59.3%	66.1%	↑6.8%
損害保険計	52.2%	54.4%	↑2.2%
生命・傷害	31.7%	31.7%	→0.0%
合計	47.5%	49.7%	↑2.2%

※保険監督庁 (SUSEP) が、2014年度から損害率の定義を以下のとおり変更。

損害率 : 2013年度 ⇒ 正味損害率、2014年度 ⇒ グロス損害率

正味損害率は、グロス損害率より再保険収支の影響を除いたもの。

損害率は全般的に悪化傾向であり、特に企業を対象とした火災新種保険、運送保険については損害率が7%前後悪化しています。

ブラジル保険市場の将来性

市場規模		保険普及			
保険料 (US\$ Billion)		保険料/GDP		保険料/人 (US\$)	
米国(1)	1,263	米国(14)	7.51%	米国(10)	3,992
日本(2)	494	日本(8)	10.26%	日本(11)	3,888
英国(3)	326	英国(7)	10.80%	英国(7)	4,551
伯国(12)	83	伯国(42)	3.68%	伯国(45)	413

※()は、世界ランキング

ブラジルは他の先進国と比べ保険の普及が低く、一人当たり保険料は世界45位であることから、中長期的には更なる保険市場の拡大が見込まれています。

コンサルタント 部会

関根 実 部会長

Departamento de Consultoria e Assessoria

Presidente: Minoru Sekine

Brazilian Market World Ranking

コンサルタント部会 2015.02.24

2014年の回顧と2015年の展望

▶ 投資Advisory業務：

新規単独投資案件は中断（取止めもあり）

M&A案件は継続（決定に時間を要している）

税務Advisory業務は増加

▶ リクルート業務：

増員案件から入替え案件へ

▶ 証券投資Advisory業務：

OGX、Petrobrasで失墜した信用回復待ち

2015年 IMF 世界経済成長見通し

▶ 全世界	3.5%	新興国	4.3%
▶ 米国	3.6%	中国	6.8%
▶ EURO圏	1.2%	インド	6.3%
▶ 日本	0.6%	南ア	
▶	2.1%	ブラジル	0.3%
▶	1.4%	ロシア	-

ブラジル経済再生には数年を要する。

$$\text{GDP} = \text{Consum.} + \text{Invest.} + (\text{Exp.} - \text{Imp.})$$

▶ 経済成長に必要な条件

資本、労働力、生産性向上

(技術革新、労働生産性)

世界的に競争力があるブラジル製品

鉱産物：

- ▶ 鉄鉱石生産 No.3 (中、豪に次ぐ)
- ▶ 輸出 No.2 (豪に次ぐ)

農牧産品：

- ▶ 穀物生産 No.4 (中、米、印に次ぐ)
- ▶ サトウキビ No.1

▶大豆 No.2 (米に次ぐ)

▶コーヒー豆 生産 No.1、輸出
No.1

消費 No.2 (米に次
ぐ)

▶カカオ豆生産 No.6

▶オレンジ生産 No.1

▶綿花生産 No.5

▶ とうもろこし生産 No.3 (米、
中に次ぐ)
輸出 No.3 (米、
亜に次ぐ)

▶ 葉煙草生産 No.2 (中に次ぐ)

▶ 牛肉生産 No.2 (米に次ぐ)
輸出 No.2 (豪に次ぐ)

▶牛原皮生産 No.1

▶牛乳生産 No.4 (米、印、
露に次ぐ)

▶鶏肉生産 No.2 (米に次
ぐ)

▶豚肉生産 No.4 (米、独、
西に次ぐ)

工業製品：

食品：

▶ 砂糖生産 No.1、輸出 No.1

▶ オレンジジュース生産 No.1、輸出
No.1

▶ バター生産 No.10

▶ マーガリン生産 No.2 (露に
次ぐ)

▶ チーズ生産 No.6

- ▶ ビール生産 No.3 (米、中に次ぐ)
- ▶ 蒸留酒生産 No.2 (日本に次ぐ)
- ▶ Soft Drink生産 No.2 (日本に次ぐ)
- ▶ Mineral Water生産 No.4
- ▶ エタノール生産 No.2 (米に次ぐ)

素材：

- ▶ 粗鋼生産 No.9
- ▶ 木材パルプ生産 No.4 (米、加、日に次ぐ)
- ▶ セメント生産 No.5 (中、印、米、イランに次ぐ)

輸送機・機械：

- ▶ 自動車販売 No.4
(中、米、日に次ぐ)
- ▶ 自動車生産 No.7
(中、米、日、独、韓、
印に次ぐ)
- ▶ 防弾車加工 No.1
- ▶ 二輪車生産 No.5 (中、印、IN、
タイに次ぐ)

航空機製造

EMBRAER No.4 (Boeing, Airbus,
Bombardierに次

ぐ)

ヘリコプター運航

- ▶ No.1 São Paulo
- ▶ No.2 New York
- ▶ No.3 東京
- ▶ No.4 Rio de Janeiro
- ▶ No.5 London
- ▶ No.6 Belo Horizonte

家電：

- ▶ 冷蔵庫生産 No.3 (中、印に次ぐ)
- ▶ 洗濯機生産 No.2 (中に次ぐ)
- ▶ Room Aircon.需要 No.4 (中、日、米に次ぐ)

衣料・化粧品：

- ▶ 衣料販売 No.5
- ▶ 化粧品販売 No.2 (米に次ぐ)

医療：

- ▶ 糖尿病患者数 No.4 (中、印、米に次ぐ)
- ▶ 美容整形手術件数 No.2 (米に次ぐ)

IT :

- ▶ 携帯電話契約数 No.6
- ▶ Internet User数 No.5 (中、米、日、印に次ぐ)
- ▶ Facebook User数 No.2 (米に次ぐ)
- ▶ Game販売 Latin America 中No.1

金融：

▶ 中銀米ドル売り介入 No.1

▶ 国債利回り（10年物） 伯 12.6%
PA

中 3.4%、印 7.7%、南ア
7.5%

露 12.1%、トルコ 7.7%、ギリシャ
10.2%

その他：

▶ 淡水資源 No.1なのに水不足

▶ 雷発生数 No.1で強烈

Muito obrigado.

Ánimo!

コンサルタント部会

2015.02.24

貿易 部会

寺本 将人 副部会長

Departamento de Comércio Exterior

Vice Presidente: Masahito Teramoto

2014年 ブラジル貿易動向

2015年2月24日
ブラジル日本商工会議所
貿易部会

1. 総括

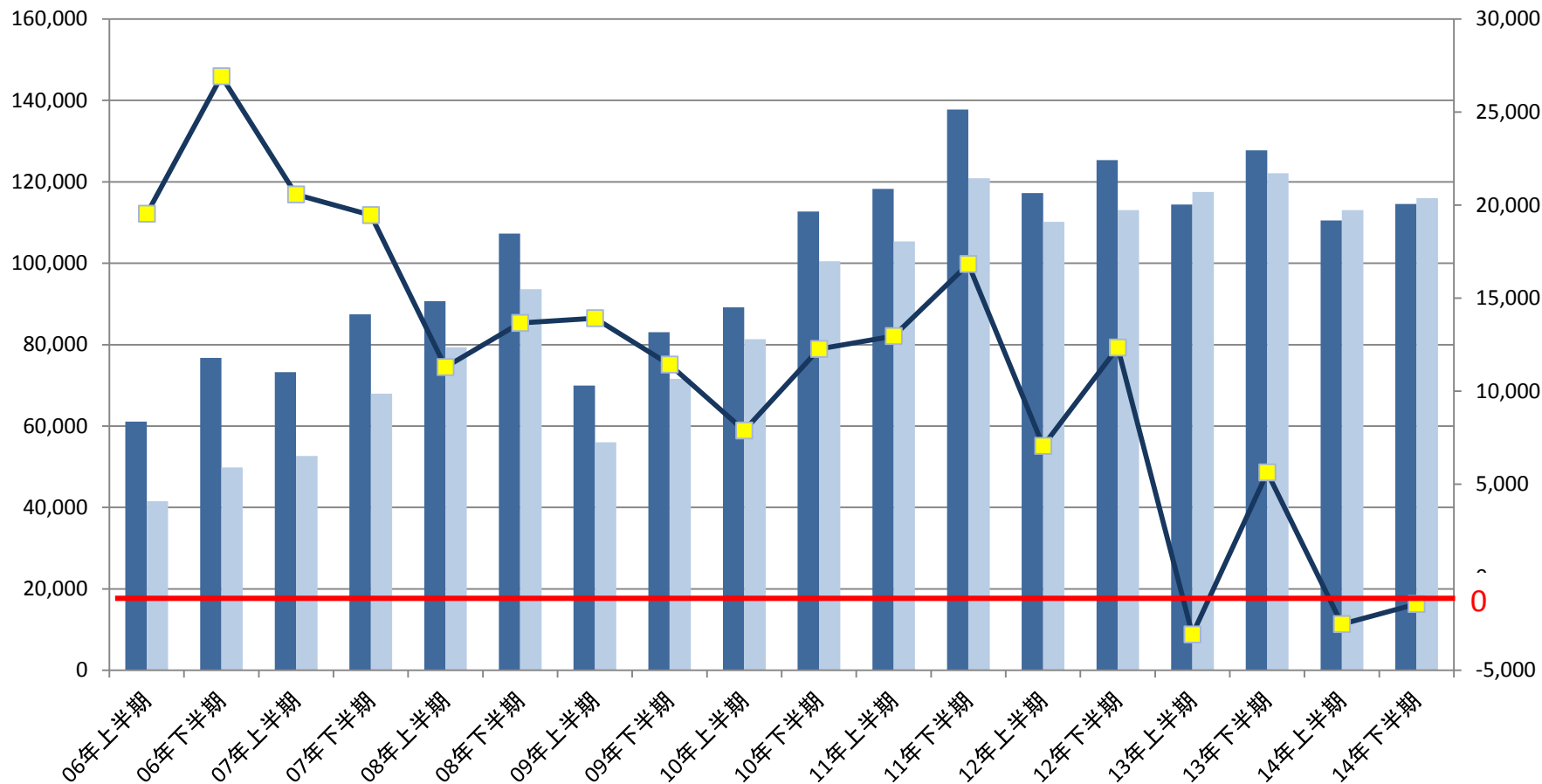
半期ごとの輸出入額の推移

(単位:百万ドル)

<輸出入額>

<貿易収支>

■ 輸出額 ■ 輸入額 ■ 貿易収支



<出所> 開発商工省貿易局 (SECEX)

為替レート 2013年 R\$2.17/US\$
(期中平均) 2014年 R\$2.35/US\$

2. 輸出 ～主要商品別～

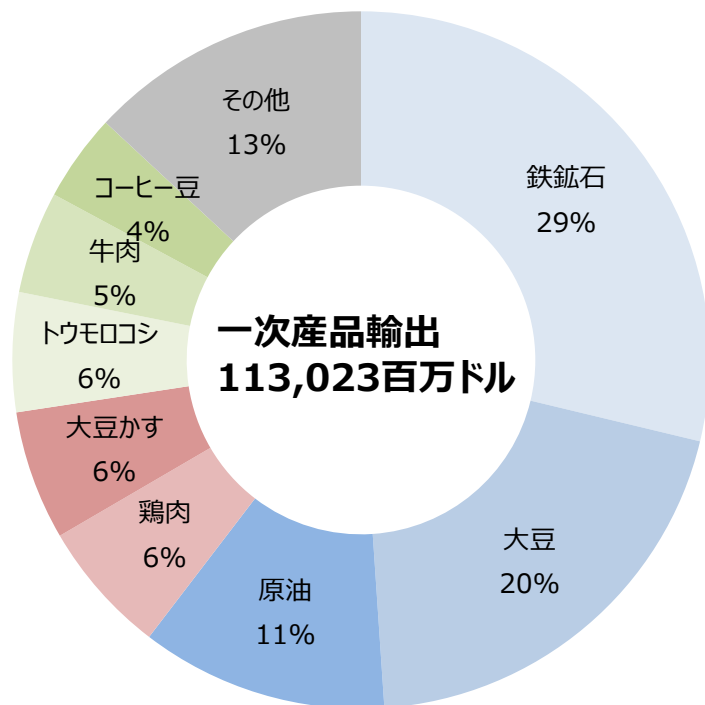
金額: 単位百万ドル

数量: 単位千トン(*乗用車のみ単位は「台数」)

	2013年			2014年				
	金額	金額構成比	数量	金額	金額構成比	金額増減率	数量	数量増減率
一次産品	113,023	46.7%	4,612,006	109,556	48.7%	-3.1%	4,807,308	4.2%
鉄鉱石	32,492	13.4%	3,296,387	25,819	11.5%	-20.5%	3,443,848	4.5%
大豆	22,812	9.4%	427,961	23,277	10.3%	2.0%	456,920	6.8%
原油	12,957	5.4%	198,545	16,357	7.3%	26.2%	270,581	36.3%
大豆かす	6,787	2.8%	133,335	7,001	3.1%	3.2%	137,163	2.9%
半製品	30,526	12.6%	445,005	29,065	12.9%	-4.8%	442,640	-0.5%
粗糖	9,164	3.8%	215,219	7,450	3.3%	-18.7%	192,611	-10.5%
化学木材パルプ	5,179	2.1%	98,483	5,290	2.4%	2.1%	110,285	12.0%
鉄鋼半製品	2,710	1.1%	52,733	3,194	1.4%	17.9%	62,951	19.4%
毛皮	2,492	1.0%	4,828	2,936	1.3%	17.8%	4,886	1.2%
工業製品	92,945	38.4%	471,904	80,211	35.6%	-13.7%	459,043	-2.7%
航空機	3,830	1.6%	30	3,430	1.5%	-10.4%	27	-10.0%
燃料	3,869	1.6%	63,134	3,428	1.5%	-11.4%	57,517	-8.9%
乗用車	5,485	2.3%	* 461,402	3,195	1.4%	-41.8%	* 265,620	-42.4%
自動車・トラクター部品	3,306	1.4%	4,292	2,579	1.1%	-22.0%	3,444	-19.8%
その他	5,540	2.3%	56,073	6,269	2.8%	13.2%	58,313	4.0%
輸出総額	242,034	100.0%	5,584,988	225,101	100.0%	-7.0%	5,767,304	3.3%

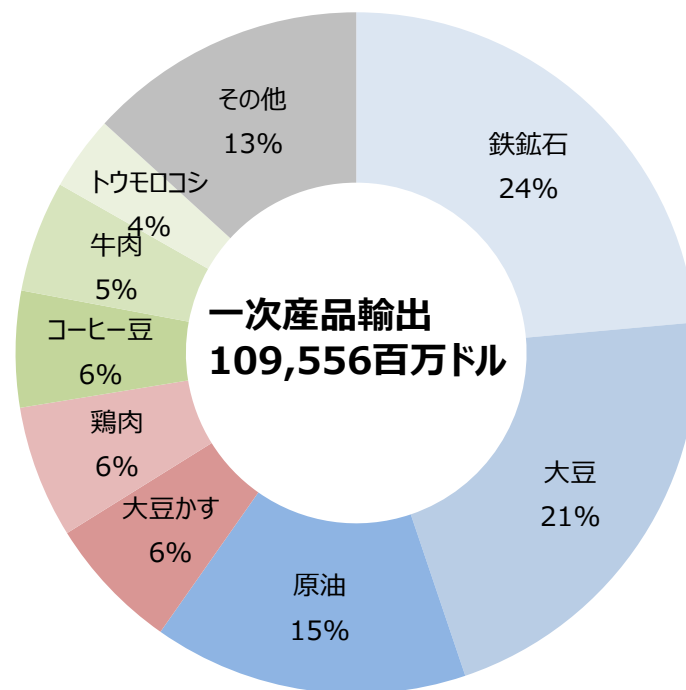
2. 輸出 ～一次産品内訳グラフ～

2013年



商品名	構成比	金額
鉄鉱石	29%	32,492
大豆	20%	22,812
原油	11%	12,957
鶏肉	6%	7,004
大豆かす	6%	6,787
トウモロコシ	6%	6,251
牛肉	5%	5,359
コーヒー豆	4%	4,582
その他	13%	14,779
合計	100%	113,023

2014年



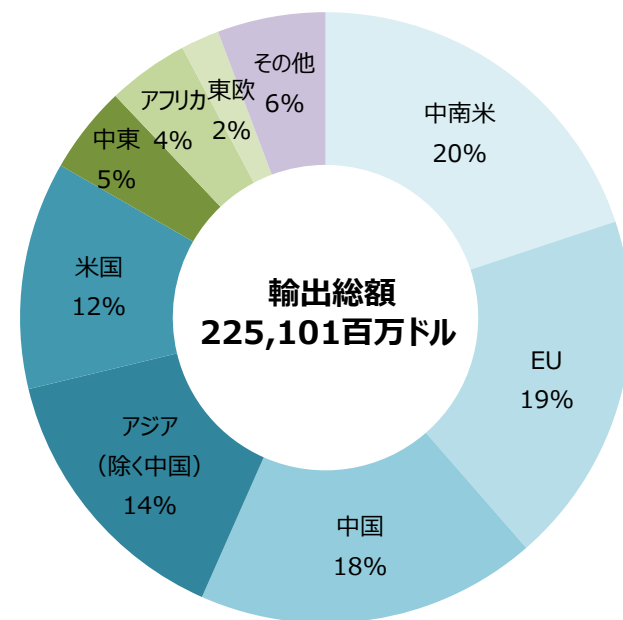
商品名	構成比	金額
鉄鉱石	24%	25,819
大豆	21%	23,277
原油	15%	16,357
大豆かす	6%	7,001
鶏肉	6%	6,893
コーヒー豆	6%	6,041
牛肉	5%	5,794
トウモロコシ	4%	3,876
その他	13%	14,498
合計	100%	109,556

2. 輸出 ～主要国/地域別～

(単位:百万ドル)

国名	2013年	2014年		
		金額	構成比	増減率
中国	46,026	40,616	18.0%	-11.8%
米国	24,653	27,028	12.0%	9.6%
アルゼンチン	19,615	14,282	6.3%	-27.2%
オランダ	17,333	13,036	5.8%	-24.8%
日本	7,964	6,719	3.0%	-15.6%
ドイツ	6,552	6,633	2.9%	1.2%
チリ	4,484	4,984	2.2%	11.2%
インド	3,130	4,789	2.1%	0.0%
ベネズエラ	4,850	4,632	2.1%	-4.5%
イタリア	4,098	4,021	1.8%	-1.9%
その他	99,227	94,501	42.0%	-4.8%
輸出総額	242,034	225,101	100.0%	-7.0%

地域別構成比率



<出所> 開発商工省貿易局 (SECEX)

3. 輸入 ～主要商品別～

金額: 単位百万ドル

数量: 単位千トン(*乗用車のみ単位は「台数」)

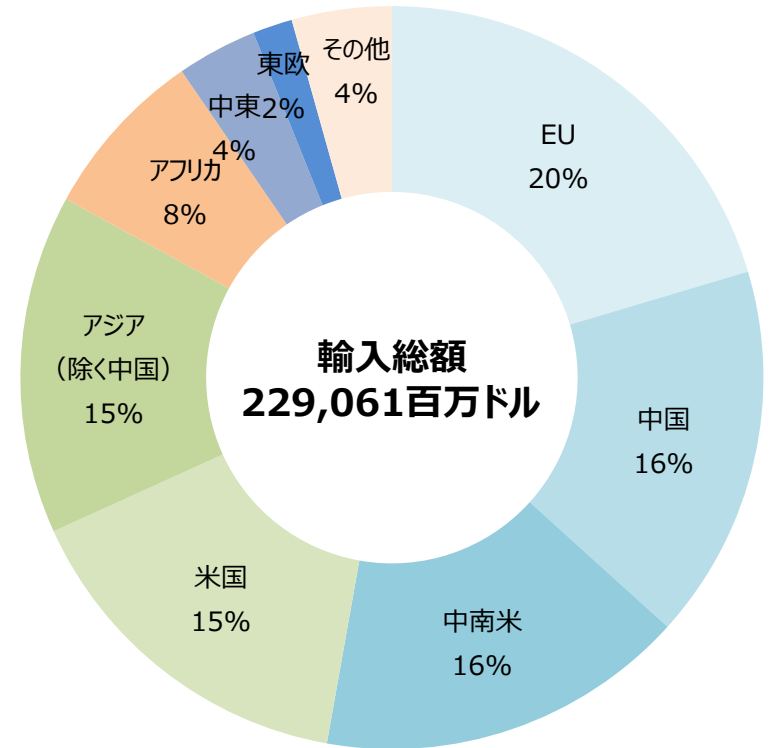
	2013年			2014年				
	金額	構成比	数量	金額	構成比	金額増減率	数量	数量増減率
一次産品	33,432	13.9%	690,137	31,586	13.8%	-5.5%	712,208	3.2%
原油	16,321	6.8%	193,116	15,533	6.8%	-4.8%	192,209	-0.5%
天然ガス	3,991	1.7%	87,859	3,827	1.7%	-4.1%	90,761	3.3%
半製品	8,188	3.4%	97,825	7,818	3.4%	-4.5%	109,634	12.1%
塩化カリウム	3,325	1.4%	81,358	2,897	1.3%	-12.9%	90,513	11.3%
工業製品	198,128	82.6%	807,868	189,655	82.8%	-4.3%	831,247	2.9%
燃料油	8,346	3.5%	88,587	9,036	3.9%	8.3%	100,104	13.0%
乗用車	9,081	3.8%*	586,361	7,676	3.4%	-15.5%*	505,077	-13.9%
自動車・トラクター部品	8,296	3.5%	10,328	7,143	3.1%	-13.9%	8,821	-14.6%
医薬品	6,706	2.8%	337	6,756	2.9%	0.7%	359	6.5%
ナフサ	4,659	1.9%	51,643	5,003	2.2%	7.4%	54,561	5.7%
半導体	4,849	2.0%	34	4,539	2.0%	-6.4%	29	-14.7%
その他	0	0.0%	0	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
輸入総額	239,748	100.0%	1,595,830	229,060	100.0%	-4.5%	1,653,089	3.6%

3. 輸入 ～主要国/地域別～

(単位:百万ドル)

国名	2013年	2014年		
		金額	構成比	増減率
中国	37,304	37,341	16.3%	0.1%
米国	36,019	34,999	15.3%	-2.8%
アルゼンチン	16,463	14,143	6.2%	-14.1%
ドイツ	15,183	13,837	6.0%	-8.9%
ナイジェリア	9,648	9,495	4.1%	-1.6%
韓国	9,492	8,526	3.7%	-10.2%
インド	6,358	6,635	2.9%	4.4%
イタリア	6,719	6,310	2.8%	-6.1%
日本	7,081	5,902	2.6%	-16.7%
フランス	6,499	5,698	2.5%	-12.3%
その他	88,982	86,174	37.6%	-3.2%
輸入総額	239,748	229,060	100.0%	-4.5%

地域別構成比率



<出所> 開発商工省貿易局 (SECEX)

4. 対日貿易

輸出

(単位:百万ドル)

商品名	2013年	2014年		
		金額	構成比	伸び率
鉄鉱石	3,116	2,448	36.4%	-21.4%
鶏肉	973	1,075	16.0%	10.5%
コーヒー豆	455	489	7.3%	7.5%
アルミニウム	409	442	6.6%	8.1%
合金	339	304	4.5%	-10.3%
大豆	329	300	4.5%	-8.8%
とうもろこし	901	233	3.5%	-74.1%
冷凍オレンジ果汁	102	102	1.5%	0.0%
化学木材パルプ	119	101	1.5%	-15.1%
木材チップ	111	100	1.5%	-9.9%
その他	1,111	1,125	16.7%	1.3%
合計	7,965	6,719	100.0%	-15.6%

輸入

(単位:百万ドル)

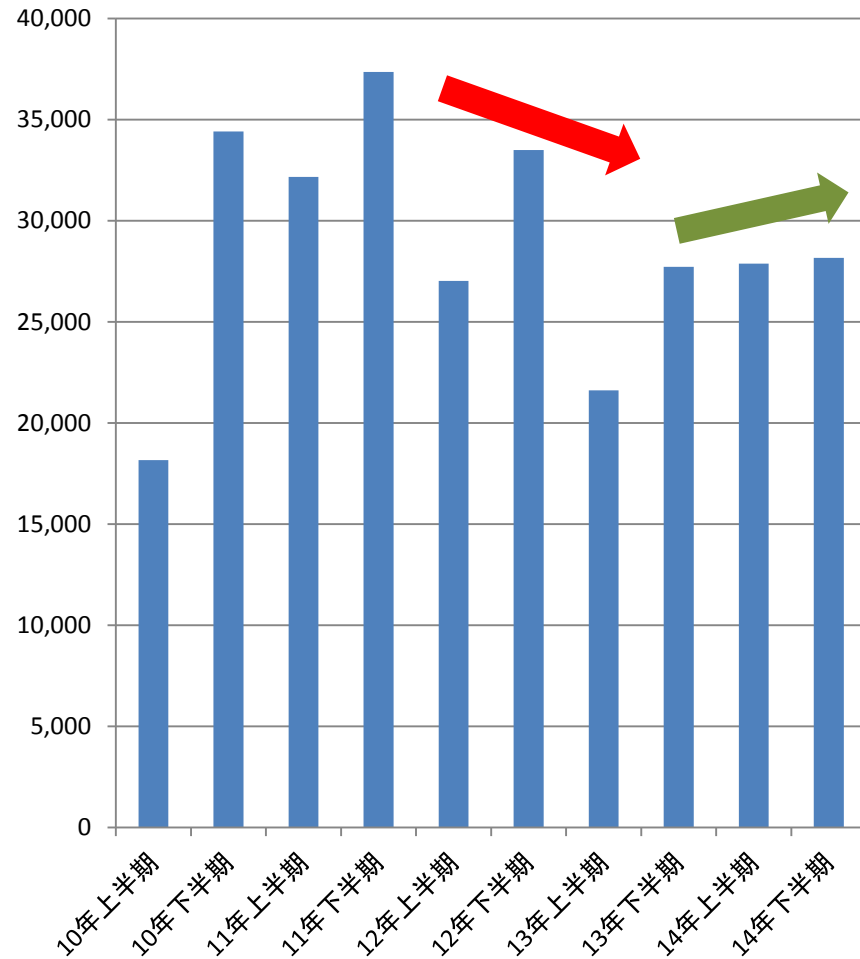
商品名	2013年	2014年		
		金額	構成比	伸び率
自動車・トラクター部品	687	584	9.9%	-15.0%
乗用車	420	418	7.1%	-0.5%
測定機器等	322	271	4.6%	-15.8%
ベアリング・歯車及びそれら部品	273	228	3.9%	-16.5%
自動車エンジン部品	288	203	3.4%	-29.5%
塩化硫化化合物	188	154	2.6%	-18.1%
自動車エンジンおよびそれら部品	139	135	2.3%	-2.9%
半導体	202	130	2.2%	-35.6%
コピー機	128	124	2.1%	-3.1%
ポンプ・コンプレッサー・換気扇等部品	159	121	2.1%	-23.9%
その他	4,276	3,534	59.9%	-17.4%
合計	7,082	5,902	100.0%	-16.7%

<出所> 開発商工省貿易局(SECEx)

5. 対内直接投資 ～推移・国別～

対内直接投資推移

(単位:百万ドル)



国・地域別対内直接投資

国	2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率
オランダ	10,511	8,791	15.7%	-16.4%
米国	9,021	8,537	15.2%	-5.4%
ルクセンブルグ	5,067	6,659	11.9%	31.4%
スペイン	2,246	5,958	10.6%	165.3%
日本	2,516	3,780	6.7%	50.2%
ポルトガル	596	3,160	5.6%	430.2%
フランス	1,489	2,946	5.3%	97.9%
スイス	2,333	1,973	3.5%	-15.4%
英国	1,203	1,726	3.1%	43.5%
ドイツ	1,011	1,574	2.8%	55.7%
チリ	2,963	1,273	2.3%	-57.0%
カナダ	1,215	912	1.6%	-24.9%
イタリア	902	868	1.5%	-3.8%
その他	8,269	7,893	14.1%	-4.5%
合計	49,342	56,050	100.0%	13.6%

中国 40億ドル

<出所> ブラジル中央銀行

5. 対内直接投資～主要業種別～

(単位:百万ドル)

	2013年		2014年		
	金額	構成比	金額	構成比	伸び率
農業, 畜産, 鉱業(その他も含む)	9,990	20.2%	5,621	10.0%	-43.7%
石油・天然ガス採掘	7,131	14.5%	2,158	3.9%	-69.7%
金属鉱物採掘業	822	1.7%	2,149	3.8%	161.3%
工業(その他も含む)	15,218	30.8%	16,920	30.2%	11.2%
基礎冶金業(注)	1,493	3.0%	2,387	4.3%	59.9%
食品	1,487	3.0%	1,547	2.8%	4.1%
化学製品	2,009	4.1%	2,176	3.9%	8.3%
医薬品・薬剤	1,089	2.2%	863	1.5%	-20.7%
自動車・トレーラー・車体	1,867	3.8%	2,914	5.2%	56.1%
サービス業(その他も含む)	23,877	48.4%	33,311	59.4%	39.5%
商業(自動車除く)	6,242	12.6%	5,657	10.1%	-9.4%
金融・同補助サービス	2,952	6.0%	4,763	8.5%	61.4%
保険・同補助サービス	1,933	3.9%	2,040	3.6%	5.6%
不動産	2,005	4.1%	1,641	2.9%	-18.2%
電気・ガス	1,544	3.1%	2,552	4.6%	65.3%
運送業	2,127	4.3%	1,443	2.6%	-32.1%
不動産売買	258	0.5%	199	0.4%	-22.9%
合計	49,342	100.0%	56,050	100.0%	13.6%

[注]製鉄業を含む。

<出所>ブラジル中央銀行

6. まとめ ～2014年総括～

(単位:億ドル)

上期	2013年	(前年比)	2014年	(前年比)
輸出総額	1,144	-2.4%	1,105	-3.4%
輸入総額	1,175	6.7%	1,130	-3.8%
貿易収支	-31	-143.6%	-25	-19.0%
通期	2013年	(前年比)	2014年	(前年比)
輸出総額	2,420	-0.2%	2,251	-7.0%
輸入総額	2,397	7.4%	2,290	-4.5%
貿易収支	23	-88.1%	-39	-269.6%

(参考)2014年8月時点予想

	2013年実績	2014年予想
輸出額	2,420億ドル	2,282億ドル
輸入額	2,397億ドル	2,276億ドル
貿易収支	23億ドル	6億ドル

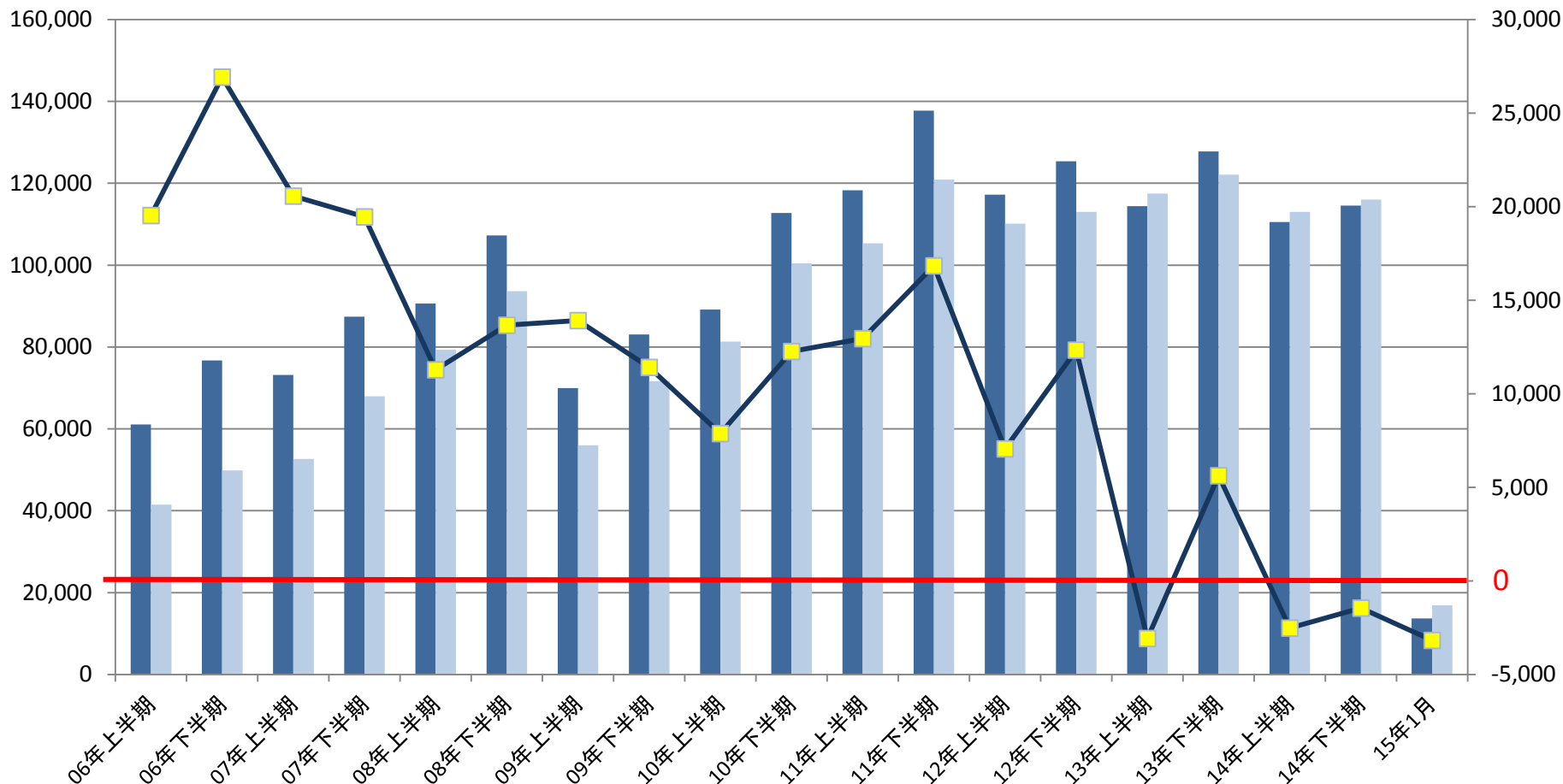
6. まとめ ～2014年総括～

(単位:百万ドル)

<輸出入額>

■ 輸出額 ■ 輸入額 ■ 貿易収支

<貿易収支>



<出所> 開発商工省貿易局 (SECEX)

自動車 部会

近藤 剛史 部会長

Departamento Automotivo

Presidente: Koji Kondo

ブラジル日本商工会議所 業種別部会長シンポジウム 「自動車部会」レポート

2015年2月24日

＜2014年振り返りと2015年展望＞ 再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス

サンパウロ モーター・ショー

四輪業界動向

1. 2014年振り返り
2. 2015年展望
3. 新政権の方針と業界への影響
4. 競争力強化への課題
5. 日系メーカーとしての取組み
6. 総括

二輪業界動向

第28回 サンパウロ モーター・ショー

◆概要

- 期間:10月30日から11月9日(11日間:一般者公開)
- 場所:アニエンビー展示場
- データ:
 - 入場者数 過去最高の756,114人(前回比5,291人増)
(その内女性が240,000人と、割合が増加)
 - 出展メーカー数:41、 展示車:547台と過去最高



第28回 サンパウロ モーター・ショー

◆コンパクト SUV



HONDA



PEUGEOT



CHEVLORET



CITROEN



KIA



LIFAN

◆高級車エントリーモデル



AUDI



VOLVO



VOLVO

第28回 サンパウロ モーター・ショー

◆エコカー



HONDA



TOYOTA



MITSUBISHI



SMART



BMW



KIA



HONDA



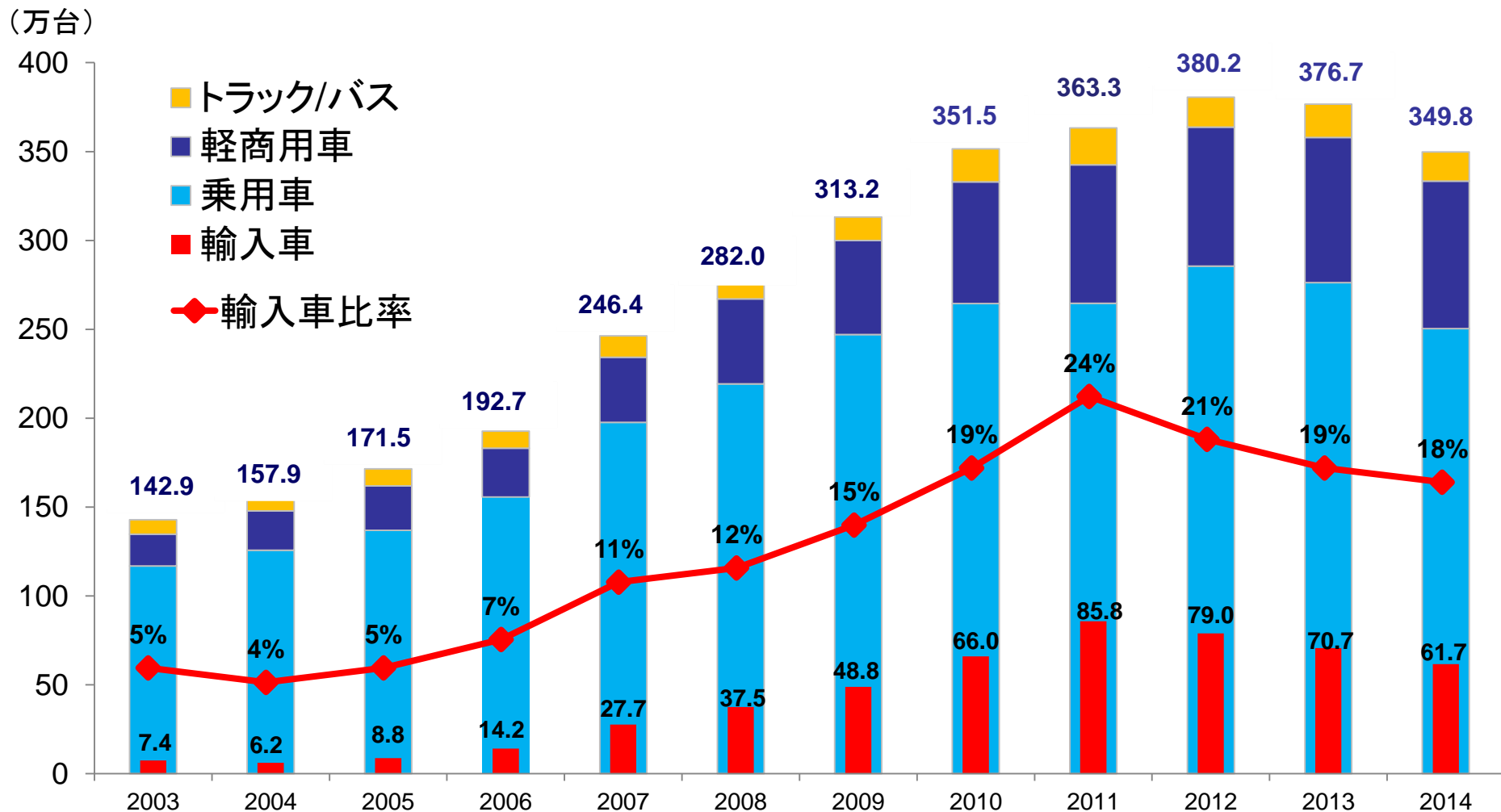
TOYOTA

四輪業界動向

1. 2014年振り返り
2. 2015年展望
3. 新政権の方針と業界への影響
4. 競争力強化への課題
5. 日系メーカーとしての取組み
6. 総括

1.1 2014年振り返り ―四輪車販売台数 推移

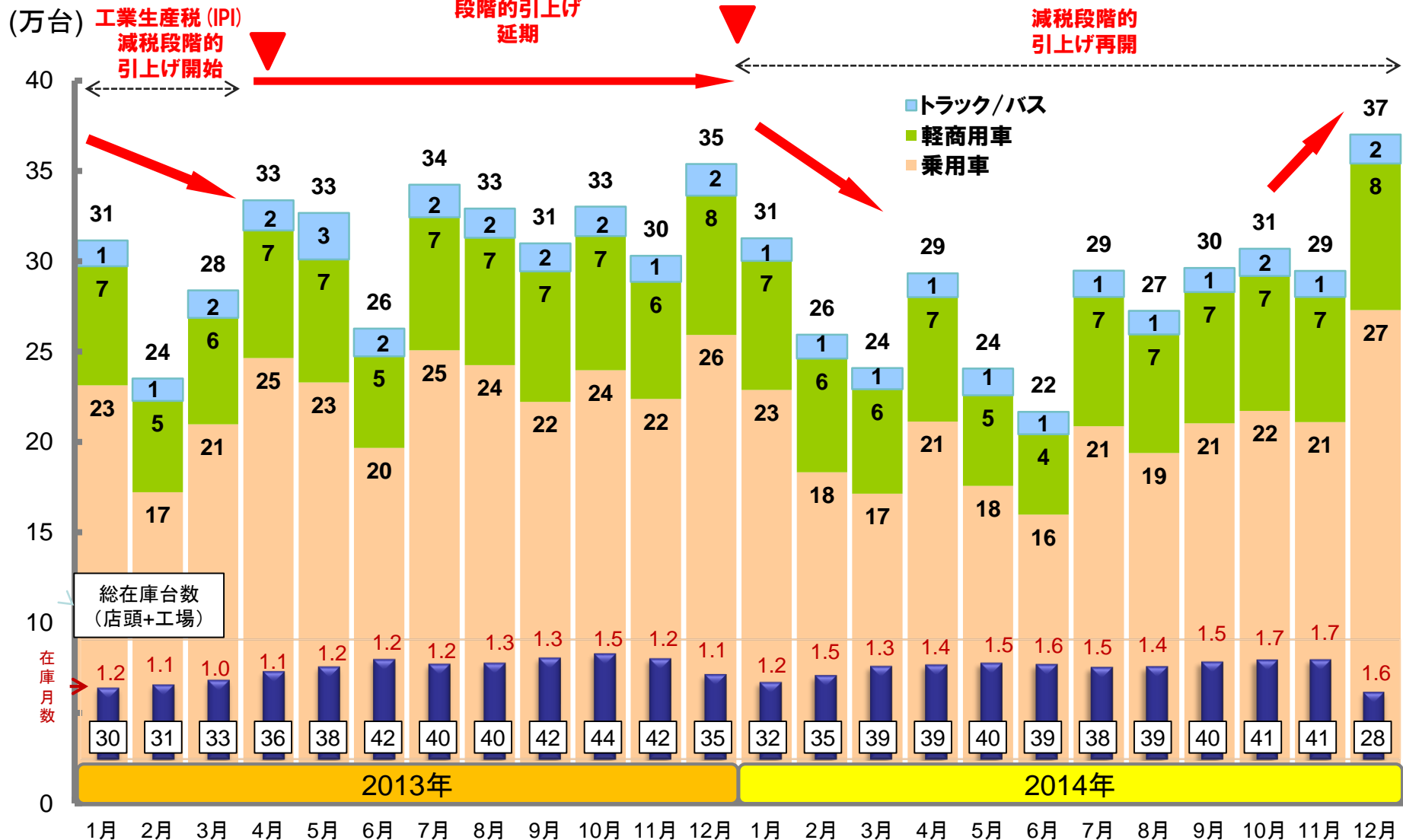
出典: ANFAVEA(ブラジル自動車工業会) 大型バス、トラックを含む四輪合計



- 2014年の販売実績は約350万台で前年比93%と2年連続で前年を下回った
- 輸入車比率は18%と3年連続低下

1.2 2014年振り返り 一月別販売台数 推移

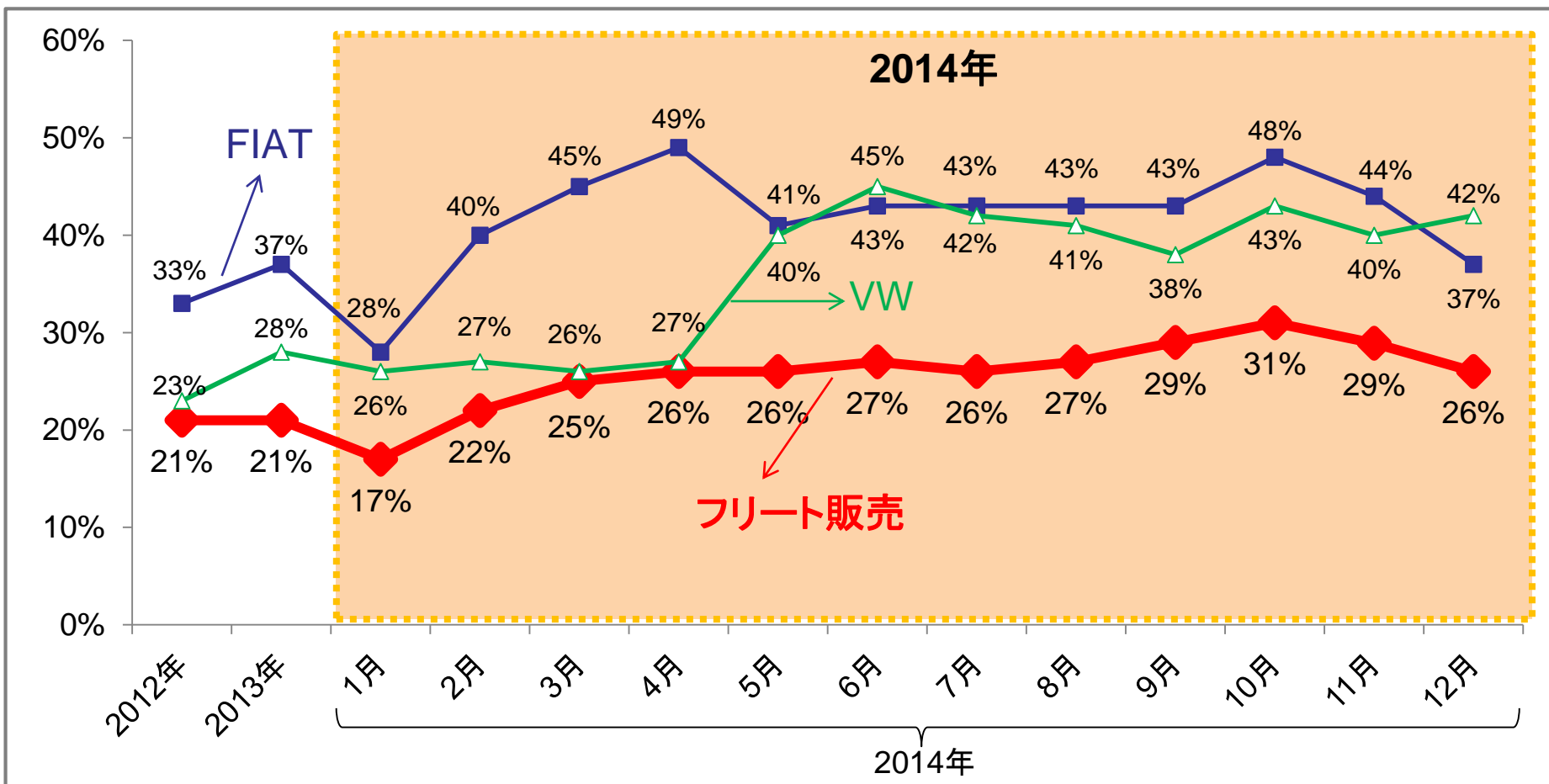
出典: ANFAVEA 大型バス、トラックを含む四輪合計

減税段階的
引上げ再開段階的引上げ
延期工業生産税 (IPI)
減税段階的
引上げ開始

- 6月はW杯の影響により需要低下
- 12月はIPI税率引上げ前の駆け込み需要で販売増

1.3 2014年振り返り 一月別販売台数 フリートの比率

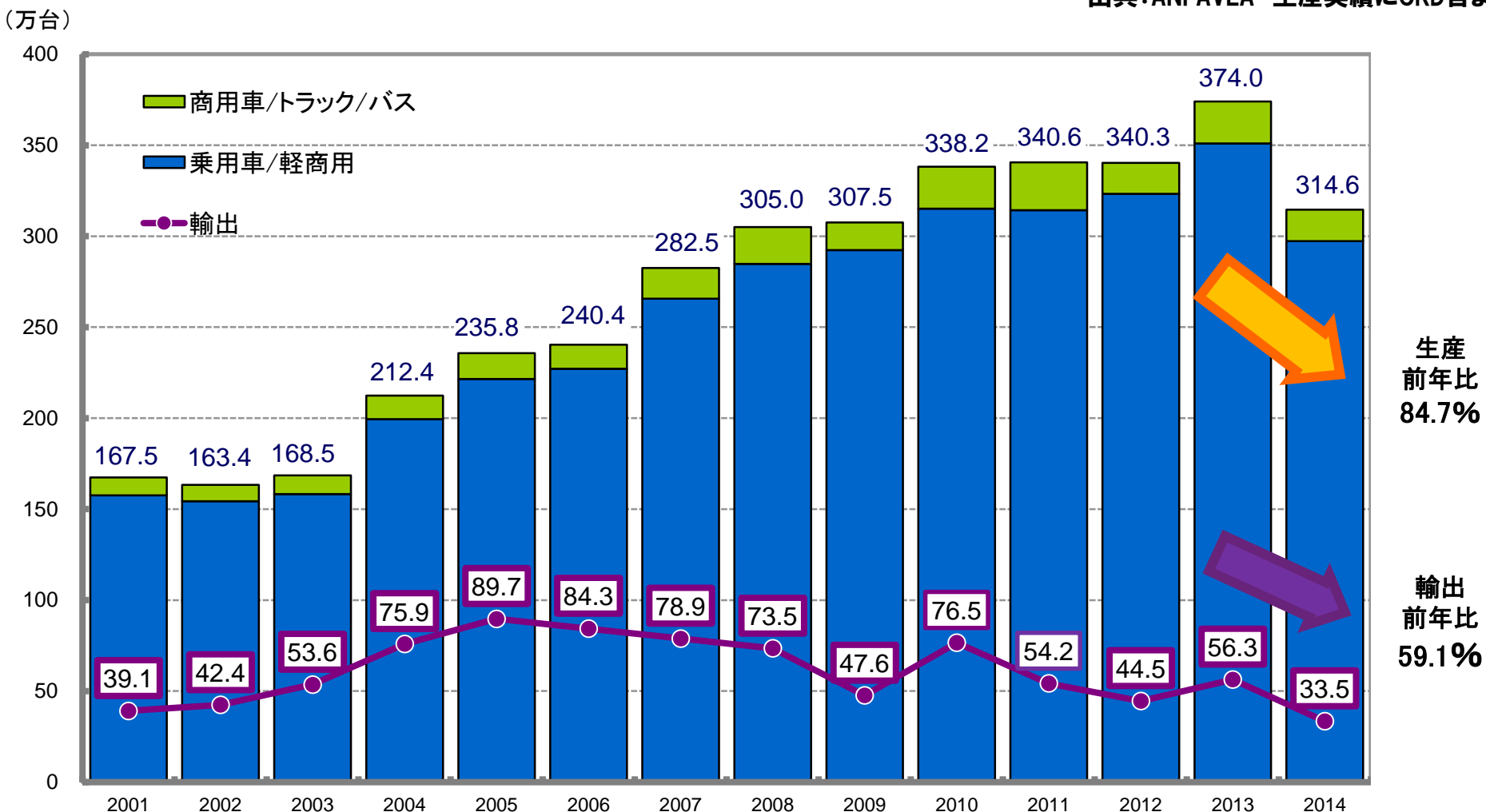
出典: ANFAVEA



- フリート販売比率は2012年、2013年と比較して高水準(26%)で推移
- FIAT、VWのフリート比率が高い理由は主にレンタカーやタクシー会社への販売によるもの

1.4 2014年振り返り ― 四輪車生産・輸出台数 推移

出典: ANFAVEA 生産実績にCKD含まず



- 2014年の総生産台数は約315万台(前年比84.7%)
- 国内販売減少並びに在庫調整、輸出の82%を占めるアルゼンチン向け自動車輸出の減少が要因
- 一部メーカーは集団休暇ならびにレイオフ、希望退職制度などで生産調整を実施

1.5 2014年振り返り ―四輪車輸出台数 カテゴリー別

◆ カテゴリー別 輸出概要 (単位:台)

出典:ANFAVEA

カテゴリー	2013年	2014年	前年比	主要輸出相手国	FOB百万ドル	総輸出に占める比率
乗用車	397,218	222,334	56%	アルゼンチン	2,434.39	82%
ライトトラック	134,294	87,822	65%	メキシコ	208.82	7%
トラック	25,019	17,737	71%	コロンビア	9.74	3.4%
バス	9,768	6,608	68%	ウルグアイ	78.09	2.6%
合計	566,299	334,501	59%	パラグアイ	31.60	1.1%

◆ メーカー別輸出推移 (単位:台)

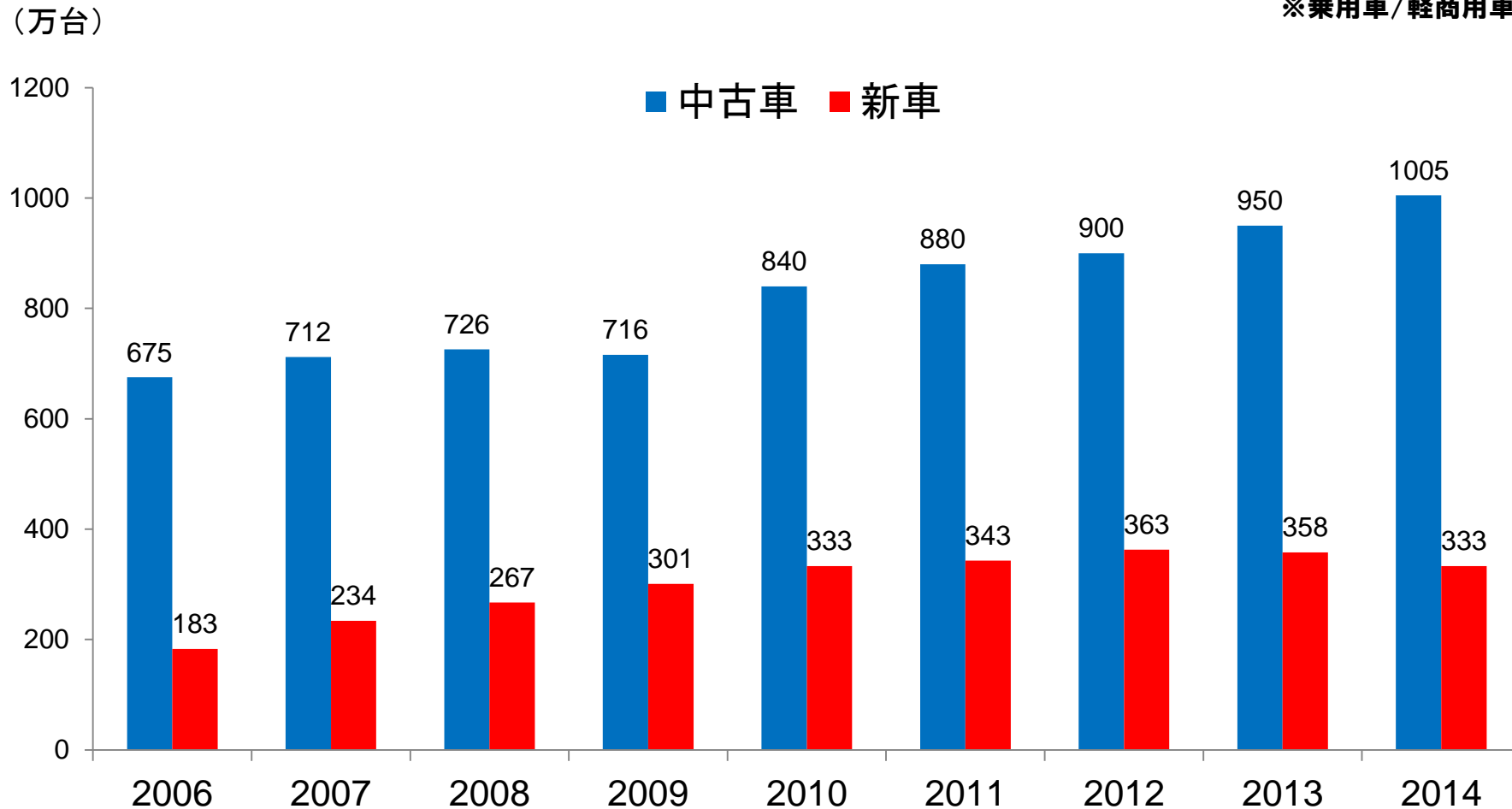
順位	メーカー	2010	2011	2012	2013	2014	前年比
1	VW	392,551	178,343	142,743	148,911	92,275	62%
2	GM	78,074	97,475	68,286	104,500	47,594	46%
3	FORD	71,194	67,295	57,314	74,327	46,833	63%
4	FIAT	66,554	87,178	55,159	75,720	43,516	57%
5	Renault	56,946	60,064	58,168	63,276	34,415	54%
6	Toyota	10,982	12,652	16,152	19,617	33,275	170%
7	Peugeot Citroen	17,935	24,702	21,816	53,910	28,288	52%

- 乗用車を中心に輸出が大きく減少
- 主要輸出先のアルゼンチンの景気停滞や外貨不足による輸入制限措置が理由

1.6 2014年振り返り ―四輪車中古車販売 推移

出典:FENABRAVE/ ANFAVEA

※乗用車/軽商用車のみ



- 中古車市場は年々拡大傾向
- 2014年の乗用車・軽商用車の中古車販売台数は過去最高の1005万台

2.1 2015年展望 一 経済

出典:BR中央銀行 FOCUS (2015年1月)

◆ブラジル経済指数推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015予測	2016予測
実質経済成長率(%)	7.5	2.7	1.0	2.5	0.1	0.38	1.8
為替 年末予想 (レアル/\$)	1.66	1.87	2.05	2.36	2.66	2.80	2.85
インフレ (IPCA - %)	5.9	6.5	5.8	5.9	6.4	6.7	5.7
金利(SELIC) 年末予想(%)	10.75	11.00	7.25	10.00	11.75	12.50	11.50

- GDPの低成長
- ブラジル・レアル安の進行による輸入部品の価格上昇が懸念される一方、輸出環境は改善
- インフレの進行（公共料金の値上げ、燃料税[CIDE]の復活などの増税）
- 金利(SELIC)の上昇

さらに

- 消費マインドの冷え込み、失業率の上昇傾向、クレジットの引き締め等による国内需要の低下

2.2 2015年展望 ー自動車業界

出典: ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

◆ブラジル市場・輸出・生産の2014年実績と2015年予測

単位: 万台

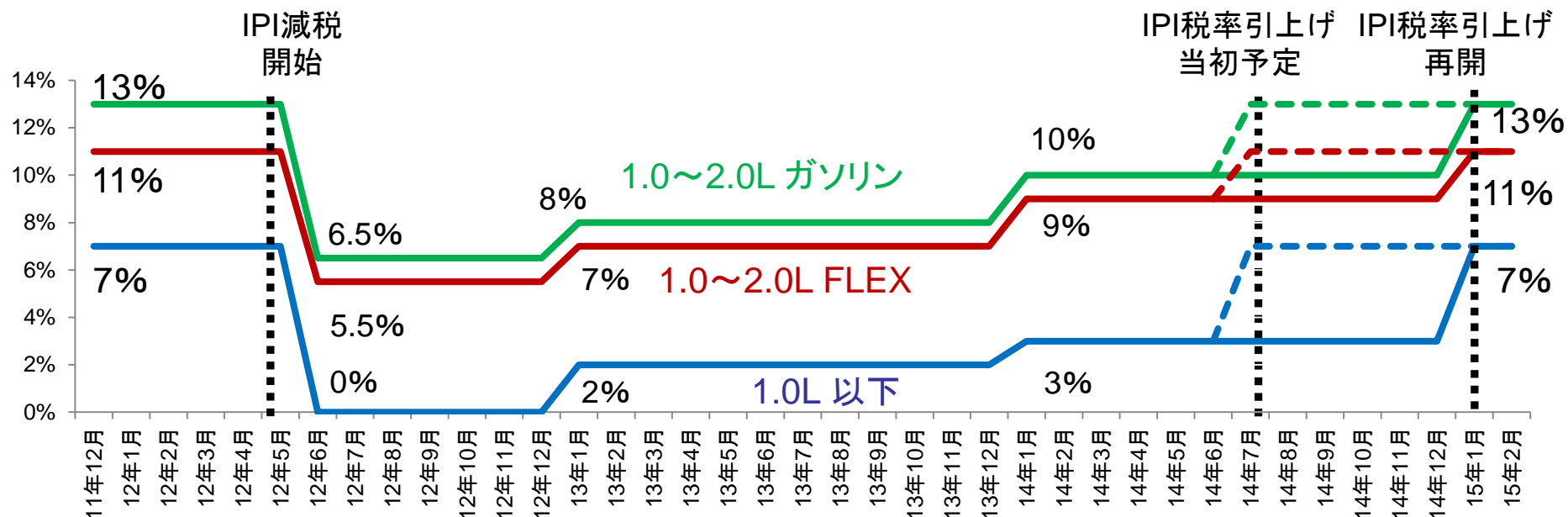
	2014年実績	2015年予測 ANFAVEA <1月8日発表>	前年比(2015/2014) ANFAVEA予測 <1月8日発表>
国内市場	349.8 (自動車部会予測: 350)	349.8 (自動車部会予測: 330)	100% (自動車部会予測: 94%)
輸出台数	33.5	33.8	101%
生産台数	314.6	327.6 (自動車部会予測: 300)	104% (自動車部会予測: 95%)

- ANFAVEAは販売台数は約350万台と前年水準を維持するものと予測
- IPI税率引上げ再開による価格上昇、政策誘導金利の上昇、消費マインドの悪化などで購買意欲減少
- 生産はフィアット、チェリー社の新自動車工場の稼働開始や輸出の回復により327.6万台とやや増える予測
- 水不足や電気供給不足による生産コストの上昇

2.3 2015年展望 —IPI税状況

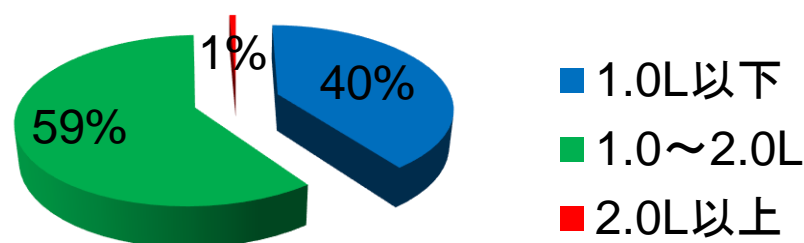
出典: ANFAVEA

◆ IPI税率の推移(排気量別)



◆ 2014年マーケットシェア(排気量別)

出典: ANFAVEA

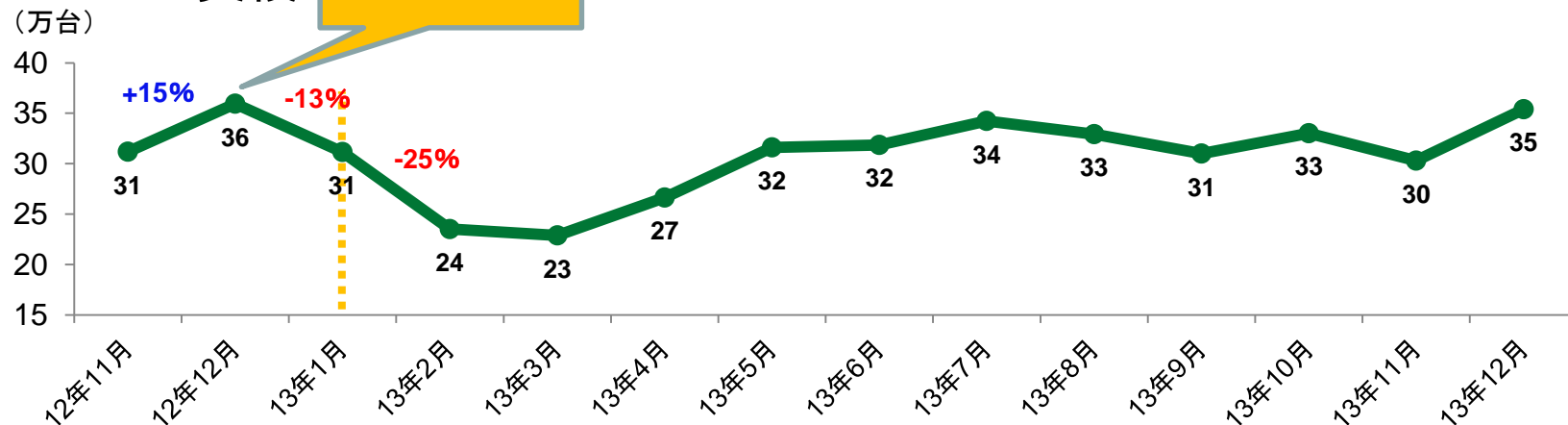


- 7月にIPI税率引上げの予定が、年末まで延期
- 今年1月から税率引上げ再開
- 2015年以降も厳しい状況が続くと想定

2.4 2015年展望 — IPI減税戻し再開後の市場比較

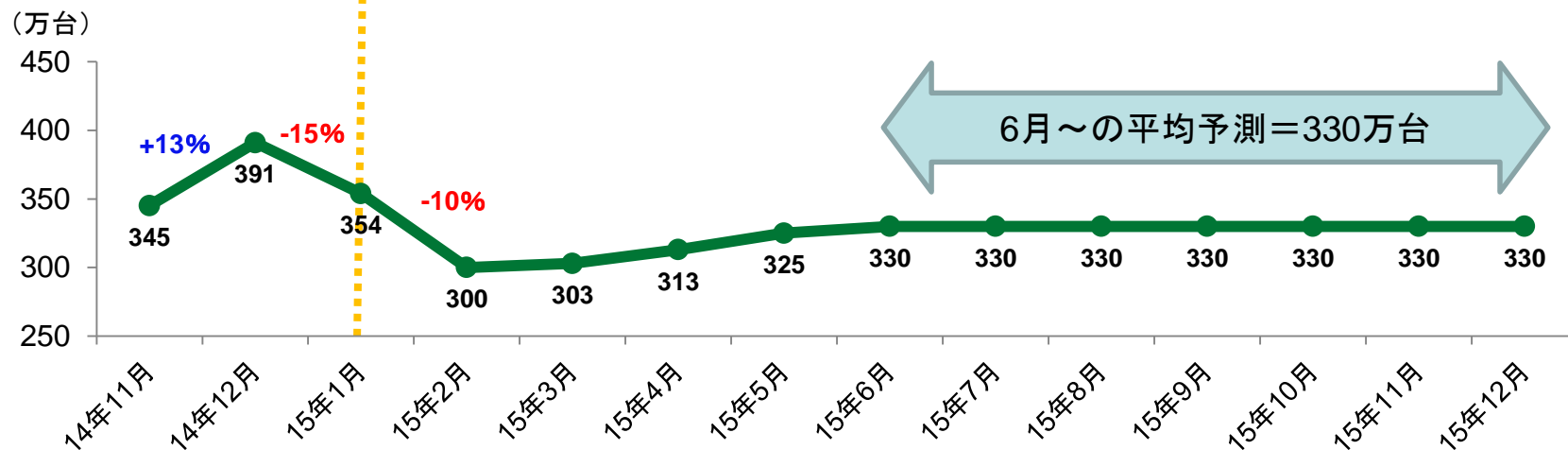
出典: ANFAVEA

◆ 2012/2013 実績



◆ 2014/2015 予測

社内調べ。数字は年率換算



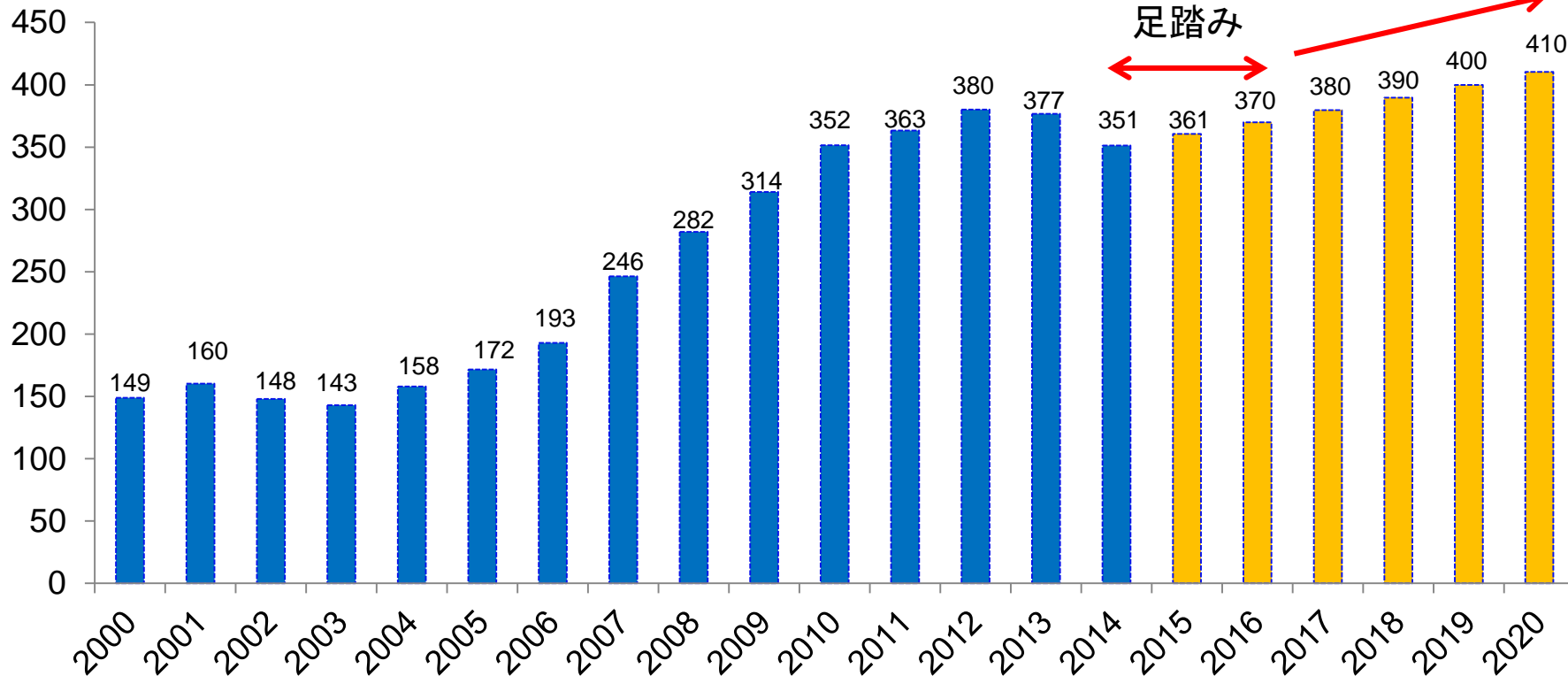
- 2013年IPI税率引き上げ再開後の市場は、1、2月大きく落ち込み、3月から徐々に回復
- 2015年も同様に、1、2月大きく落ち込み、3月～4月に徐々に回復する予想

2.5 2015年展望 ー中長期 展望

出典:Bradesco AutoData セミナープレゼン資料(2014年7月)

◆自動車市場 推移

(万台)



- 自動車市場も足元は足踏みするも、中長期としては安定成長を見込む

3.1 新政権の方針と業界への影響

所信表明演説より要点抜粋



Joaquim Levy財務大臣
(無所属)

- (1) 元リオ州財務長官
- (2) 元ブラデスコ銀行グループ幹部



Armando Monteiro開発商工大臣
(ブラジル労働党)

元工業連盟 会長

財務省

- 財政収支の黒字化
- インフレ目標政策
- 為替安定の為に行う市場介入の縮小
- 政策の安定化、定着

開発商工省

- 産業の発展
- 先進技術の促進
- 税制の簡素化
- 海外貿易の活性化への取組み

3.2 新政権の方針と業界への影響

◆産業の競争力強化政策による環境改善

- 税制体系の簡素化
 - 社会負担金(PIS/COFINS)の統合による簡便化
 - 商品流通税(ICMS)の一体化/簡素化
- 輸出促進のためのインセンティブ、政府補助による輸出増加
 - 移転価格税制(Transfer Price)の見直し
 - 特別払戻税(Reintegra)の継続
- 新自動車政策(Inovar-Auto)によるさらなる現地化の促進や技術開発の投資促進

◆財政黒字化政策による負担増

- 輸入車への増税(PIS/COFINS) 11.60%→15.19% (5月～)
- 燃料への増税: 社会負担税(PIS/COFINS・2月～)、燃料税(CIDE・5月～)

ガソリン代上昇	約R\$0.22 / L
軽油代上昇	約R\$0.15 / L

- IPI税率の引上げ(1月～)
- 電力会社への補助金打ち切りによる電気代への価格転嫁
- 金融取引税(IOF)の増税 1.5% → 3%へ上昇(1月～)
 - ✓ 自動車ローン利用者の負担増(12ヶ月までローンの場合)

4. 競争力強化への課題

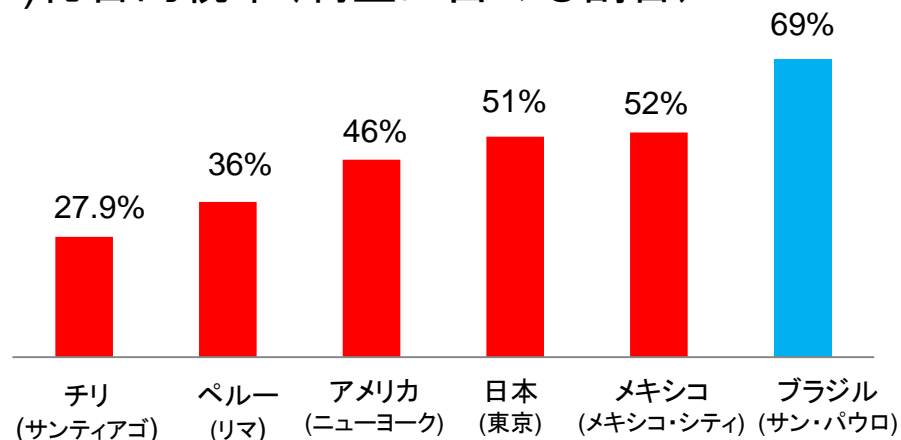
◆官民と連携した競争力強化への取組み 5項目（賢人会より日伯両首脳に提出）

1. 税制改革：税の引き下げと簡素で分かりやすい税体系への移行
2. インフラ整備：港・道路・鉄道などの物流インフラの整備
3. 人材育成：エンジニアや熟練労働者など、高度な教育・訓練を受けた人材の育成
4. 裾野産業の育成：戦略的な裾野産業育成策によるコスト競争力向上
5. 輸出を促進する政策：競争力強化と輸出促進する通商政策

4.1 競争力強化への課題 ー税制改革

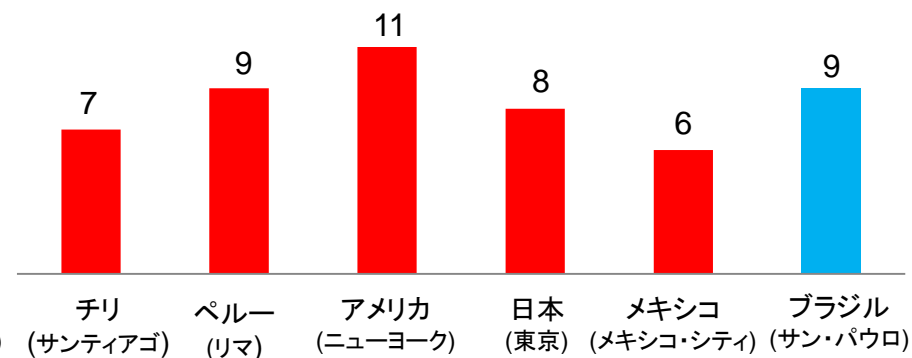
出典:Doing Business 2015, World Bank

(1) 総合的税率(利益に占める割合)

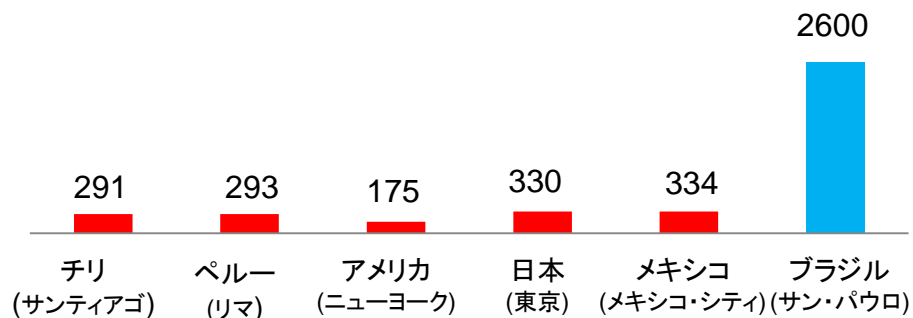


* 創立2年目の中規模の会社に本来かかる税や負担金の割合

(2) 年間支払い回数



(3) 年間手続き所要時間

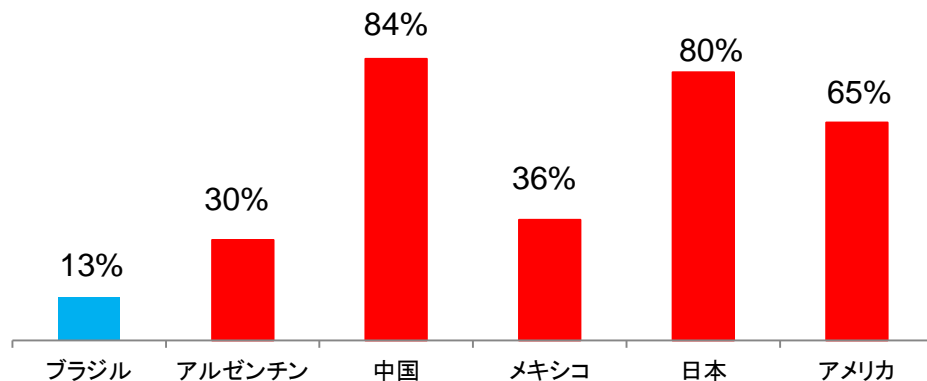


- 納税のしやすさは世界177位(189地域中)
- グローバルでも南米でも納税手続きの
手間と税率はワースト・クラス

4.2 競争力強化への課題 – インフラ整備

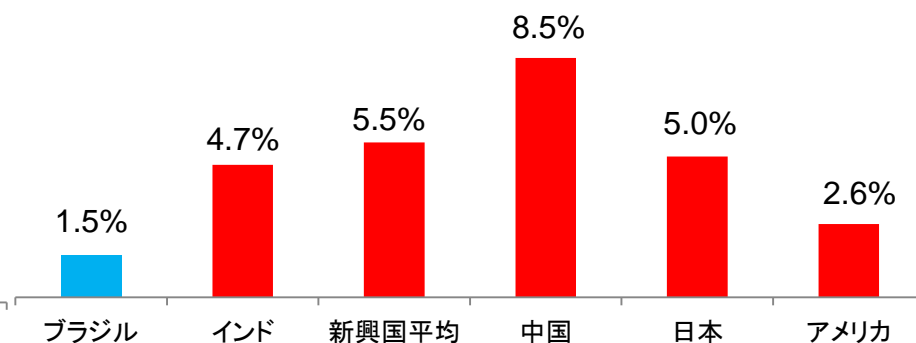
(1), (2) 出典: McKinsey Global Institute, McKinsey Infrastructure Practice (2013年1月)

(1) 道路舗装率

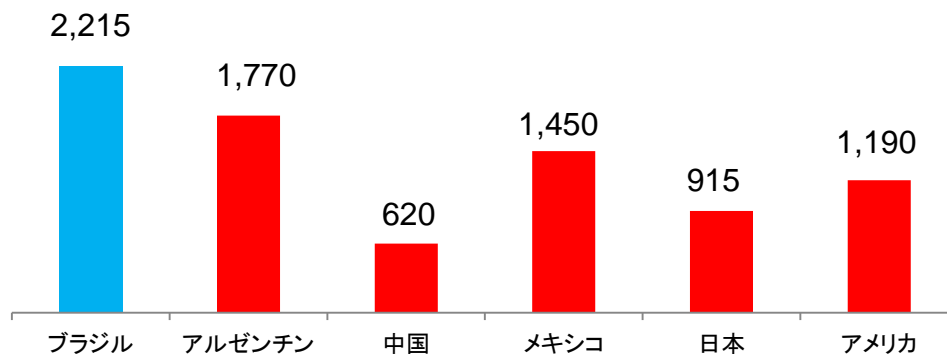


(2) 道路・港湾・空港への投資

(GDPに占めるインフラ投資の年間平均比率)



(3) 海上輸送にかかるコンテナ1台ごとの
輸出コスト(ドル)



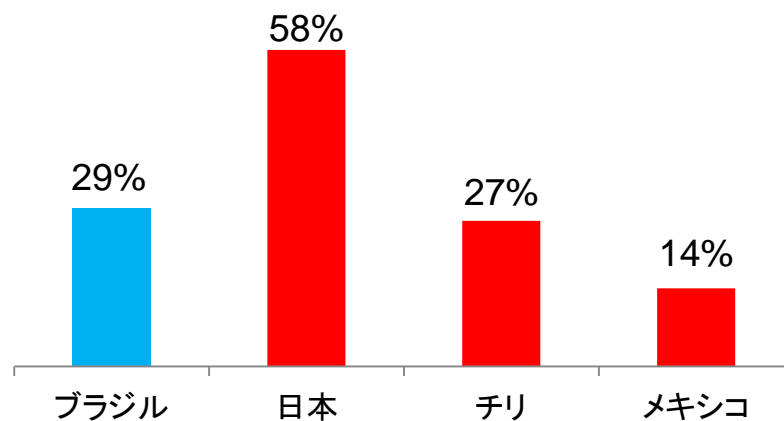
(3) 出典: Doing Business 2015, World Bank
2014年6月時点のコスト

• 不十分なインフラ整備と投資

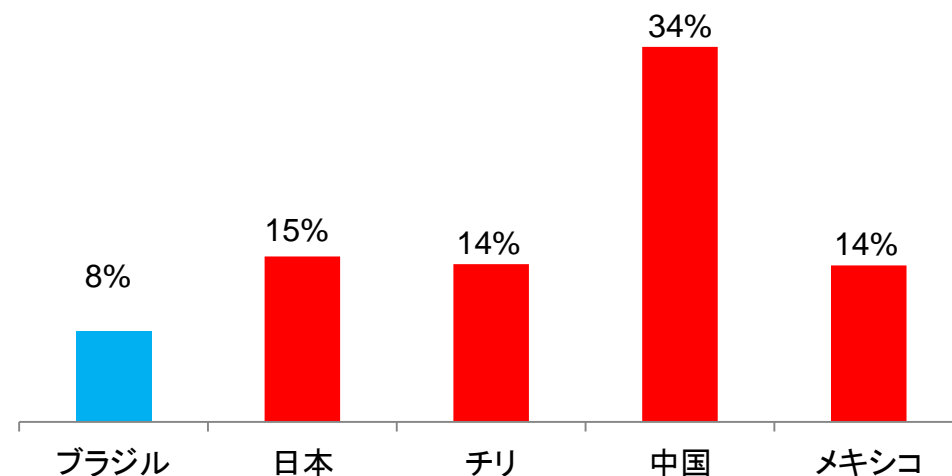
4.3 競争力強化への課題 一人材育成

出典:文部科学省「諸外国の教育系統」(2013年), INEP (2013)

(1)大学進学率



(2)大学卒業に占めるエンジニア比率

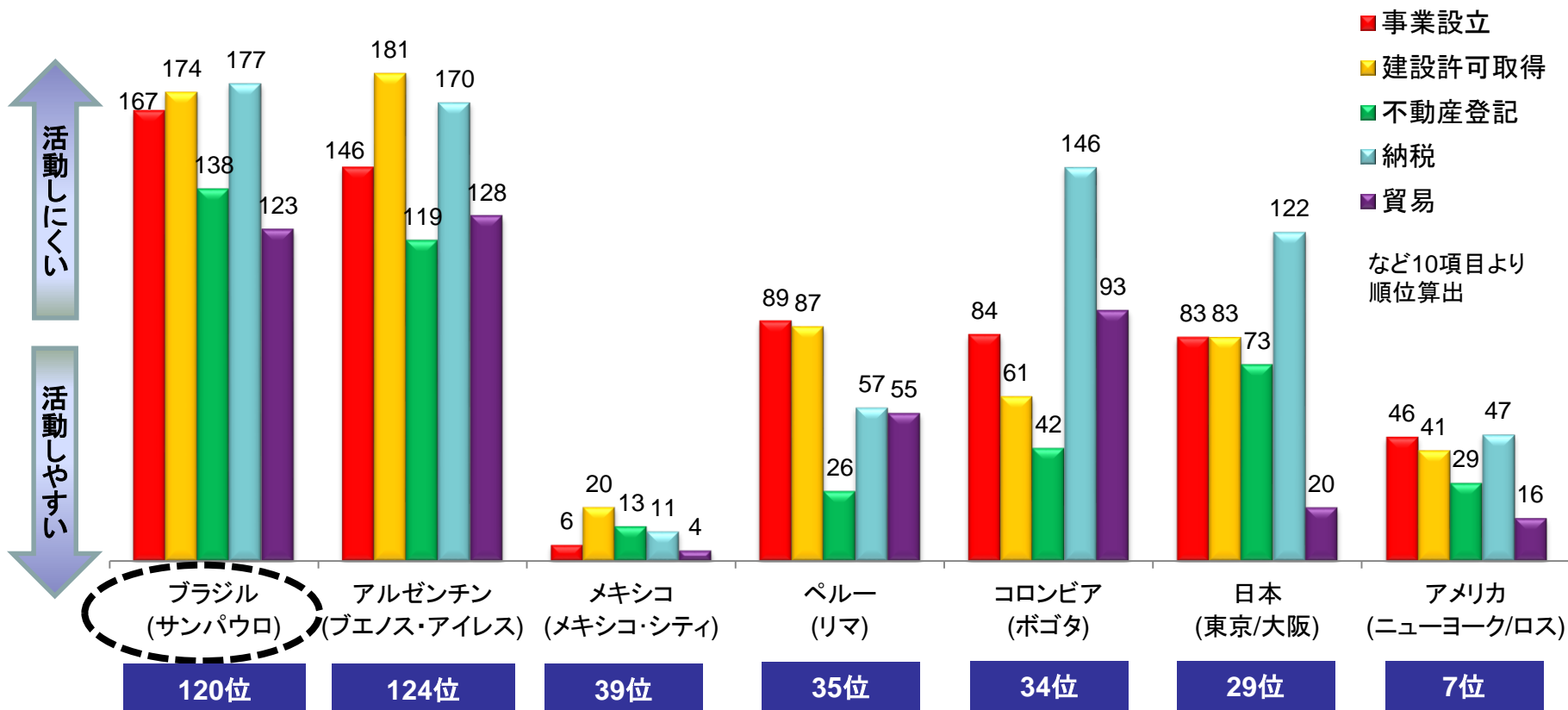


- 質の高い人材、エンジニアが不足
- 企業は全国工業職業訓練機関(SENAI)などと提携した産業人材育成プログラムなどで対応

4.4 競争力強化への課題 — 裾野産業の育成(1)

出典:Doing Business 2015, World Bank

◆2015年ビジネス活動の安易度ランキング(世界189地域内順位)



- 同じ中南米地域の中でも極めて高いビジネス上の弊害

4.4 競争力強化への課題 ー裾野産業の育成(2)

◆ブラジルにおける自動車部品の現調化状況

<現調化が進む部品>

- ・プレス部品
- ・プラスチック部品
- ・内装部品 など

<現調化が進みづらい部品>

- ・エンジン
- ・トランスミッション
- ・電子制御部品 などの高度な技術を要する部品

- ・ 各社Inovar-Autoで求められる現調率の達成を目指すものの、
高度な技術を要する電子制御部品はサプライヤーの基盤がなく、現調が進んでいない
- ・ 今後Inovar-Autoの生産工程の要件をクリアするために、現調化が難しい分野での対応が必要

4.5 競争力強化への課題 ー輸出を促進する政策

1. 低い国際競争力

高いコスト(労務コスト・公共料金)

不十分なインフラ整備(港湾・鉄道・道路)

人材育成の遅れ(質の高い人材・エンジニア不足) など

2. 企業負担の多いビジネス制度

煩雑な税制体系(PIS/COFINS、ICMS、IPI、等)

高額な税負担(PIS/COFINS、ICMS、移転価格税制、IPI)

低い競争力を補う一時的な方策の欠如 など

5. 日系メーカーとしての取組み

1. 「高品質」、「高い顧客の満足度」といった日本メーカーの強みの維持・向上
2. 環境への対応と企業イメージの向上
3. 競争力向上のためのコスト低減活動
4. 為替対応を踏まえた部品の現調化と輸出の促進

5.1 日系メーカーとしての取組み

1. 高品質、高い顧客の満足度といった日本メーカーの強みの維持、向上

出典: J.D. Power

◆ 車所有者満足度調査

- ランキング -

順位	2012年	2013年	2014年
1	Toyota	Toyota	Hyundai-HMB
2	Hyundai	Honda	Toyota
3	Kia	Hyundai-Caoa	Honda
4	Nissan	Nissan	Kia
5	Mitsubishi	Kia	Nissan
6	Honda	Citroen	Mitsubishi

- 顧客満足度ランキングで日系メーカーは常に上位にランクイン

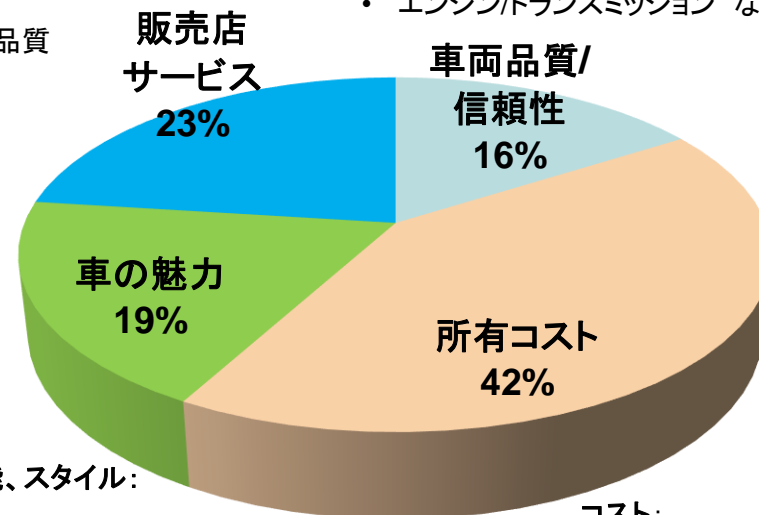
- 満足度に影響する項目 -

サービス:

- 接客
- 納期
- サービススタッフ
- 販売店設備
- サービスの品質

品質

- 操作性
- オーディオ/ナビ/エンターテインメント機器
- クーラー/空調機
- エンジン/トランスミッション など



デザイン、機能、スタイル:

- 外観、内装
- 車内スペース
- クーラー/空調機
- 注目度/安全性 など

コスト:

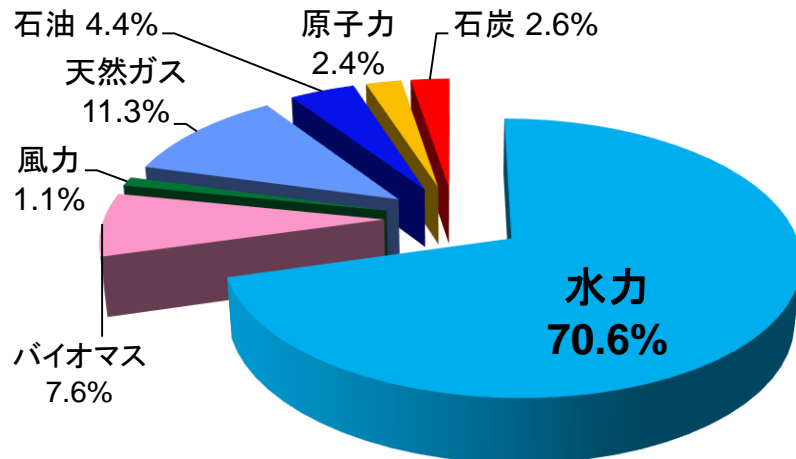
- 燃費の良さ
- 保険
- 維持費/修理費

5.2 日系メーカーとしての取組み

2. 環境への対応と企業イメージの向上

(1) ブラジル電力エネルギー源

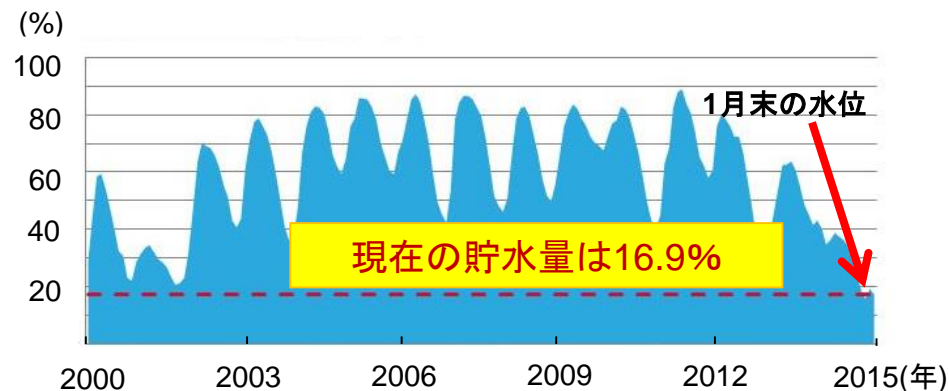
出典: エネルギー・鉱山省



(2) 水力発電所の貯水量

(南東部[サンパウロ含む]の過去15年間の推移)

出典: ONS



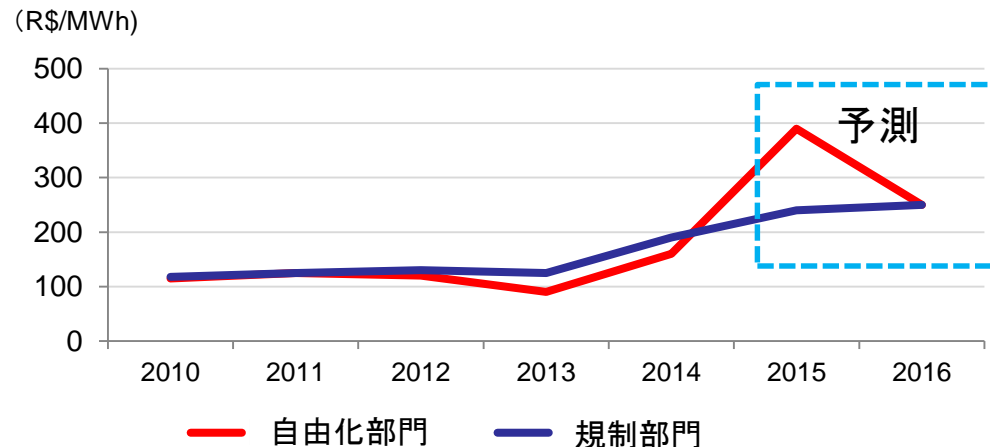
(3) 投資コストの比較

社内調べ

エネルギー源	R\$/MWh
水力	50 - 80
風力	100 - 120
バイオマス	120 - 180
太陽	250
石油	280 - 350

(4) 電気代の上昇

社内調べ



5.2 日系メーカーとしての取組み

2. 環境への対応と企業イメージの向上 — 風力発電の使用(ホンダ)



Honda Energy do Brasil

- 拠点: リオ・グランデ・ド・スル州シャングリラ市
- 稼動開始: 11月26日
- 投資額: 約1億レアル(約43億円)
- 風力タービン9機で年間発電量は9万5千MWh
- スマレー工場稼動に必要な電力(7万MWh)を補う



スマレー工場のCO2排出量30%低減
+
40%~45%のエネルギーコスト削減

5.3 日系メーカーとしての取組み

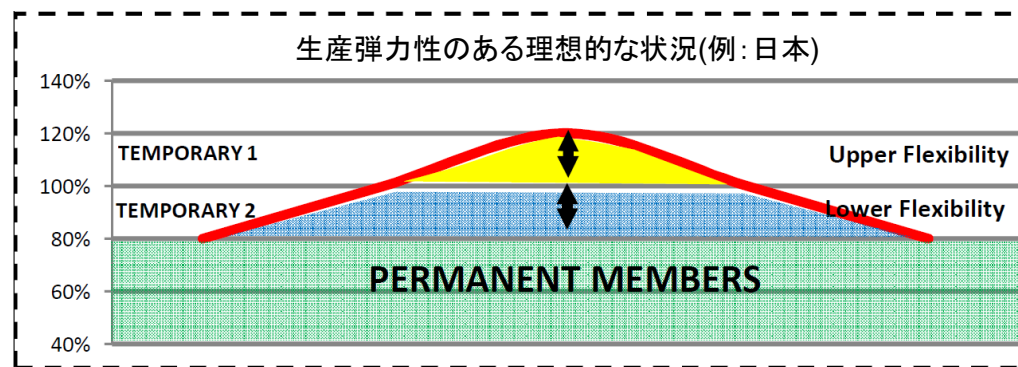
3. 競争力向上のためのコスト低減活動ーソロカバ工場での期間従業員の採用(トヨタ)

目的: 増産に対応しつつも、不景気時に正社員の解雇をしないように、柔軟な労働力を確保

14年4月からサンベルナルド工場で期間従業員の採用を開始

- ・最大2年の契約で6ヶ月ごとに契約更新
- ・上限2割
- ・サンベルナルド工場のさらなる生産弾力性向上について組合と議論

効果: 深夜手当、諸費用の削減



- ・ サンベルナルド工場で実施した取組みをソロカバ工場の能増へ横展

5.4 日系メーカーとしての取組み

4. 為替対応を踏まえた部品の現調化と輸出の促進ーエンジンベンチ&エンジン工場の新設(トヨタ)

背景:

- 部品の現調率を向上するためにサプライヤーの技術力の育成が課題
- エンジンの現地生産は現調率向上への重要案件

(1)エンジンベンチの新設(SBC工場)



(2)エンジン工場の建設(Porto Feliz市)



期待される効果:

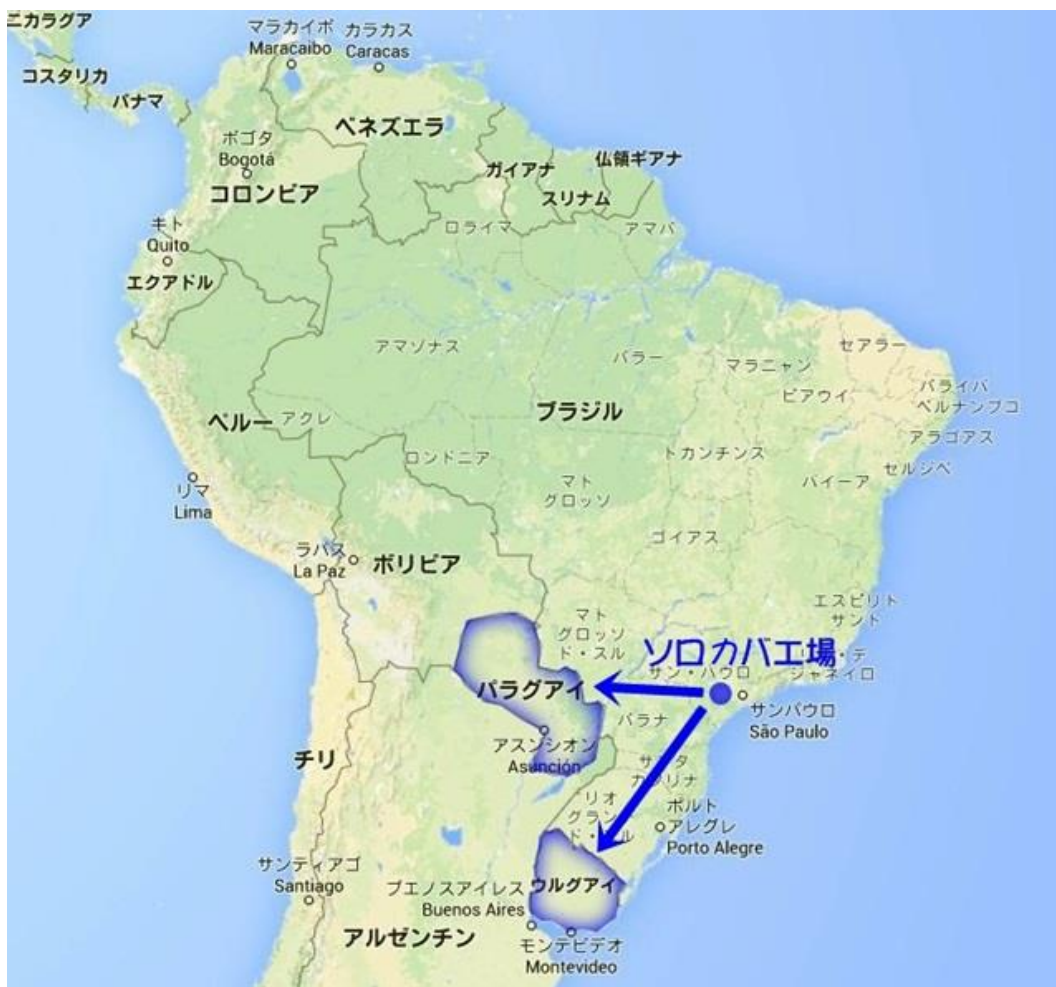
- エンジンベンチ新設による現調化のスピードアップ
- エンジンベンチを利用したローカル・サプライヤーの育成と技術力向上
- エンジン部品の現調率向上による為替の影響とコストの低減

5.4 日系メーカーとしての取組み

4. 為替対応を踏まえた部品の現調化と輸出の促進 — 南米向け輸出(トヨタ)

◆エティオスのウルグアイ・パラグアイへの輸出(2014年11月～)

リリースより概要作成



- ブラジル・ソロカバ工場で生産するエティオスをこれまでのアルゼンチン向けに加え、新たにウルグアイとパラグアイへ輸出

税還付措置(REINTEGRA)の活用

- 工業品の製造者の輸出につき、輸入部品が一定限度以下で使用されていることを条件に輸出売上高の3%までの金額を還付
- 還付は、現金または他の税金の支払いとの相殺のいずれかの選択を通じて行われる

6. 総括

◆官民と連携した競争力強化への取組み 5項目(賢人会より日伯両首脳に提出)

1. 税制改革:税の引き下げと簡素で分かりやすい税体系への移行
2. インフラ整備:港・道路・鉄道などの物流インフラの整備
3. 人材育成:エンジニアや熟練労働者など、高度な教育・訓練を受けた人材の育成
4. 裾野産業の育成:戦略的な裾野産業育成策によるコスト競争力向上
5. 輸出を促進する政策:競争力強化と輸出促進する通商政策

◆日系メーカーの競争力強化への取組み

1. 「高品質」、「高い顧客の満足度」といった日本メーカーの強みの維持・向上
2. 環境への対応と企業イメージの向上
3. 競争力向上のためのコスト低減活動
4. 為替対応を踏まえた部品の現調化と輸出の促進

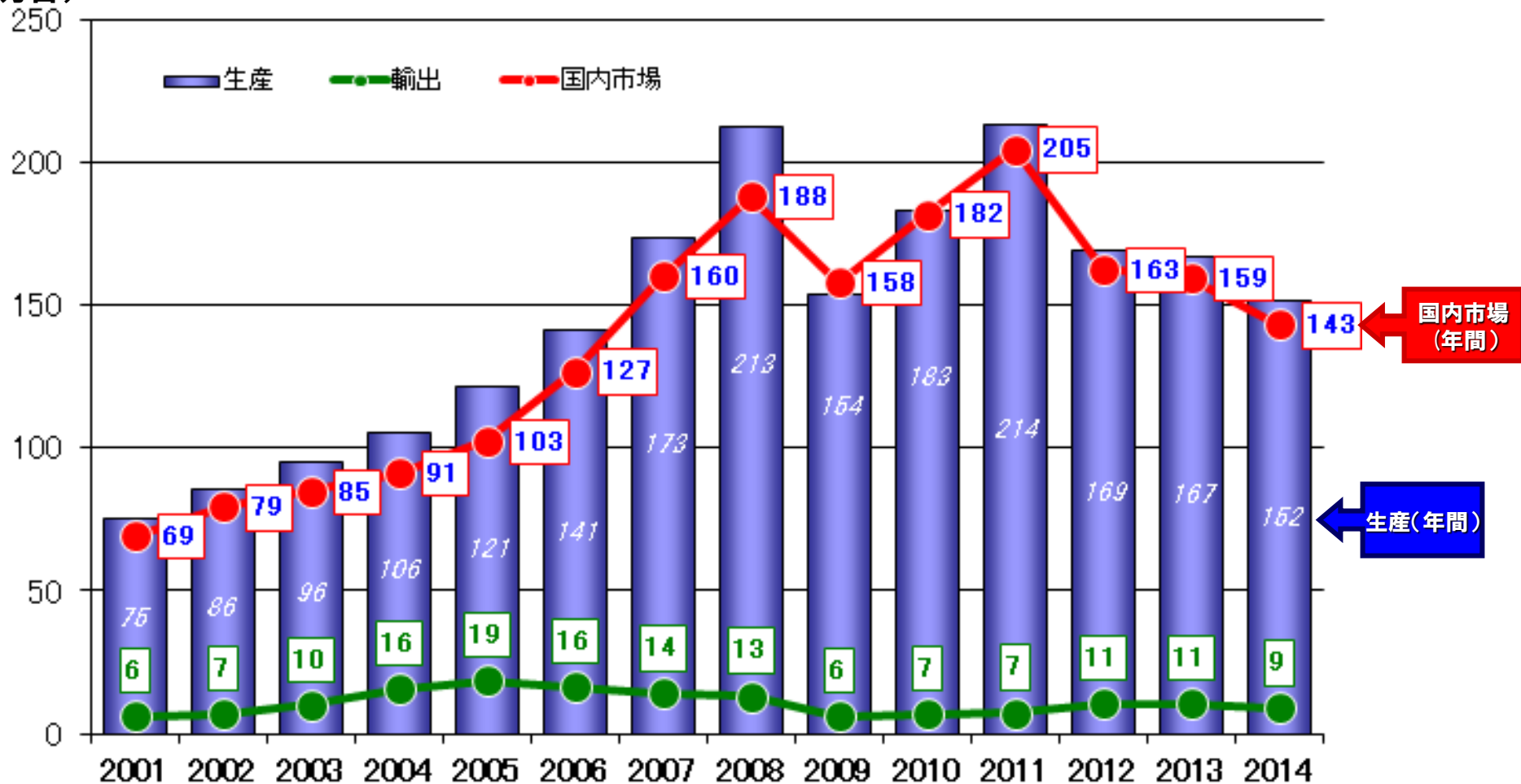
二輪業界動向

1. 生産・販売推移
2. 月別販売推移
3. 支払形態別 販売比率
4. 新車・中古市場推移

1. 二輪車 生産・販売 推移

出典:Abraciclo

(万台)

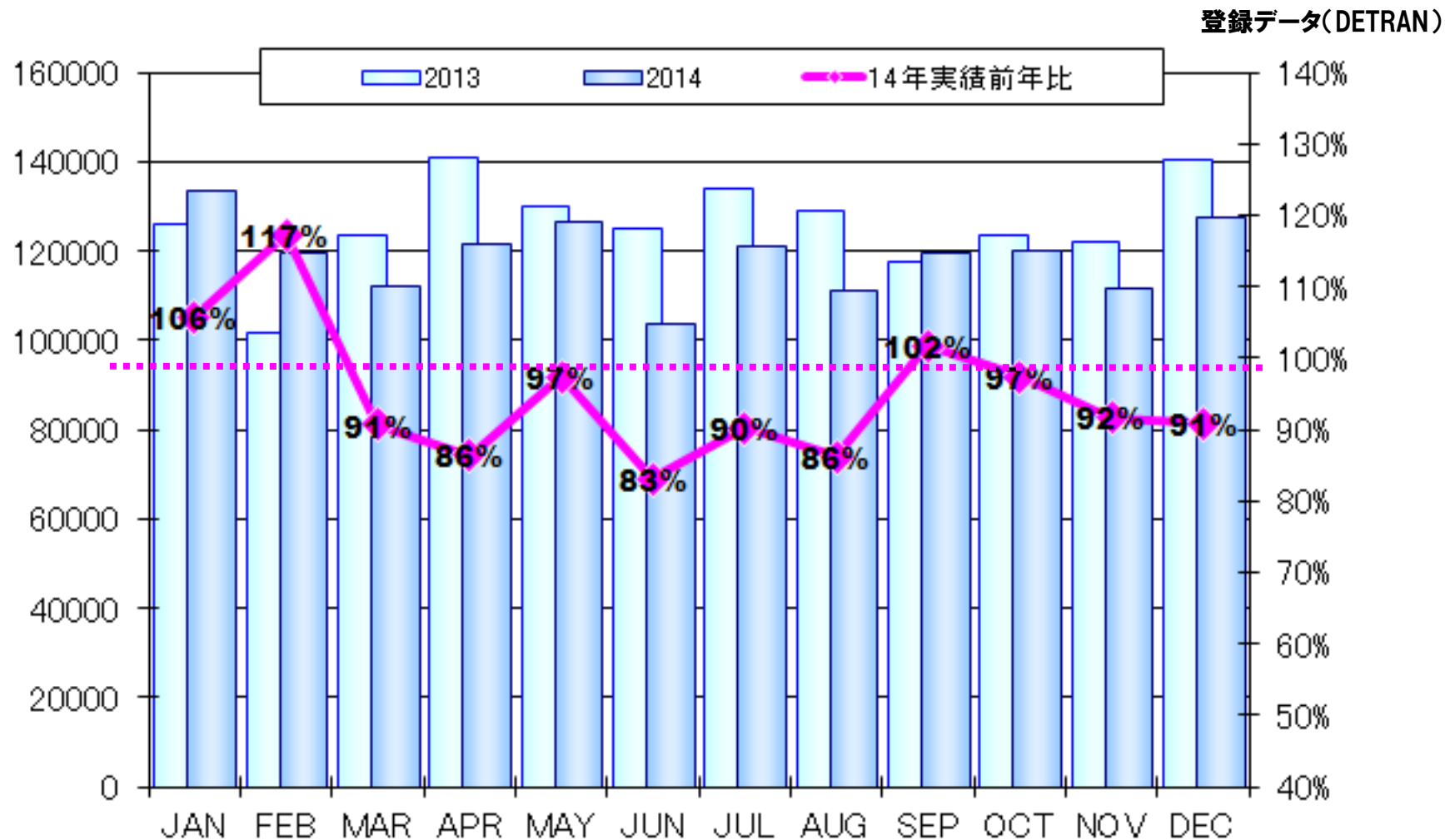


2014年実績

- 卸 143万台(前年比90%)
- 生産 152万台(前年比91%)
- 輸出 9万台(前年比82%)

経済環境、雇用不安、与信の厳格化等により市場は減少
卸、生産は末販状況に連動して前年を下回る実績となる
また南米諸国も市場環境が悪化し、輸出も落ち込む

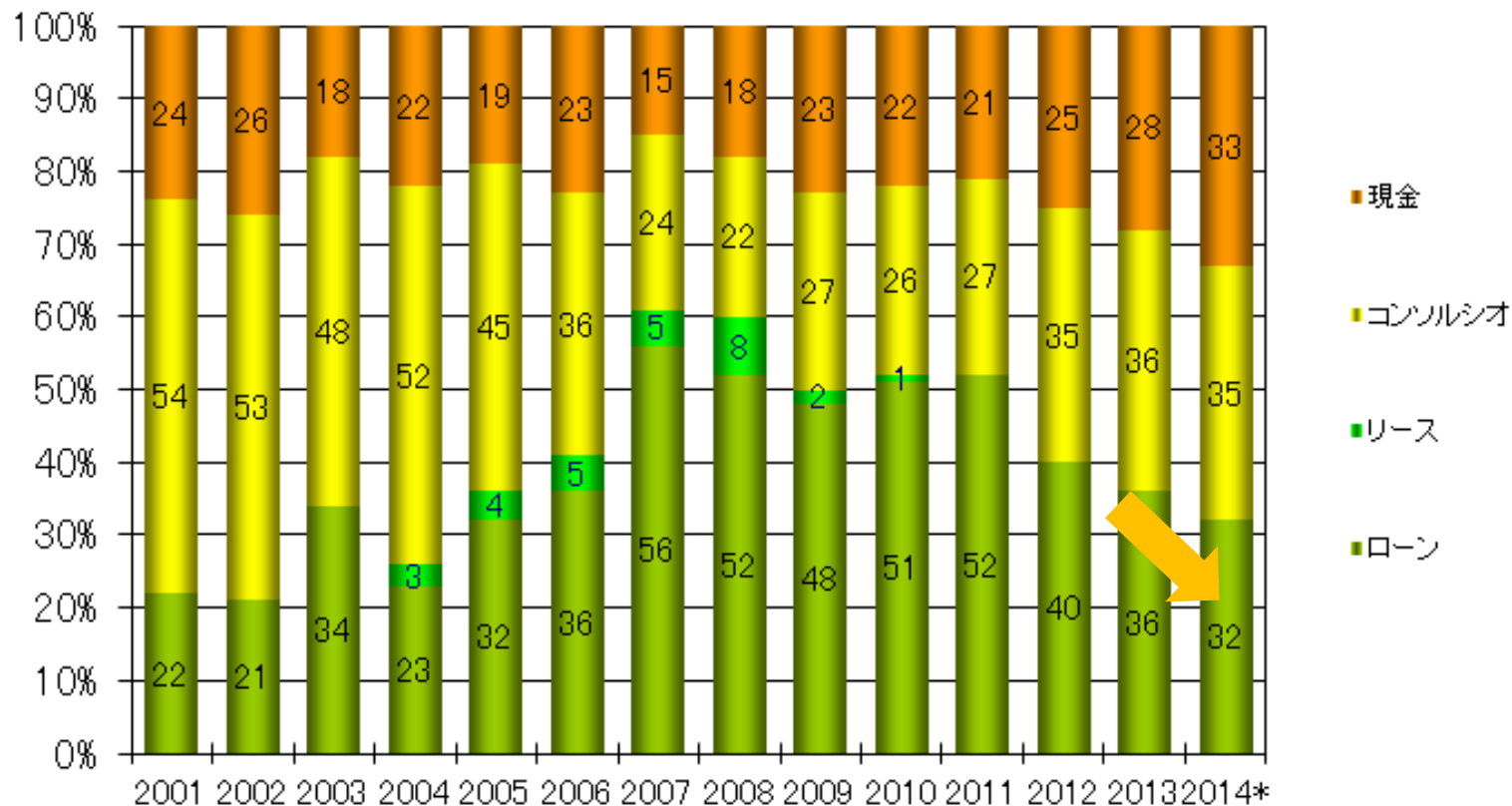
2. 二輪車 月別販売推移 (2013年vs2014年)



- 年初は前年を上廻るも、Wカップによる稼働減、経済環境の悪化によって前年を下廻って推移
- 大統領選後も消費者マインドは改善せず、利上げによってファイナンスには逆風となる
- 通年で登録市場143万台(前年比94%)と前年を下廻る

3. 二輪車 支払形態別 販売比率

出典: ANEF (自動車メーカー系金融会社協会)

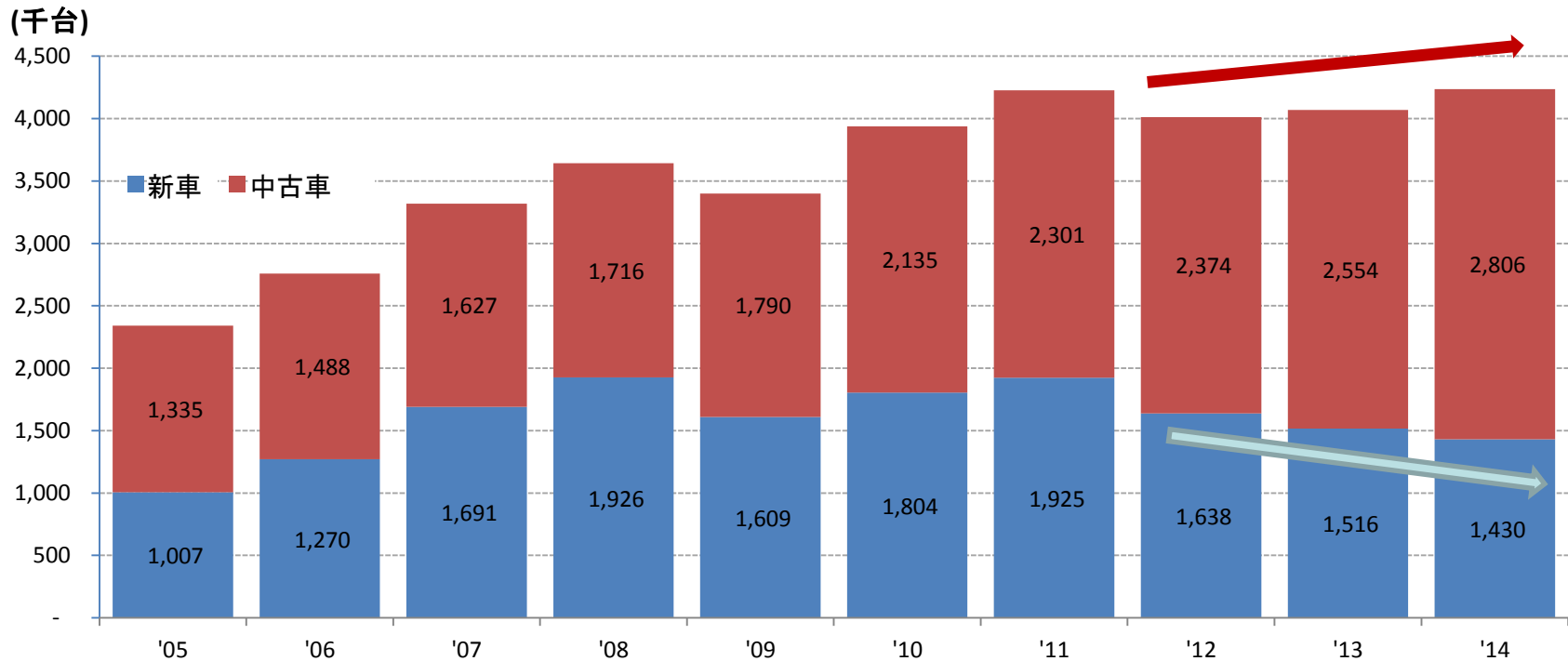


*2014年は9月までの実績

- 2012年に始まった与信審査の厳格化が2014年も継続し、全体市場に大きな影響を与えている
- コンソルシオについても加入権販売の落ち込み、バイクの引取率低下等が見られる

4. 二輪車 新車・中古市場推移

出典：新車(登録データ) 中古(Fenabrave)



- 与信審査の厳格化が始まった2011年以降、新車販売は落ち込むも、お買い求め易い中古車市場は拡大し続けており、二輪に対する根強い需要が伺える(全体市場は420万台を超えるレベルまで拡大中)

Obrigado!

ご清聴ありがとうございました。

電気電子 部会

千野 浩毅 副部会長

Departamento Eletroeletrônico

Vice Presidente: Hiroki Chino

電気電子業界

2014年回顧と2015年展望

2015年2月24日

電気電子部会

Panasonic do Brasil 村上 廣高

(代理発表者 Sony Brasil Ltda 千野 浩毅)

2014年の回顧

	改善	維持	悪化	合計
2014年	10	0	6	16
(%)	63%	0%	37%	100%
2013年(%)	(69%)	(13%)	(19%)	100%

<家電>

- **AV機器** : 台数は大きく前年割れ、過剰流通在庫による値崩れ
- **白物家電**: エアコン・電子レンジ好調

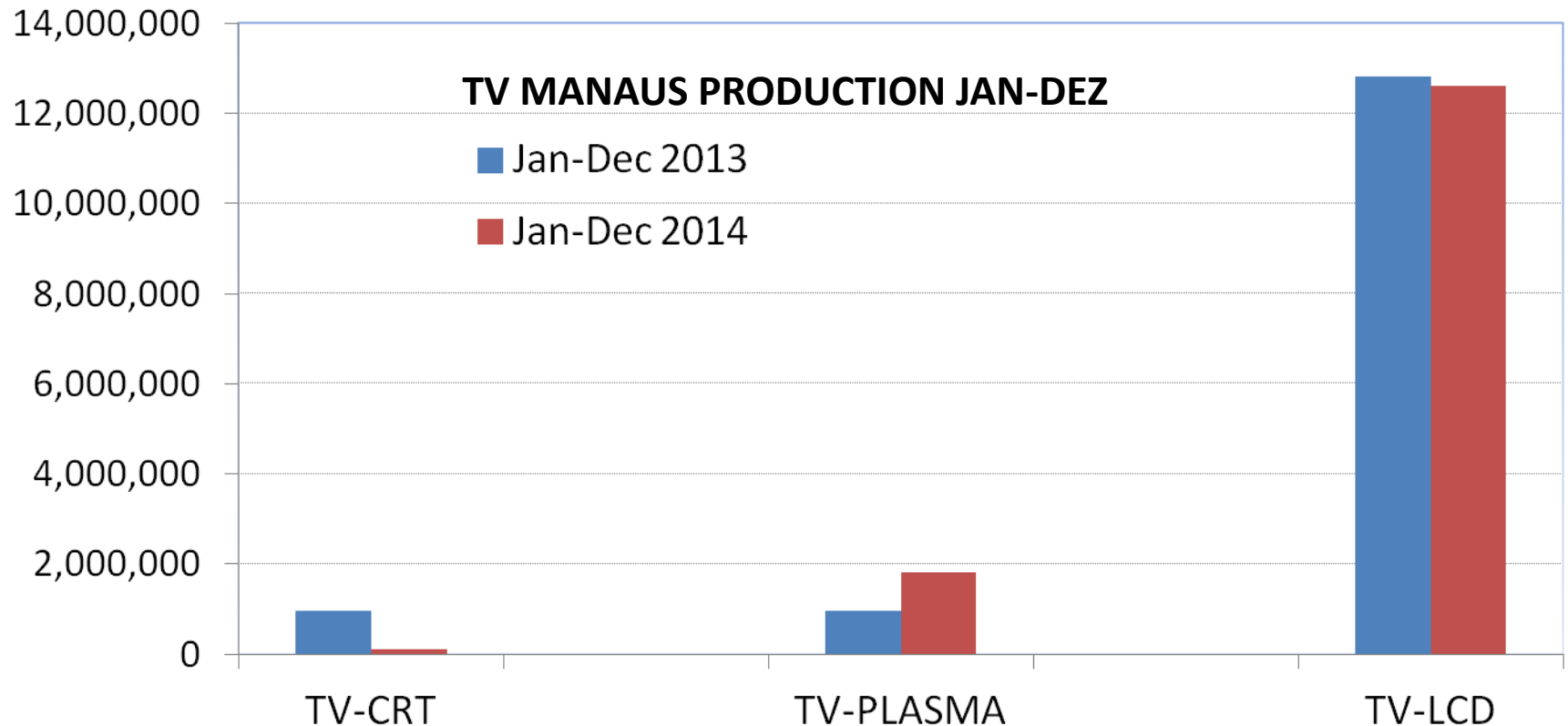
<情報・通信>

- **携帯電話**: 総台数は横ばい、スマホ倍増により単価UP
- **PC/Tablet**: PCからTabletへ需要シフト、全体はDown

<電子部品>

- 他産業不振の影響で2%ダウン

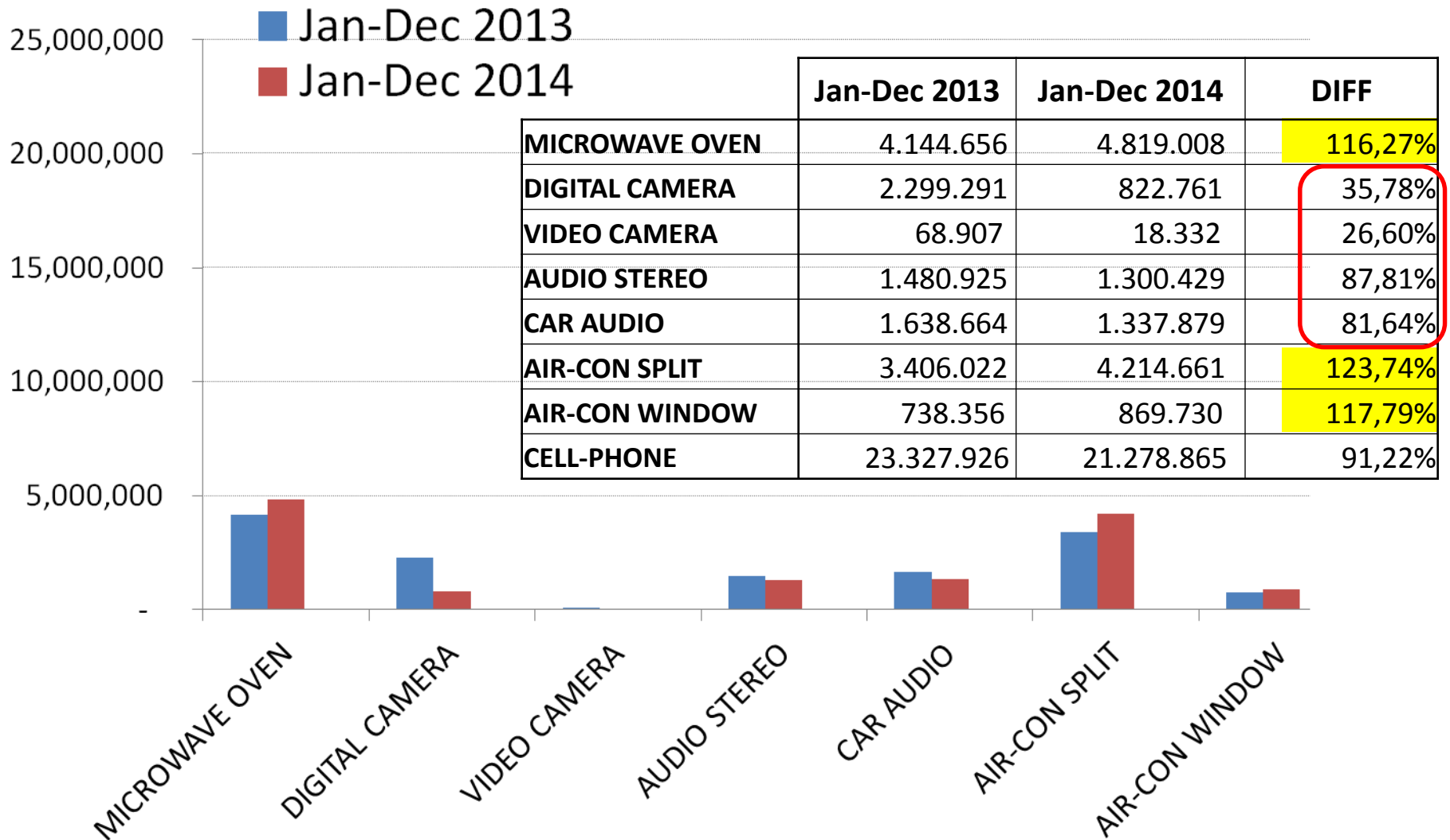
<TV> 2014 Jan-Dec Production in Manaus



TV	Jan-Dec 2013	Jan-Dec 2014	DIFF
TV-CRT	964.125	105.293	10,92%
TV-PLASMA	957.496	1.811.191	189,16%
TV-LCD	12.824.058	12.620.221	98,41%

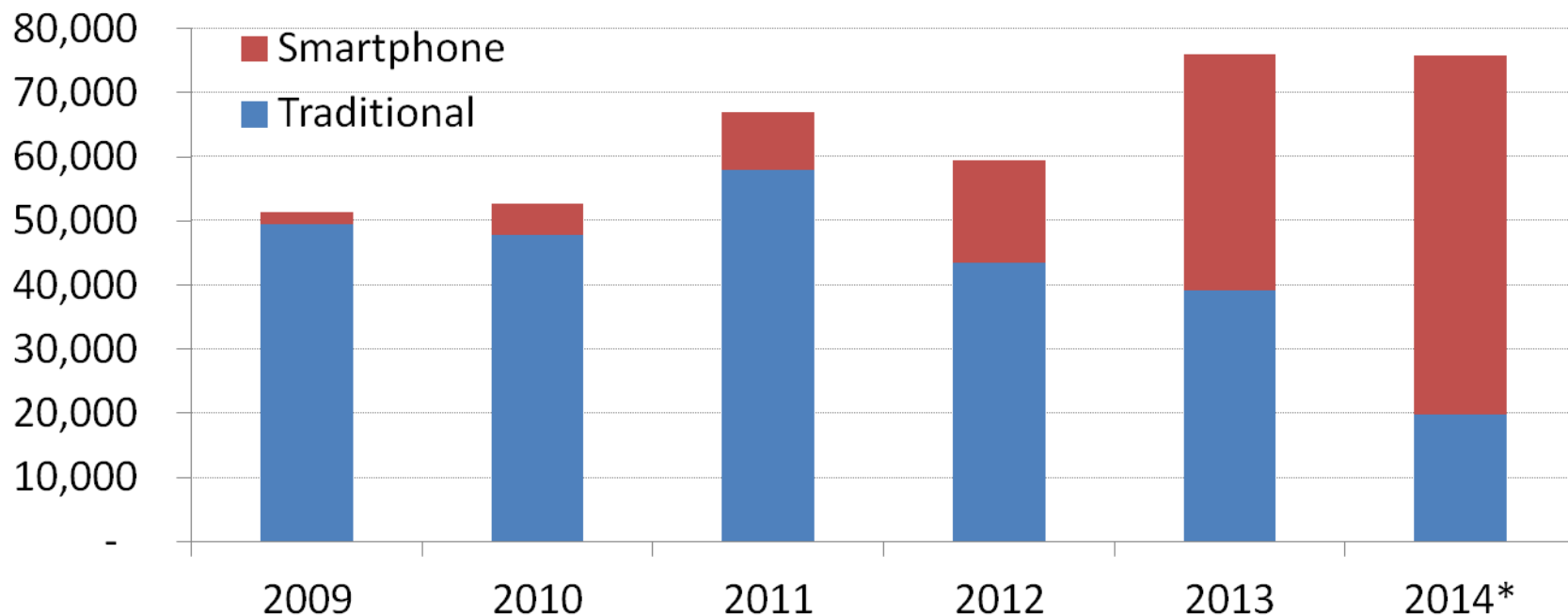
韓国勢がプラズマTVをW杯商戦で大量生産・安値販売
(結果)市場価格の乱れと過剰流通在庫

<Other AV> 2014 Jan-Dec Production in Manaus



白物家電は堅調、デジタル家電は不振（前年割れ）

携帯電話市場（販売台数）



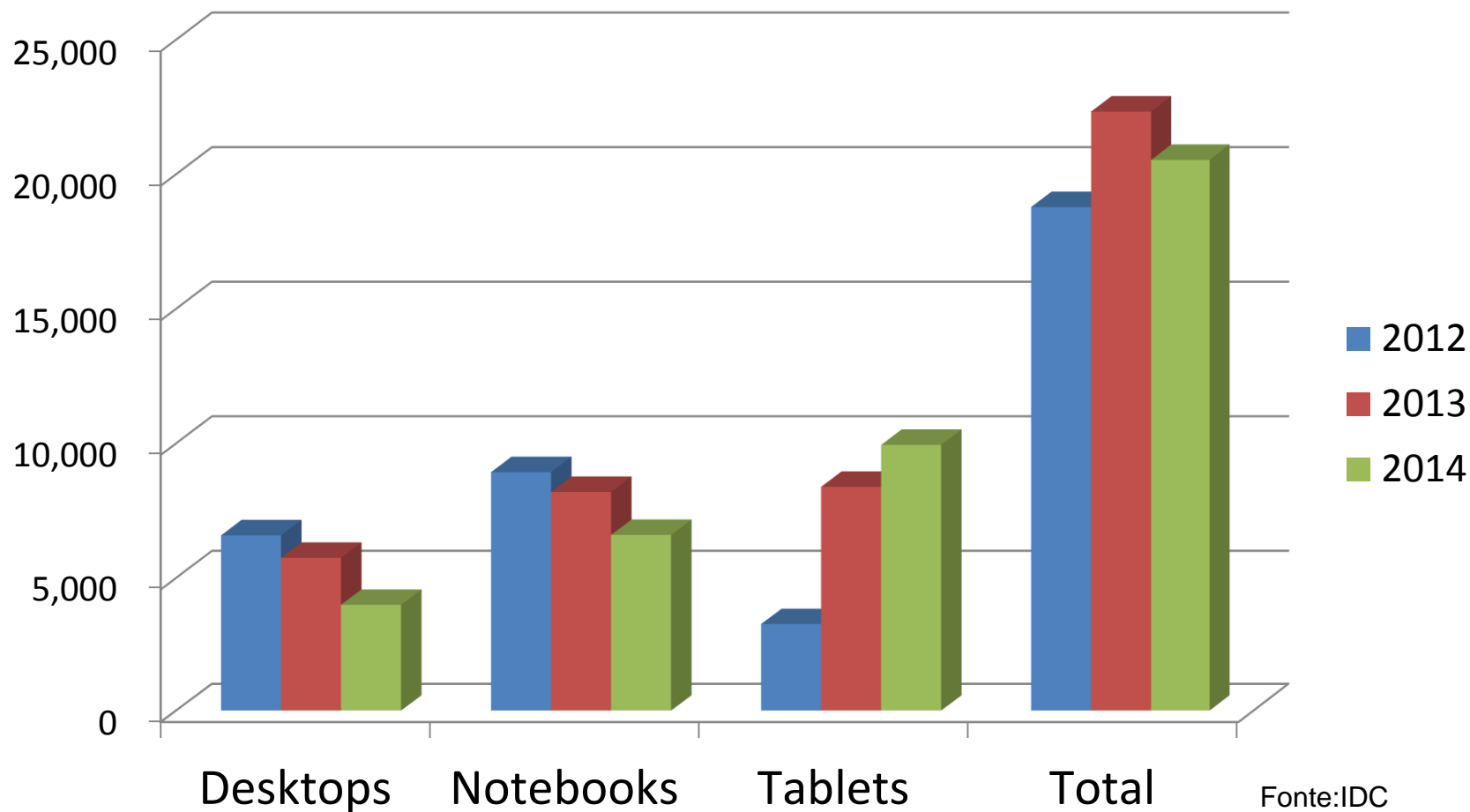
	Tradicionais	Smartphones	Total de Celulares
2009	49.500	1.955	47.455
2010	47.899	4.872	52.771
2011	58.011	8.999	67.009
2012	43.493	16.010	59.503
2013	39.103	36.918	76.021
2014*	19.874	55.878	75.753

* Projeção

Fonte: IDC

台数は横ばい、金額は27%アップ

PC/Tablet 市場（販売台数）



タブレット急伸、ノートブックを追い越す（全体はダウン）

2015年の展望

	改善	維持	悪化	合計
2015年	10	3	1	14
(%)	72%	21%	7%	100%
2014年(%)	(63%)	(0%)	(37%)	100%

<ネガティブ要素>

- 景気の改善は期待できない
- レアル安、高金利、インフレ、PETROBRAS問題
- 直近では水不足、電力不足
- 中長期では悲観的ではないが、短期的に事業環境は厳しい

<ポジティブ要素>

- リオ五輪に向けた特需(期待)
- 新規市場・顧客開拓

2015年 各社の経営課題とその対応

景気の好転が期待出来ない中で『守り』を固める

- 財務体質強化
(経費削減、コストダウン、設備投資抑制、資金確保)
- 事業インフラの充実(販売基盤確立、人材育成)
- ひたすら耐える一年！

成長へのキーワード

- 『日本ブランド』を活かしたビジネスモデルの創出
(新たな価値の創造と育成)
- 企業買収
- 輸出拡大

ブラジル政府への要望

- 複雑すぎる税制の改革
(移転価格、ICMSクレジット残、代行納税)
- インフラ改善と投資の促進
- 税金を払わない輸入に対する厳格な取締り
- 安全規格承認プロセスの迅速化
- 治安の改善

以上

コーヒーブレイク

COFFEE BREAK

司会

寺本 将人 企画戦略副委員長

APRESENTADOR

Vice Presidente da Comissão de
Planejamento e Estratégia

Masahito Teramoto

基調講演 & 質疑応答

2015年の展望／「2015年ミラノ万博」について

イヴァン・ラマーリョ 商工開発省 事務次官

Palestra do Secretário Executivo do MDIC

Ivan Ramalho

機械金属 部会

渡辺 健司 部会長

Departamento de Metalmeccânica

Presidente: Kenji Watanabe

業種別部会長シンポジウム

「2014年の回顧と2015年の展望」
再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス

機械金属部会 (目次)

- 1 機械金属部会の業種・分野別分類
セグメント別レポート.....Page 4 ~ 11
- 2 会員会社へのアンケート
内容取りまとめ..... Page 12 ~ 18
- 3 ペトロブラス汚職疑惑
日系企業への影響.....Page 20 ~ 24

2015年2月24日
川崎重エブラジル 渡辺

業種別部会長シンポジウム

機械金属部会

「2014年の回顧と2015年の展望」

再生を目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス

業種・分野別分類

- | | |
|-----------------------------|--------------|
| (1) 鉄鋼業 | (5) 農業機械業 |
| (2) 発電・社会インフラ業
(都市交通・鉄道) | (6) 各種切削工具業 |
| (3) プラント機械・船舶業 | (7) 機械・計測機器業 |
| (4) 建設機械業 | (8) 潤滑油業 |

全体概況（共通）

2014年の回顧

- ・W杯は景気刺激になるよりも稼働日数減少によるマイナス効果となった（ブラジルの2014年GDP成長率は0%）。
- ・10月の大統領選挙は経済活動が停滞すること等の不安定要素が増加。
- ・中国・ヨーロッパ、アルゼンチン経済の成長率低下で輸出産業が不振。
- ・国内経済も低迷し、自動車の販売台数は13年度比15%減少。
- ・ペトロブラスの案件はパイプ油井管・船用DGの商談数が激減など。
- ・原油価格の低下、ペトロブラス案件の見直しが発生。
- ・金利の上昇、資金調達コストの増大で経済活動が停滞。
- ・ラバジャットによる、資金繰り悪化で、債権回収遅れ発生。

2015年の展望

- ・レヴィー財務大臣は財政立て直し、インフレ沈静を軸足に、政策を進めており、政策金利も12%後半が予想され当面経済にはマイナス効果（GDP成長率は0%を予想）。
- ・ブラジル国際の格付け引き下げが予想され、資金調達コスト増加が見込まれる。
- ・輸出先の低成長傾向は継続、輸出は不振。
- ・原油・鉄鉱石・コモディティ需要減で、市場価格低迷が続く。
- ・ペトロブラス汚職疑惑は関連企業の資金の枯渇をまねき、サプライチェーン全体の縮小化を誘導。
- ・ラバジャット捜査の完結で経済モラル、社会構造の改善を期待（早期終結による中断案件の復活・金融スキームの再編）。
- ・財務体質改善による国内外の信用力回復。
- ・インフレ体質の払拭で、ブラジルコストの改善

1.鉄鋼(鋼板)

2014年の回顧

2014年伯鉄鋼生産関連情報(伯鉄鋼協会の速報)

- ・粗鋼生産:3,391万トン(13年比▼0.7%)
- ・鋼材生産:2,483万トン(13年比▼5.5%)
内訳、
鋼板 1,420万トン(同▼5.4%)、ロング 1,063万トン
- ・国内出荷:2,033万トン(13年比▼8.4%)
内訳、
鋼板 1,090万トン(同▼9.9%)、ロング 942万トン
- ・鋼材輸入397万トン(20.4%増)中国・ロシア・韓国
輸出:978万トン(13年比+20.9%)、北米・アジアに伸び

2015年の展望

2015年上期の展望

伯鉄鋼業界にとっては、非常に厳しい一年となる。

①価格・品質共に競争力ある鋼材がアジアからブラジル&中南米諸国へ入ってきていること、②ブラジル国内の自動車販売台数が落ち込む可能性があること。Distributorは現在平均して4ヶ月を超える鋼材在庫を抱えており、マーケットが価格下落傾向にあることから、在庫評価損を当面抱えることになる。

ラバジャットの影響

Petrobrasの汚職に関しても鉄鋼業界にとっては大きな痛手となるのは間違いない。Petrobrasに直接連動しているProjectで使用されている鋼材(大小Pipe、海上リグ用の鋼材)の先行き動向が不明なのと、関係会社に付随してくる造船用(含む掘削用船)の鋼材にも影響が出てくる。なお、Petrobras関連のProjectは同社メンバーからは、本事件の影響は無いとの発言をもらったものの、深海プレサルに掛かる入札関連はStopしている。

2.発電・社会インフラ(都市交通・鉄道)

2014年の回顧

発電:

- ・水不足・電力代金の高騰は電源の多様化ニーズを拡大した。
2014年の電力オークションではバイオマス火力と風力が案件を成約。
加えて、ガス炊き大型火力(GFCC)の成約もあった。
- ・小型ディーゼル発電設備の販売は2013年ベース並み。

地下鉄:

サンパウロ地下鉄6号線を8月に正式受注し、プロジェクト立上げを行った。2020年完工を目指し、現在設計作業を遂行中。

都市交通案件:

サンパウロ市モノレール(17号線)で分岐装置に使用される部品引合をフォローしていたが、6月のレール落下事故発生、その後大統領選挙に伴いプロジェクト進捗が大幅に遅延となった。

2015年の展望

- ・引き続き、深刻な水不足により電源多様化が加速される可能性。
風力・バイオマス発電案件の増加を見込む。
ガス焚大型火力の引合い。
- ・電力事情の悪化を背景に、小型DG発電セットの需要増が見込まれ、台数ベースで8%増を予想。

大都市を中心に都市交通インフラ改善のニーズは依然高く、複数の都市で地下鉄等建設計画は有すものの、施主となる州・市政府も新政権発足直後であり、商談プロセスは遅れる見込み。

案件復活も見込む

3.プラント機械・造船

2014年の回顧

製鉄: 新規投資案件見合わせ、非常に厳しい年。
石油ガス: ペトロブラスの業績不振は改善されず、新規投資案件は実質凍結の状態。油井管の引合いも停止状態。
石油化学: 新規投資活動は鈍化した状況継続。

製紙パルプ: 世界的パルプ需要は以前高く、各社設備投資を検討している。

造船: ペトロブラス疑惑の影響で傭船会社(SETEBRASIL)からの入金が滞り、事業支障大。

産業機械: 景気減速により、ブラジルのセメント各社は設備新增設計画を延期。又、客先のプロジェクトは進捗せず、新規案件の成約には至らなかった。設備既納の客先からは、安定的にスペアパーツの受注を獲得。ブラジル以外の南米各国ではセメント生産設備の新增設計画が実行に移されており、複数の引き合いを得た。先行する欧州競合先に対して、円安の進展により価格競争力は回復したが、販売・サービス体制など南米での事業規模の差は未だ埋めがたく、商談は苦戦。

2015年の展望

資源価格の下落で明るい材料乏しく、改造・補修需要程度か？
各種案件の資金調達に支障が生じる見通し。
大型PJの計画は凍結若しくは大幅日程遅延。

中国のパルプ需要も衰え、パルプの価格下落を予想。各社の設備投資にも飽和感が出始める。

造船会社の資金難を回避できる、融資。出資スキームの構築を早期に行えるかが鍵。
ペトロブラスの投資計画見直しで、契約納期などの修正が必須。

南米全体のセメント消費は拡大するが、ブラジルでの設備投資は低迷する。スペアパーツは受注を見込める。ブラジル以外の南米各国の動きに期待する。ユーロ安はマイナス要因。

4.建設機械

2014年の回顧

建設機械: 2014年度の建設機械(小型建機は除く)は15,840台、前年に比して+68台 +0.4%の微増となった。当年は大統領選挙の年であり、機液体策の一環として、農業開発省(MDA)向けテnderがあったため(上期3,098台、下期205台)台数は高レベルとなっているが、この影響を除けば、経済の停滞や金融機関の与信強化等があり建設機械の需要にとって、総じて厳しい環境であった。

小型建機ビジネス: 小型バックホールは、2014年の輸入統計全体では、前年比135%伸長しており、販売も台数ベースで前年比180%と好調であった。

2015年の展望

上期(5,500台)、下期(5,600台)、年間11,100台(25%減)。

景気の停滞が継続し、需要は調整局面に入ると見込まれる。

また2014年末にラバジャット作戦によりペトロブラス汚職に関わる国内大手建設会社から多数逮捕者がでていますが、こうしたことも影響し、2015年の建設業界は一般的に低調と思われる。回復基調が見えるのは下期以降と予想する。

労働賃金の上昇により、小型建機の増加トレンドは当分継続すると推測する。

5.農業機械(小型ディーゼルエンジン含む)

2014年の回顧

小型ディーゼルエンジンビジネス

2014年の小形ディーゼルエンジンの販売(発電機セット含む)は、全般に低調で、前年比で台数ベース102%、金額ベース(補用部品含む)105%となった。

トラクタービジネス

一昨年は業界全体で前年比117%と好調であったが、2014年は、農作物の収穫は良好である反面、市場価格が下落し、トラクター販売は、一昨年からの反動も手伝って低迷した。業界全体では1-12月で前年比85%、弊社ブランドのトラクター販売も、前年比で89%に留まった。

2015年の展望

2015年の小型エンジン販売は、全体的には低調が続くと思われるが、電力事情の悪化を背景に、発電機セットの需要増が期待され、弊社の販売は、自社ブランドの発電機セットも含めて、台数ベースで2014年度を8%程度上回ると予想する。

一方、20馬力以下のブラジル製単気筒エンジンの販売は、地方への電化による市場自体の縮小に加えて、安価な中国製エンジンの流入により、今後も低迷が続くことが予想される。

トラクター需要全体は昨年並みと推測するが、弊社ブランドの小型トラクター販売は、新機種2機種を投入することで、15%程度の増加を期待する。

6.各種工作機 & 射出成型機

2014年の回顧

電動工具: 昨年は、ワールドカップの影響で営業稼働日数が少なかったこともあり、売り上げは一ケタの伸び。また ペトロプラス関連プロジェクトで一部のメーカーは販売代金が受取れておらず、更に代理店も倒産したりで、大幅な打撃を受けている。

成形機: 2014年、ブラジルの自動車生産台数は315万台と前年比大幅減(-15.3%)。欧米系自動車会社は不振。現代自動車、日系自動車会社は攻勢。日系自動車会社関連の設備投資の実施により、成形機について何件かの受注を獲得できた。

日系以外からも引合いを得ているが、成約には至らず。各社とも新規設備投資は延期の傾向。2014年は円安の進展により欧州競合先に対する価格競争力を回復した。

切削機械: 2014年実績は、自動車の販売不振により、売上げも対前年に比べ、二桁以上の大幅な落ち込み。一方、人件費の高騰は本年も続き、また更には、2014年度後半のリアル安すは、輸入販売を行なっており、経営的に非常に厳しい状況に追い込まれています。

2015年の展望

米系メーカーがブラジルから撤退(1月)、工場を持たないメーカーは厳しい経営状況となる模様。

2月から政府のMINHA CASA MINHA VIDAによる建築需要が高まり今年は2ケタ以上の伸びを想定している。

自動車販売台数は引き続き低迷し、新規設備投資は限られる。自動車業界全般として苦しい状況が続く見通し。一方で、ブラジル政府の自動車産業政策により、自動車及び自動車部品の現地生産比率は拡大し、また自動車部材軽量化の進展で、プラスチック消費量は今後も増加する見込み。加えて日系自動車会社は引き続き生産台数を伸ばす。成形機ビジネスに商機はある。

2014年を下期を底と考え、2015年上期は、横ばい或いは非常に穏やかな上向きと見ます。しかしながら、不安要素はリアル安すであり、現状のままですと、値上げは不可欠で、市場の反応が心配。

7.機械・計装機器

2014年の回顧

チェーン:

現地チェーンメーカーが製作していない高機能商品を製紙、製菓業界中心に継続的にPR活動してきた結果、数社から他社置換受注に成功した為、今後納入成功事例として活用し同業界のお客様へ水平展開、販売拡大が期待できる。

ポンプ:

当社の業績としては増収減益の見込みであり、ここ数年間では一番厳しい年であった。当地のポンプ業界も、O&G向けは土砂降り、アルコールなどの産業向けや公共事業(上下水)向けも受注が減少しているため減収減益のメーカーが多い旨。

ホイスト・クレーン: 2014年は工業成長率の落ち込みに伴い、新規設備投資が大幅に削減された。競合先の独DEMAGは、ブラジルクレーンビジネスを大幅に縮小し、すでに人員解雇にも踏み込んでいる。

さらに、FINAMEの融資金利上昇、銀行から設備サプライヤーへの支払い期限延長が企業のCash Flowに影響を及ぼし始めており、支払いを猶予しなければならないケースもでている。

2015年の展望

定業界に営業活動を絞り補修用ビジネスの取り込み及び新規OEMへの納入を目指し販売増加を狙う。昨年 of 納入成功事例を活用し、同業界のお客様へ水平展開と深耕による需要の掘り起こしを行い、販売拡大に繋げる。

昨年、当社のライバル企業が欧米系ポンプ・モーター会社を買収され、価格・品揃え等競争面で大きな影響が出ており、年内には対抗できる新製品発売を予定している。ポンプ業界全般でも、昨年以上の厳しい事業環境が継続すると認識している。

8.潤滑油・ベアリング

2014年の回顧

自動車・二輪向け

ワールドカップによる稼働日減少や不景気による自動車・二輪販売の低迷などにより、完成車メーカーの生産・在庫調整が大きく悪影響。周辺国の経済状況悪化も内需・外需共に悪化要因。インフレ抑制のための金利上昇も与信悪化を招き、売上に悪影響。

産機OEM向け

商品相場の下落による取引条件悪化による取引減、雨不足による耕作不良、輸出先国の需要減などにより、第一次産業向けでは特に厳しいビジネス環境。電気向けでは前年同等となったものの、

アフターマーケット

2014年3月頃からの景気低迷・不景気により、客先の外売りが急ブレーキ。在庫調整を試みるも、外売りの落込みが続き、底打ち感を感じられない。10月以降は特にリアル安が顕著になるが、依然としてコストの安い中国品の台頭が目立つ。

切削油

4月の為替相場(R\$ 2.20/USD)により、中国品の輸入により国内メーカーの仕事量が減少。O社は航空機メーカーでの切削油認証を獲得、Embraer協力会社への販売が可能となった。

2015年の展望

引続き、自動車メーカーの在庫調整と弱い消費者需要により、売上低迷が続くと見込む。高い金利や経済低迷により、需要回復のスピードは非常に緩やかと見込む。

市場拡大が限定的であることから、収益性確保のためのコスト改革必須。

新規販売網の開拓や代理店との協働による市場ニーズの掘り起こし、グループサプライチェーンの活用を活かした幅広い製品ラインアップとコストダウンの相乗効果により、シェア拡大を目指す。

高品質と納期を守る会社には仕事が集中する傾向があり、高付加価値商品の販売が期待できる。

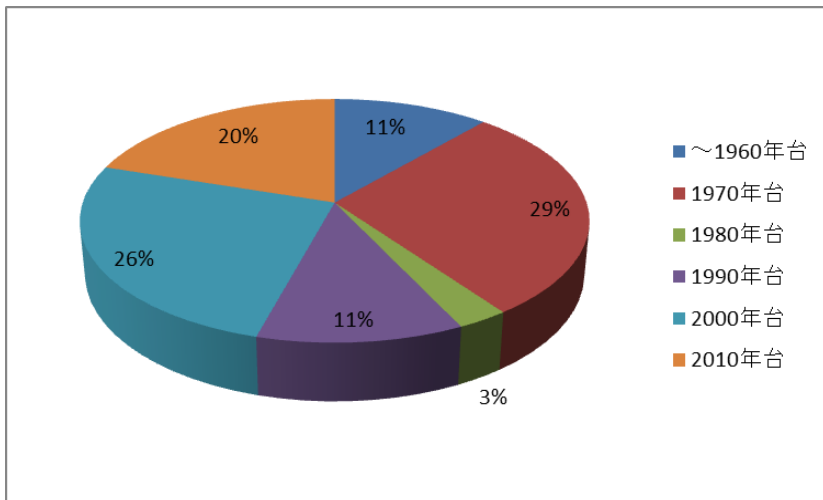
機械金属部会 会員会社へのアンケート実施

35社よりアンケートの回答を受領

(2014年11月)

AMADA DO BRASIL LTDA.	Mitsubishi Electric do Brasil
AZBIL DO BRASIL AUTOMAÇÃO LTDA.	Mitsubishi Industrias Pesadas do Brasil Ltda.
CBC INDUSTRIAS PESADAS S.A.	Mitutoyo Sul Americana Ltda.
EBARA Ind. Mec. e Com. Ltda.	MIURA BOILER DO BRASIL LTDA.
Hitachi South America, Ltda.	MMC METAL DO BRASIL LTDA.
Idemitsu Lube South America Ltda.	Murata do Brasil
JEOL BRASIL INSTRUMENTOS CIENTIFICOS LTDA.	NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL EMPREENDIMENTOS SIDERURGICOS LTDA.
KAWASAKI DO BRASIL INDÚSTRIA E COMÉRCIO LTDA.	NSK BRASIL LTDA.
KBK do Brasil Comércio de Máquinas Ltda.	SINTO BRASIL PRODUTOS LIMITADA
KITO DO BRASIL COMERCIO DE TALHAS E GUINDASTES LTDA	Sumitomo Industrias Pesadas do Brasil Ltda.
Komatsu Brasil International Ltda.	TADANO Brasil Ltda.
Koyo Rolamentos do Brasil Ltda.	TMEIC SISTEMAS INDUSTRIAIS DA AMERICA DO SUL LTDA
KYOCERA DO BRASIL COMP. INDUSTRIAIS LTDA.	TOYO SETAL EMPREENDIMENTOS LTDA.
Makita do Brasil Ferramentas Electricas Ltda.	Tsubaki Brasil Equipamentos Industriais Ltda.
MAYEKAWA DO BRASIL EQUIPAMENTOS INDUSTRIAIS LTDA	UBE LATIN AMERICA SERVIÇOS LTDA
MAZAK SULAMERICANA LTDA.	Yanmar South America Industria de Maquinas Ltda.
Metal One do Brasil Ind.Com.e Representacao Coml.Ltda.	YUSHIRO DO BRASIL INDUSTRIA QUIMICA LTDA.
MHI Sul Americana Distribuidora de Motores Ltda.	

会員企業のブラジルでの創業年



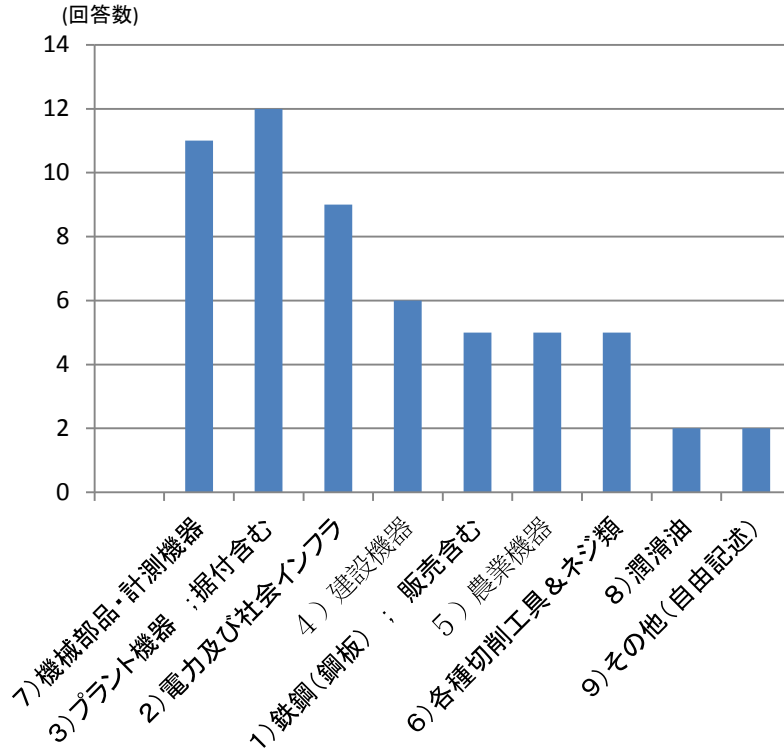
- 2000年以降に創業を開始した会員が全体の約半数近い。
- 1970年代までの創業 及び 2000年以降に創業開始という二極化が見られる。

ブラジル国内工場

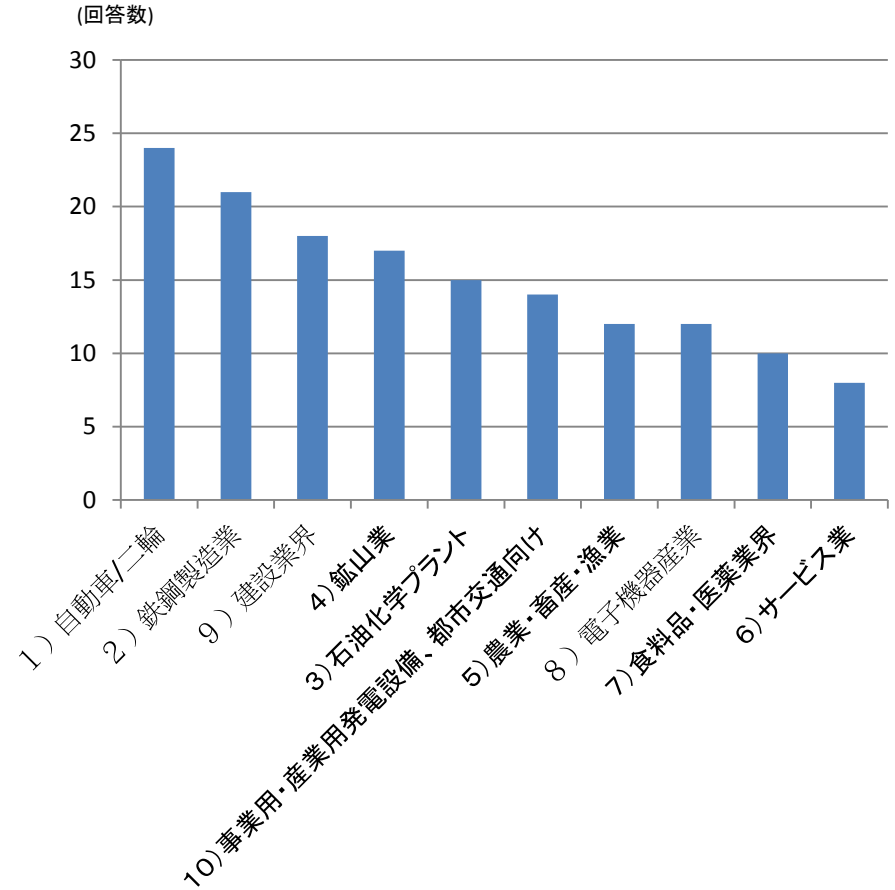
州	都市	設立年
サンパウロ州	インダイアトゥバ	1960
サンパウロ州	アルジャ	1970
サンパウロ州	スザノ	1972
サンパウロ州	サンパウロ	1973
サンパウロ州	スザノ	1974
サンパウロ州	カサババ	1974
サンパウロ州	ジュンジャイ	1975
サンパウロ州	バウル	1975
サンパウロ州	スザノ	1975
サンパウロ州	アルジャ	1989
ブラジル全土 (鋼材サービスセンター)	(10工場)	
パラナ州	ポントグロッサ	2009
サンパウロ州	イトウ	2011
サンパウロ州	アチバイア	2011
サンパウロ州	カピバリ	2014
サンパウロ州	ジュンジャイ	2014
リオ・グランデ・ド・スル州	サン・ジョゼ・ド・ノルチ	2014

- 回答35社中、13社がブラジルに工場を有している。
- 1970年代 若しくは2010年代に工場を設立した会員が多数 (会員の創業開始時期に比例)。
- 主には、サンパウロ州に工場を有している会員が多い。

業種・分野

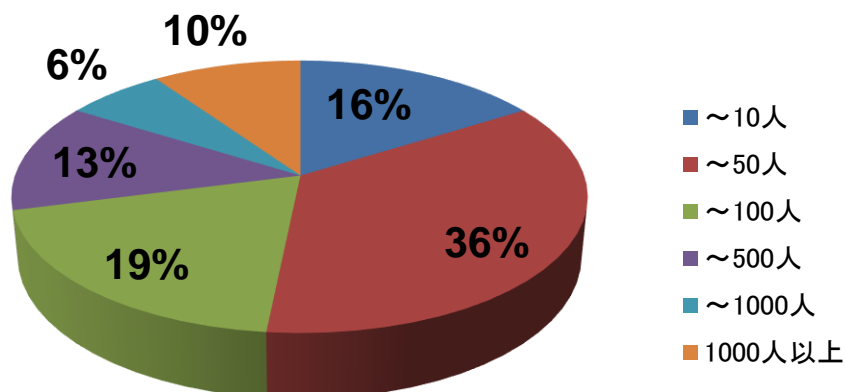


製品が使われている業界

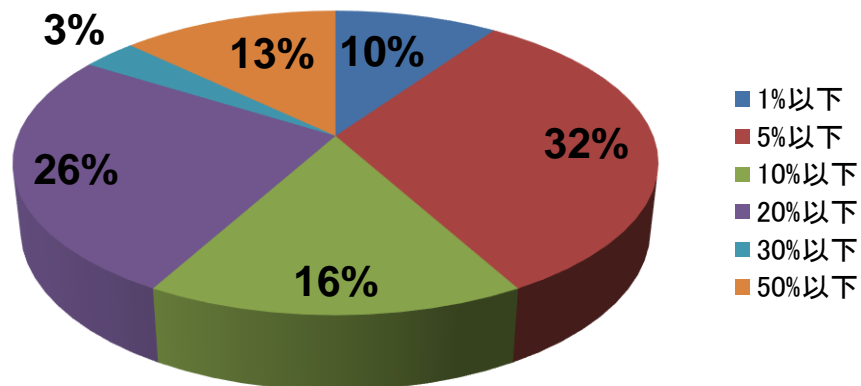


ブラジル国内従業員数 及び 日本人駐在員の割合

ブラジル国内従業員数



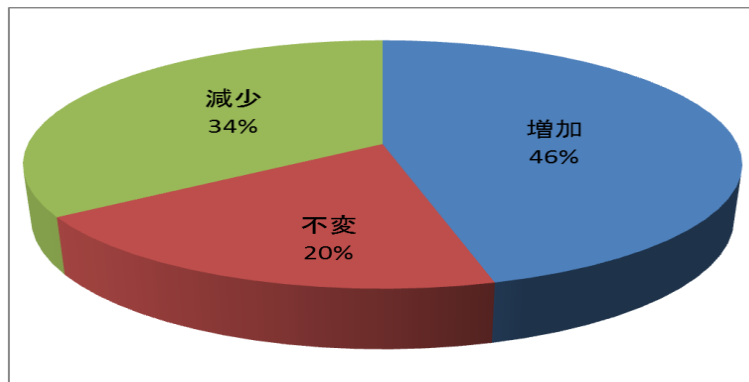
日本人駐在員の割合



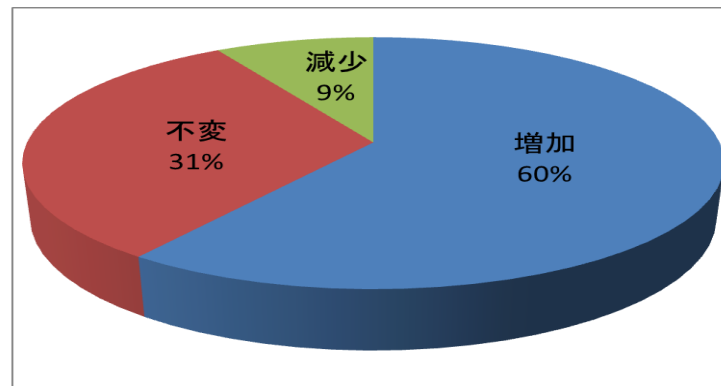
- 従業員数は、50人以下の企業が約半数を占める。100人以下で70%。
- 日本人駐在員の割合は、10%以下の会員が半数以上。20%以下で80%強。

2014年の回顧と2015年の展望

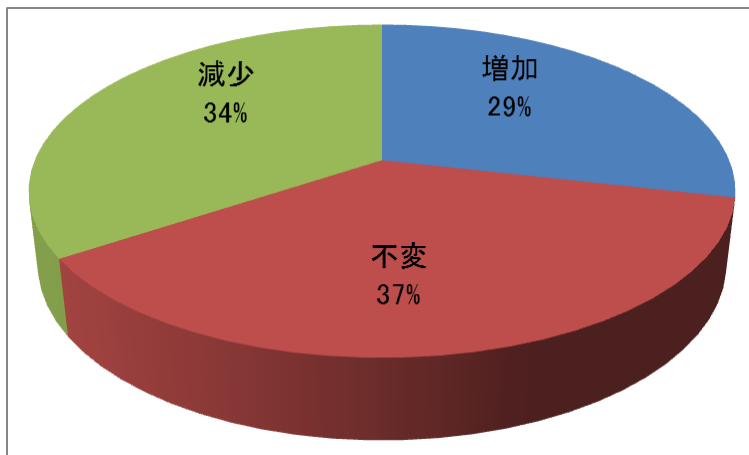
[2014年 売上予想]



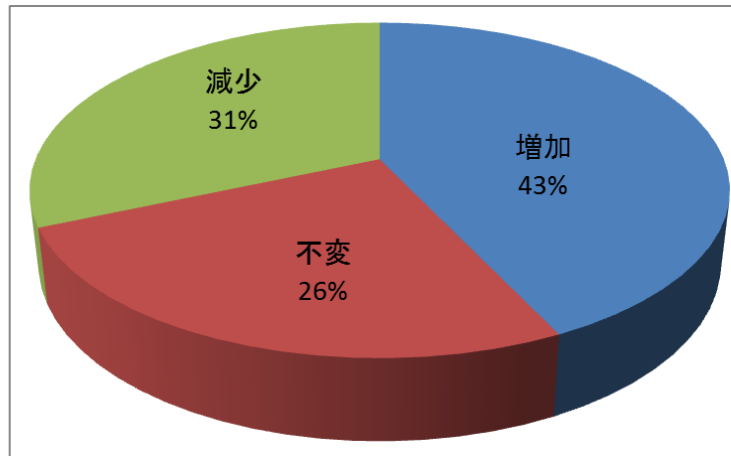
[2015年 売上予想]



[2014年 利益予想]

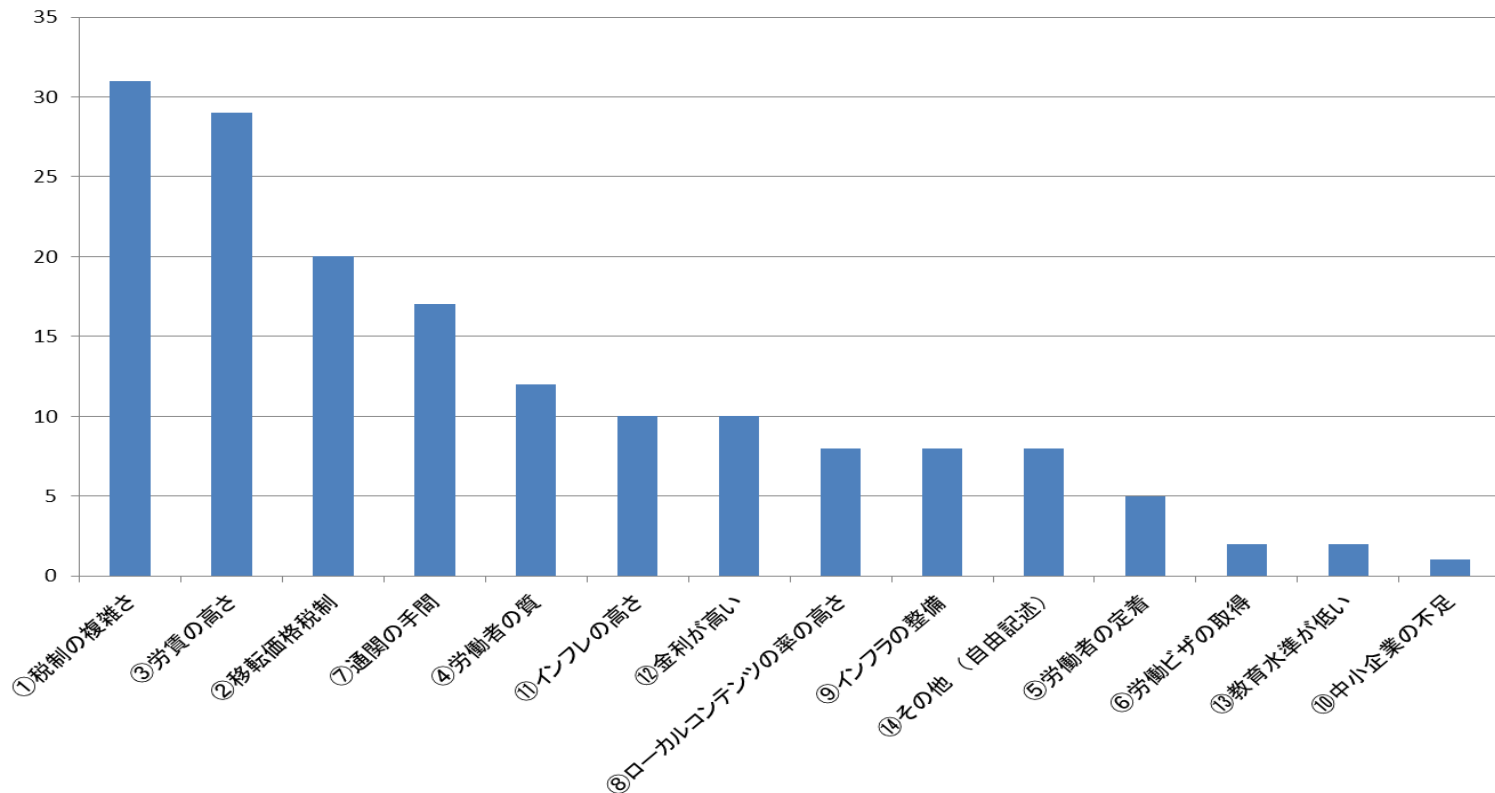


[2015年 利益予想]



- 売上は、2014年と比べて、2015年には“減少”と回答した会員数は減り、“増加”・“不変”と回答した会員数が増加。
- 利益は、2014年と比べて、2015年には“不変”と回答した会員数は減り、主には“増加”と回答した会員数が増加。

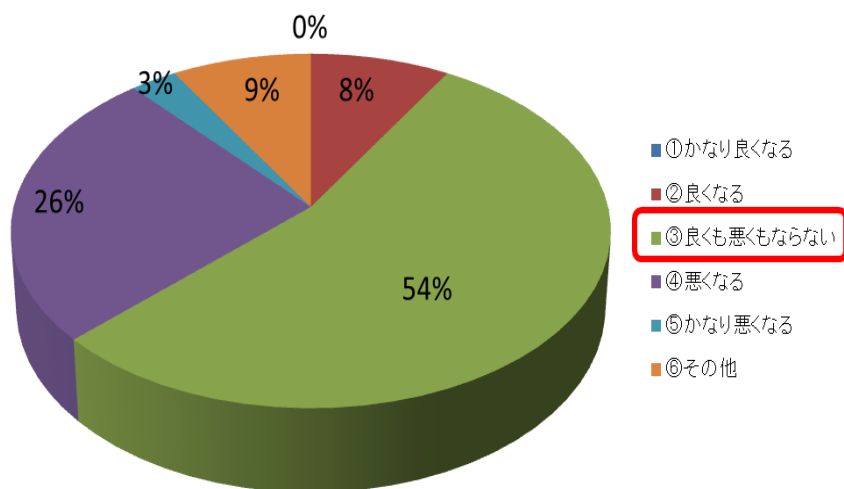
ブラジル経済における今後の課題



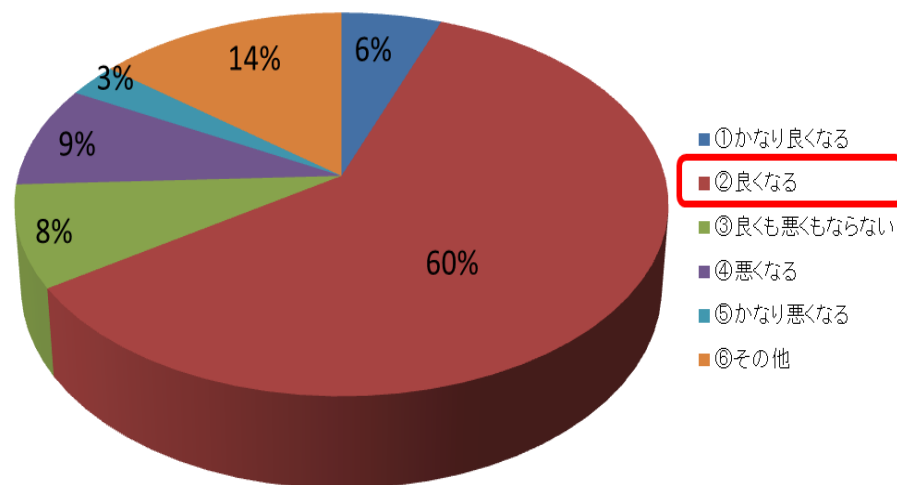
- ①税制の複雑さ、③労賃の高さ、については、大方の会員が課題として挙げている。
- その他の意見としては、次のような回答あり。
 - ・日本本社のブラジルの諸事情に対する理解力が無い
 - ・建設機械の場合、客先購入資金のBNDES資金への依存が大きく、政府財政による影響が大きい。
 - ・治安の悪さ。
 - ・税務当局がかなり恣意的に違反認定を行う-裁判になれば長期化・敗訴も想定され、税務当局は最大の潜在リスク。
 - ・銀行与信の厳しさ
 - ・政府の政策の一貫性・実行力の決如

ブラジル経済における今後の課題

【今後2年間】ブラジル経済の見通し



【5年後】ブラジル経済の見通し



- 今後二年間という期間では、“良くも悪くもならない”という見通しが多数。
- 一方、5年後に関しては、期待も込めて“良くなる”との見通しが多数を占めた。
- また、今後の見通しについて、以下のようなご意見もあった。
 - ・新政府の経済政策次第。対応を誤れば、悪化する可能性もある。
 - ・予測困難。
 - ・2016年より、構造改革が奏功して、政府依存を脱却したマーケットなること期待。
 - ・政治はある意味安定している一方、足元でも経済コントロール(舵取り)を失っている。

どう頑張る日系ビジネス

事業環境は、在庫調整・弱い消費者需要・設備計画の遅延・金利高で投資意欲の低下など、ブラジル経済の回復のスピードは穏やかと見込まれる中、どのような対応を考えるか。

- 市場拡大が限定的であることから、収益性確保の為のコスト改善。
- 数少ない案件を着実に受注につなげる／中小規模案件への対応強化／他南米諸国ペルー、コロンビア、チリの顧客開拓。
- **顧客の要望に敏速柔軟に対応する日本人らしさは信頼を構築していく上で重要。**
- 新しい事業の開拓、従来のビジネスフィールドに固執しない。コアになるソリューションに集中。
- 生産性向上、品質向上、省エネ対応の自動化など、Know-Howの提供。
- 前払い金の金利コスト負担などが大きく、本年度より本社資金を活用したファイナンスに切り替え。

ペトロブラス汚職疑惑

国営企業のガバナンス



連邦警察の特別捜査開始で、ペトロブラス石油公社の幹部をはじめ、大手ゼネコン他(23社)が捜査の対象となった。

対象項目	諮問機関
カルテルの形成	⇒ CADE(経済防衛行政審議会)
経営管理の欠如	⇒ Poder Judiciario(司法裁判)
贈収賄	⇒ CGU(国家総監督省)
入札の偽造	⇒ TCU(商業裁判所)
脱税	⇒ RF(連邦税務局)

結果的にブラジル市場では、

- ① 進行中公共プロジェクトの工事停止;
- ② 労働者の解雇;
- ③ 新規プロジェクトの先送り;
- ④ 投資家離れ等が起こり、今後の公共事業の推進に悪影響が出ている。

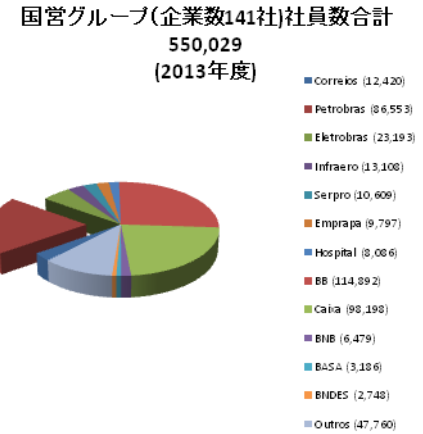
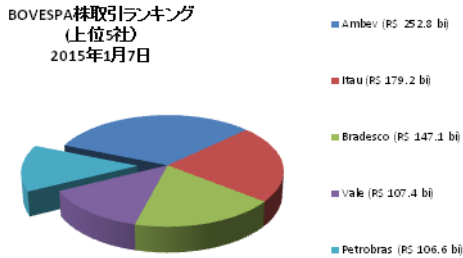
ラヴァ・ジャット作戦の行方は予測困難だが、官民の関係改善などが期待される等のポジティブな局面もある。

ペトロブラス汚職疑惑

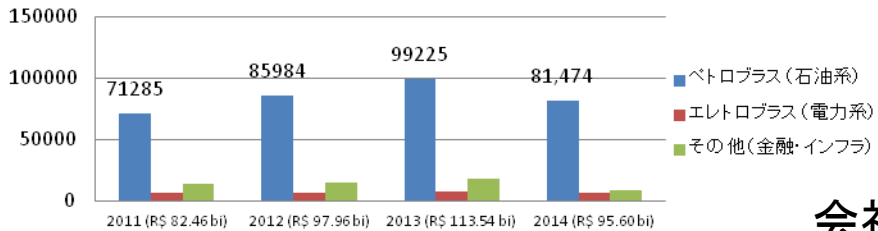
ラヴァ・ジャット作戦がブラジル経済にもたらす悪影響		有識者コメント
1	ラヴァ・ジャット作戦に伴い、2015年度のブラジル経済は圧迫されるか？	ペトロブラスの存在感(年間投資額約700億レ、サプライチェーンを構成する企業数約6千社)は軽視できない。 年間投資額を10%削減すればGDPに0.5%減のインパクトをもたらす。
2	捜査対象企業の司法取引によって、罰金を支払いながら運営を続行できるのか？	捜査は「カルテルの形成」、「経営管理の欠如」、「贈収賄」、「入札の偽造」、「脱税」疑惑等が対象となるため、司法取引の実現は難しい。
3	司法取引が成立しない場合、対象企業らは判決が下る前に破産する可能性はあるか？	判決を下すには長い期間が必要であり、企業側が会社更生を申し立てる可能性が強い。 分散型事業を推進する企業はリスク回避し易いが、油田開発案件に依存度が高い企業は倒産の恐れあり。
4	ラヴァ・ジャット作戦の影響低減に各社はどう対応しているのか？	資金源確保が焦点。資産売却は買い手側に大きなリスクをもたらす。
5	各企業が捜査を受けている最中に既受注プロジェクトはどうなるのか？	裁判で判決が出るまでは操業続行可。敗訴となれば公的機関は同契約を取り消し、再入札実行の責任がある。
6	対象企業に対してどのような処罰が科せられるか？	カルテル形成という判決であれば、総売上げに対し最高20%の罰金に加え、公共機関と契約締結禁止(5年間)。 贈収賄法という判決であれば、罰金(20%が上限)の他、公共銀行からの融資が受けられなくなる(5年間)。
7	対象企業が既契約の取消し及び新規の公共契約を締結できない場合、外資系企業は需要に応じれるのか？	法律の複雑さ(国内での子会社設立、CREA資格取得)や採算性などの観点から事業に乗り出すのは困難。
8	ラヴァ・ジャット作戦はペトロブラスの中期的にネガティブな経済効果をもたらすのか？	中期計画実現に不可欠なインフラ拡大プロジェクトがまず中止される恐れあり。 汚職疑惑を巡る問題が解決しない限り、政府が新規プロジェクトのコンセッション入札を展開は困難。
9	今回の危機は他の経済分野にも悪影響を及ぼすのか？	①金融システムの反応、② 他国営企業やペンション・ファンドに対する捜査の有無、 ③ 開発銀行(BNDES)に対する取り調べの程度等によって変わる。

ペトロブラス概要

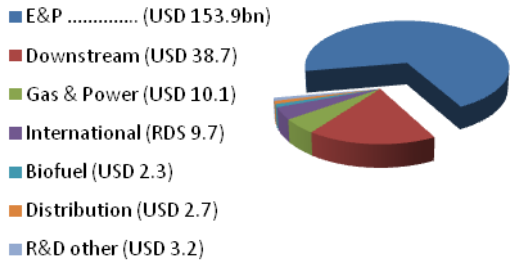
株主	議決権	普通株(%)	優先株(%)
連邦政府	あり	50,26	0
BNDES	なし	11,11	26,87
他投資家	なし	39,63	73,13
		100(%)	100(%)
株数		7.442.454.142	5.602.042.788



国営グループ投資額

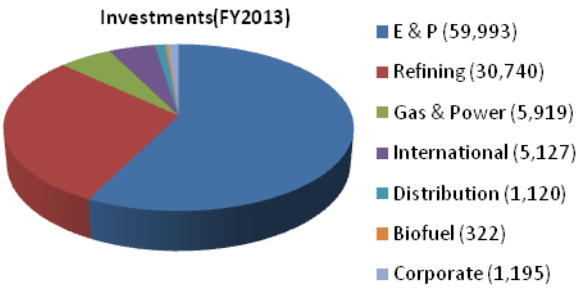
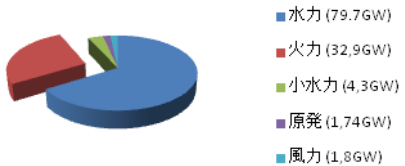


ペトロブラス中期計画(2014-2018)



Subsidiaries (100% owned)		
1	Transpetro	
	- Maritime transport	326(57 own) vessels
	- Terminal & pipeline	34,639km
	- Natural Gas	7,500km
2	Gaspetro (Brazil-Bolivia)	7,000km
3	Liquigas (LPG distributor)	4,800 resellers

ブラジル(発電規模)



会社概要(2014)

投資額	R\$ 99.225 billion (2013)
純収入	R\$ 304.89 billion
純利益	R\$ 23.57 billion
株式保有者	798.596
進出国	17 countries
従業員数	86,553
原油生産量	2,539,000 (boed).
確認鉱量	16.57 billion (boed)
リグ隻数	134 (77 Fixed; 57 floating)
製油所	15
生産量	2,124,000 barrels per day
バイオプラント	5 biodiesel (2 J/V included); 10 ethanol (J/V)
火力発電プラント	21 plants (6.7GW)
風力発電	4 plants
ガソリンスタンド	7,710
肥料プラント	3 plants

Petrobras疑惑が及ぼした機械金属部会企業への影響

	間接	直接
1. 鉄鋼	油製管用鋼材の引合い殆ど停止 造船各社(FPSO, DS等Petrobras備船) の鋼板商談停止	
2. 発電・社会インフラ	火力発電案件の計画遅延	
3. プラント機械	O&G等、Refinery設備引合い中断	契約の一部解除(EPCコンソーシアム)支払い遅延
4. 造船	案件見直しで、契約内容の修正(?) 船用D.Engの引合いは2年間無し	支払い遅延(8億リアル)SETE BRASIL 労働者解雇、倒産危機
5. 建設機械	大手ゼネコンの公共事業への入札停 止などで、引合い数は低調	
6. 農業機械		
7. 産業工作機械	投資計画見送り	資金回収難、代理店の倒産、契約キャンセ ル
8. 機械・計測機器	投資案件の遅延 日本からの投資意欲半減	支払い遅延(3億リアル)ABMAQ調査 不良債権化
9. 潤滑油		

- ブラジルのビジネスチャンスが減少したとして、日本からの投資の減退が心配。
- ブラジル企業の労働者の解雇も多数発生。
- 日伯双方の経済に打撃となっている。
- 代金回収できず、連鎖的に資金の流動性が停止、操業が困難になっている。一部倒産企業も。

Petrobras疑惑が及ぼした機械金属部会企業への影響

Petrobrasの汚職疑惑で、直接的損害を受けている企業は主に

1. 造船(約8億レアルの債権回収: Sete Brasil)

2. 機械装置(約3億レアル: ABIMAQ)であるが、

サプライチェーンを構成するメーカーを含めると、その数字は更に広がる。

Petrobrasの本業である、石油ガス掘削、石油精製、石油化学、肥料プラントなど、関連企業が膨大であり、Petrobrasが10%の設備投資を減らすとGDP0.5%マイナスになるとも言われており、ブラジル経済へのマイナスインパクトは計り知れなく大きい。

- ✓ **早期の決着がブラジル経済の再生スタートに不可欠。**
- ✓ **政治的リーダーシップによる企業支援(特に運転資金の補充)**

＜ジルマ大統領の所信表明演説＞2015年1月27日

- 汚職に対する再発防止メカニズムを改善・導入すると同時に、犯罪者を厳しく処罰すべき。
- しかしながら、企業(官民を問わず)はブラジル経済の発展に不可欠であり、絶対に破壊してはならない。

食品 部会

岡崎 徹 副部会長

Departamento de Gêneros Alimentícios

Vice Presidente: Toru Okazaki

2014年の回顧と2015年の展望

ブラジル日本商工会議所

食品部会

2015年2月24日(火)

目次

◆ 2014年の回顧

◆ 原・燃料動向

◆ 2015年の展望

◆ 副題

-どうする日伯ビジネス-

「再生目指すブラジル経済」

2014年の食品市場概況

◆ ブラジル国内市場概況

- 食品産業全体では、物量ベース前年比90%、金額ベース前年並みと見込む。
- 景況感悪化に加え、コスト増による値上げの影響で消費マインドが大きく冷え込んだことが影響。
- 調味料、乳飲料、粉末飲料、外食向けなど、効果的な施策で、前年を大幅に上回る企業もあった。
- 輸入酒類、日本食ブームや健康価値を捉えたカテゴリーについては、引き続き市場拡大が続いている。

2014年の業界動向

◆ 部会各社関連状況

<酒類>

- W杯の好影響でビール消費好調。
- 不況の影響を最も受けたカシャーサは減退。
- 輸入ウイスキー、ウオッカ、スピリッツは堅調に推移。
- 清酒は低価格品の参入で競争激化。

2014年の業界動向

<飲料>

- ・発酵乳飲料は本数ベース107%、金額2桁増。
果汁飲料も110%と好調に拡大。
- ・粉末ジュース市場は前年比112%と順調に推移。

<コーヒー>

- ・店頭価格が30%程度上昇する局面もあったが、
売上は前年比101%を確保。

2014年の業界動向

<調味料>

- ・固形、粉末調味料市場は前年比106%と堅調。
- ・醤油、味噌、米なども日本食の広がりにあわせ、国内産、輸入とも好調。

<即席麺>

- ・市場は食数ベースで前年割れと見込む。
原料小麦コストが10月以降改善。

2014年の業界動向

◆ 輸入

・キッコーマン:

並行輸入品が減少し、売上アップ。

通関トラブル→複数インポーター採用。

2014年の業界動向

◆ 加工食品等向け素材

- ・チョコレート業界ではイースターが低調であったが原料のココアバター高騰による代用油脂への切替が進み販売を大きく伸ばした。
- ・食品香料は日系顧客向けの売上堅調もマルチナショナル顧客向けは不況を反映して低迷した。
- ・酵素製品は新規顧客開拓により売上増。

2014年の業界動向

◆ 種苗

- ・ブラジル種苗業界全般に付加価値商品 (F1 Hybrid) の需要が増加。欧州、米国、日本の主要会社が堅調に売上を伸ばす。

2014年の業界動向

◆ TOPICS

- ・NHフーズが年末に国内販売許可取得
日本向け畜産輸出は鶏肉を中心に好調。
- ・JTが商工会議所加盟 -事業再開2014年2月-
南東部中心に2ブランド展開。

原料動向

全体コメント

◆ 長期の傾向

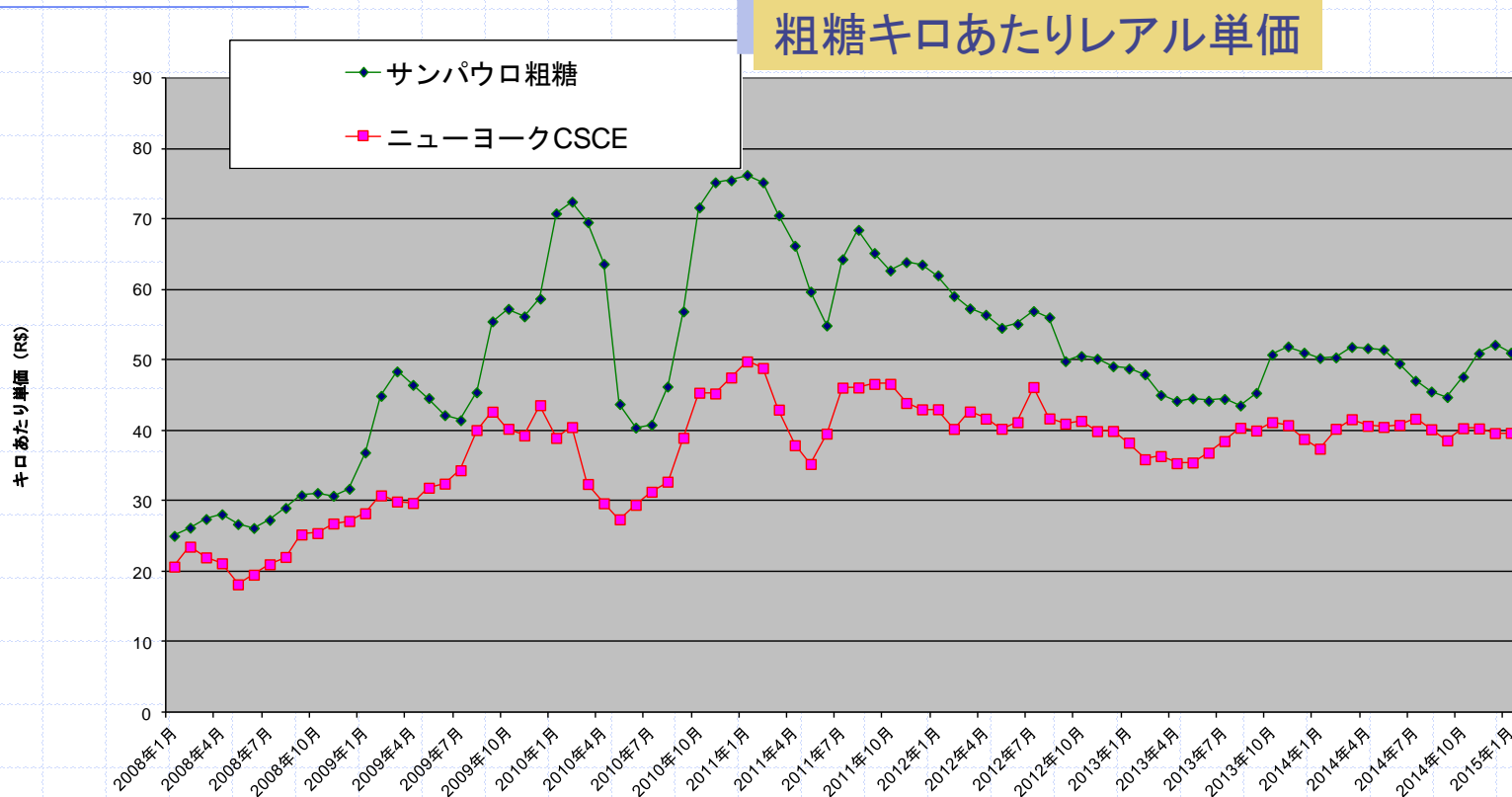
- ・経済新興国の食品消費拡大
- ・エタノール需要の増加による需給逼迫
- ・主要産地での異常気象
- ・投機マネーのコモディティ市場への流入

◆ 2014年の状況

- ・砂糖：供給過多のため安値（年後半、反転）
- ・乳製品、小麦：アルゼンチンの生産安定し、相場安定

原料動向

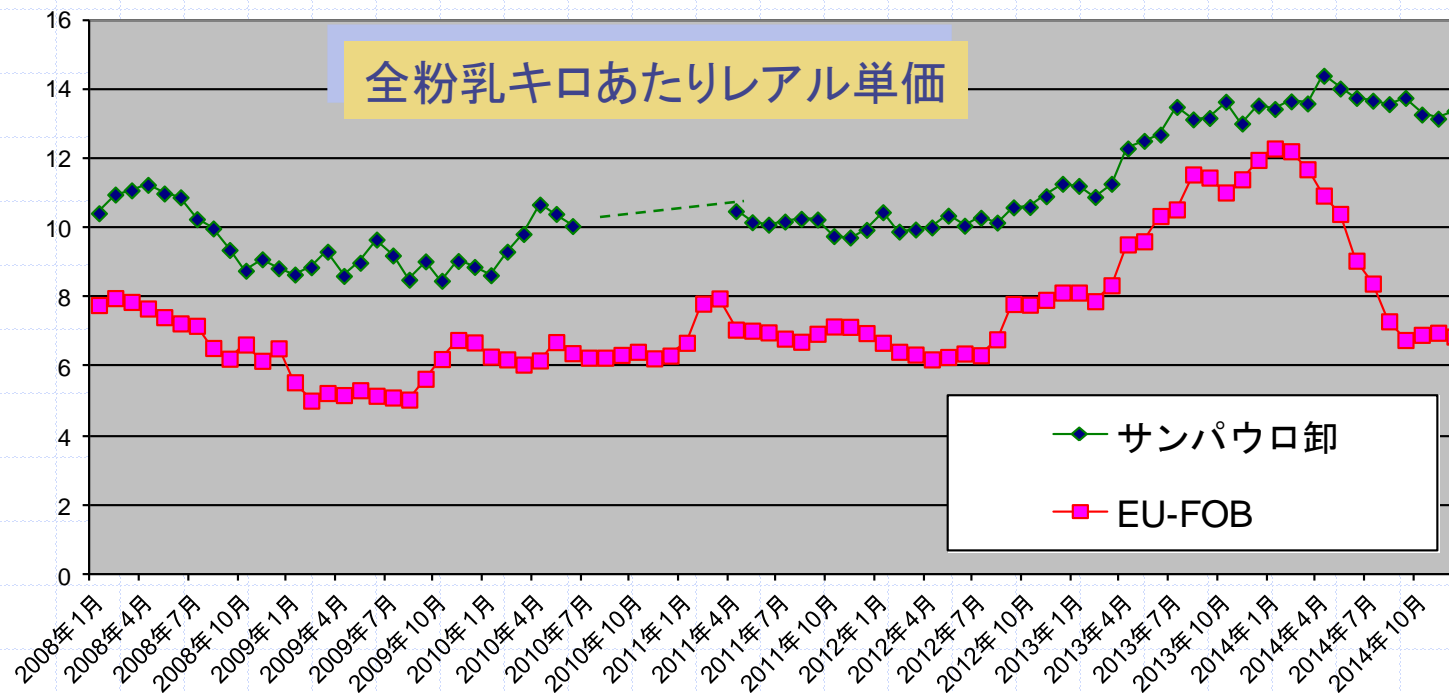
砂糖相場の推移(2008～)



◆2009～2011年にかけて高値かつ乱高下を続けていたが、2012年からはサトウキビ生産増に伴い相場は下落かつ安定してきた。ただし干ばつによる収穫量減少懸念からこの局面も長続きせず、思惑買いによる反転への動きも見られる。

原料動向

乳相場の推移(2008～)

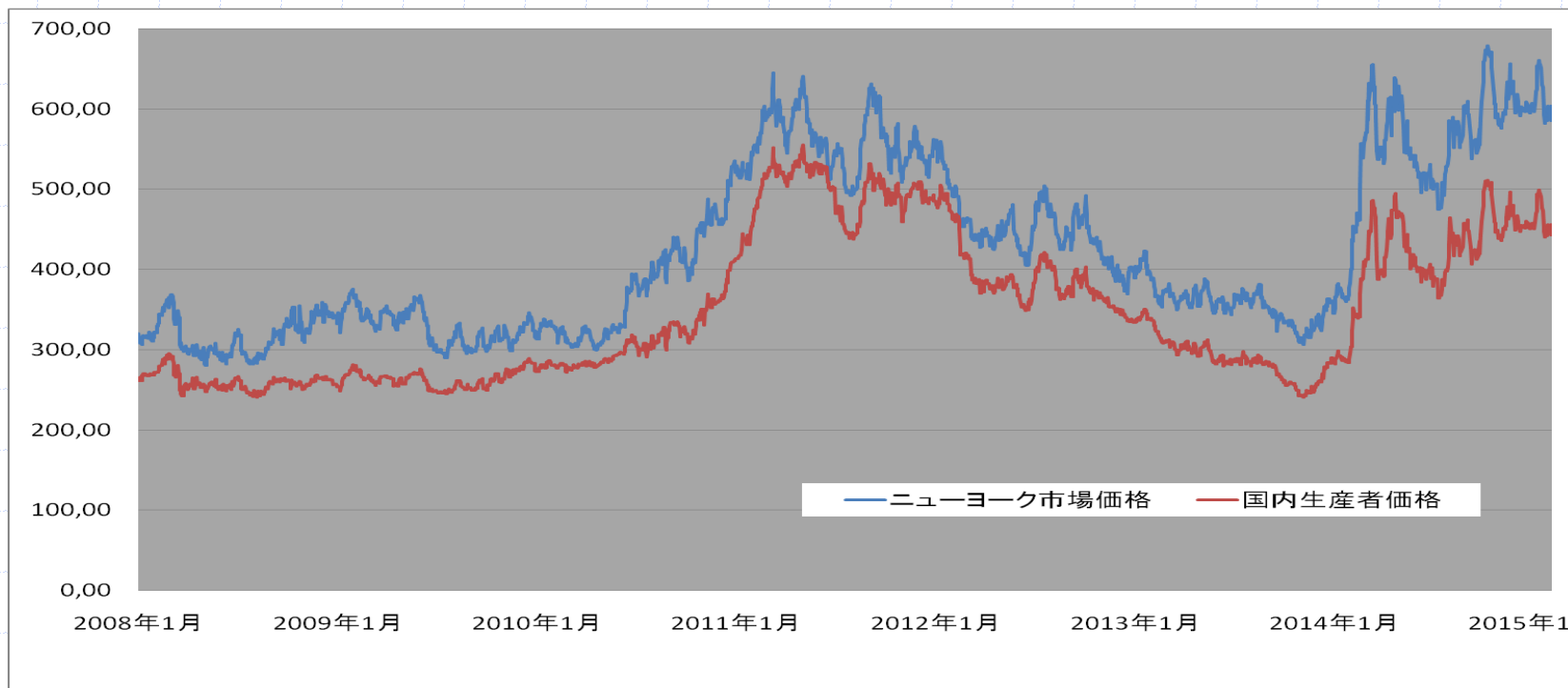


◆乳製品価格は2013年には一大供給地域オセアニアで干ばつによる大不作となり高値のピークを付けた。2014年に入ってから供給増大策が功を奏し国際的には下落局面を迎えているものの、国内への影響は限定的。

原料動向

コーヒー相場の推移

アラビカ種60kg現物渡し価格推移(R\$)



◆2014年下期は上期同様早魃懸念で大きく値を上げ、降雨の予報で値を下げる所謂「天候相場」の様相を呈した。早魃による減産懸念は既に相場に織り込み済みなるも、エネルギーを中心とした他商品の相場、ブラジルレアルの動向次第でコーヒー価格も激しい乱高下が予想される。

原料動向

全体コメント

◆ ブラジル国内の傾向

- ① 賃金上昇、インフレ高進によるコスト高は継続
- ② エネルギーコストの高騰。サンパウロ州を中心とする渇水の影響を受け電気スポット価格が急騰継続

渇水に関する情報

◆店舗

- ・各店水使用量チェック、手洗い閉鎖、給水車で購入。

◆工場

- ・主要各社は井戸水を使用しており、影響は限定的。
- ・サンパウロ圏において、カンタレーラ等主要水系の水道水の品質の低下に対して、独自の水質検査を実施したり給水制限に備えて水備蓄を始める企業あり。
- ・今後、大規模な断水実施の場合、原料・包材等のサプライヤーの操業、物流機能の低下による生産活動への影響が懸念されるため、原料、製品在庫の積み増し等、BCPプランを構築中の企業も出てきている。

2015年の展望

- (1) 消費財の高インフレ傾向は継続、加えて公共料金の上昇に伴い、ミドル層が牽引してきた消費マインドの低調さは継続する。
- (2) レアル安、原燃料コスト上昇により、収益面も悪化の懸念。

2015年の展望

(3) 価格コンシャスであり、同時においしさ、健康を追及する消費者、また外食機会アップ、日本食ブームといったトレンド、こういった機会や変化を的確に捉え、柔軟かつスピーディな体制を整えた上で、新製品の投入、効果的な施策、コストダウンなどにより、年度の目標達成を目指す。

-どうする日伯関係-

「再生目指すブラジル経済」

◆ 第2回日伯農業・食料対話(※)の進展へのプロ アクティブな協力

※8月の安倍総理来伯を契機に日本の農林水産省と伯国農務省の
主催により、両国の農業・食品関係事業の発展に向けた両国官民
での継続的な協議を行う場として発足。

具体的活動:

- ①テーマ別分科会活動への参画(月次進捗報告と中間報告)
- ②第2回対話(2015年12月)での両国政府間交渉案の策定

-どうする日伯関係-

「再生目指すブラジル経済」

◆ブラジルの食、食に関連する諸課題

- 健康的な食、食習慣の普及活動
- 世界文化遺産としての日本食の普及
- 日伯食文化交流への支援

以上

運輸サービス 部会

森田 透 部会長

Departamento de Transportes e Serviços

Presidente: Toru Morita



2014年の回顧と2015年の展望

-再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス-



運輸サービス部会 森田 透

2015年2月24日

- ・ 物流
- ・ 構内物流、機工、整備
- ・ 海運
- ・ 航空貨物
- ・ 航空旅客
- ・ 旅行、ホテル
- ・ 通信、IT



物流業界

2014年の回顧

- ・ ワールドカップ以降の荷動きが鈍い上、更に年末の荷動きを見ても輸出入とも貨物量は例年と比べ少なく、全体的に低調で厳しい一年だった。

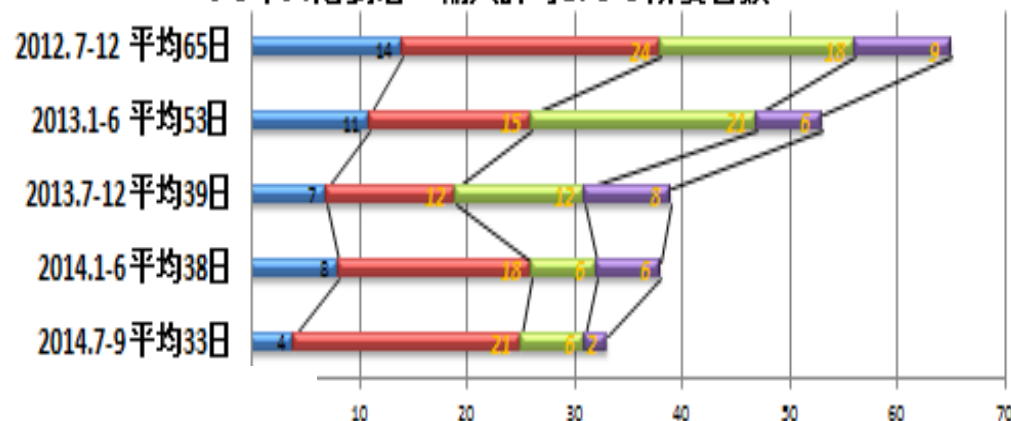
2015年の展望

- ・ 新規ターミナルが操業開始し、ターミナル内での効率化は図られつつあるが、更に効率改善が行われることで港湾関係諸費用の低減が期待される。
- ・ 電力不足による国内工業生産が減少する可能性があり、輸出入バランスにどのような影響が出るか注視する必要がある。

昨年以上に厳しい年となる事が予測される。減量経営をどこまで・いつまで行なうことが出来るか、生き残りに向けたシビアな年になる。

海外引越

サントス港到着～輸入許可までの所要日数



物流業界 - トピックス



- **AEO - Authorized Economic Operator**
(**OEA - Operadores Econômicos Autorizados**)
MRA - Mutual recognition agreement
(相互承認協定)
(**ARM - Acordos de Reconhecimento Mutuo**)

- ・ **ブラジル税関は2014年よりOEAプログラムのテスト運用Fase-1として5社のパイロット企業を選択し輸出業務テスト開始、2015年はFase-2として輸入業務のテスト開始予定。**
- ・ **現在、ウルグアイとの相互承認協定の協議中。**
- ・ **2015年3月より輸入業務運用の協議を開始。**
- ・ **段階的に2019年までにAEO承認企業50%の輸出入業務をターゲットとする。**
- ・ **対象認定企業**
 - 1) 輸出入者
 - 2) 保税倉庫
 - 3) 港湾・空港オペレーター
 - 4) 輸送業者
 - 5) 通関業者
 - 6) 貨物利用運送業者
 - 7) その他
- ・ **日本・ブラジル間の相互承認協定の早期実現を期待！！！！**
- ・ **この結果として、日系企業として輸出入に関するリードタイムの短縮による経済効果を期待する事が出来る。**

構内物流

2014年の回顧

- 国内景気の悪化に伴う国内鉄鋼需要減により、製鉄所内外を含めた強力な経費削減施策が実施され、製鉄所内協力会社の生き残りをかけた同業者との競争が激化、一部業者の撤退等が発生。

2015年の展望

- 製鉄所の協力会社に対する施策は2014年以上に厳しいコスト削減の要請が出てくると予想。

背景:2015年も供給過剰の状態が継続、レアル安に於いてもブラジル鉄鋼製品の価格競争力が期待するほど上昇しない中、国内鉄鋼メーカー間の競争もますます激化する。

世界の鉄鋼メーカーの粗鋼生産量順一覧

1:アルセロール・ミタル・ルクセンブルグ (96)	9:首鋼集団・中国 (32)
2:新日鐵住金・日本 (50)	10:JFEスチール・日本 (31)
3:河北鋼鉄集団・中国 (46)	11:タタ・スチール・インド (25)
4:宝鋼集団・中国 (44)	12:山東鋼鉄集団・中国 (23)
5:武漢鋼鉄・中国 (39)	13:USスチール・米国 (20)
6:ポスコ・韓国 (38)	14:ニューコア・米国 (20)
7:江蘇沙鋼集団・中国 (35)	16:ジェルダウ・ブラジル (19)
8:鞍山鋼鉄集団・中国 (34)	



*(カッコ)の粗鋼生産量の単位は百万トン。

順位は2013年時点。

ブラジル企業:ジェルダウは14位⇒16位、ウジミナスは40位⇒49位にシェアダウン

海運業界

2014年の回顧

- ・ コンテナ船はブラジル全体の荷動きの太宗を占めるアジアトレードの貿易量の増減を主に反映して対前年比で**輸入が3%減、輸出が15%増**。輸入超過の構図は変わらず、総じて荷動量は微増に留まる。
- ・ 不定期船はブラジル鉄鉱石輸出そのものは**前年比約5%の伸び**を見たが、同輸送を担うケーブサイズの傭船料は一時的な谷山あれど、全般的には船腹余剰感は解消されず市況は低迷が続いた。●
- ・ インフラ面ではサントス港の新ターミナル (● BTP/Embraport) の運営開始に伴う初期の混乱は収まり14年は安定した港湾荷役実施。
- ・ 荷動き量の停滞に伴い船腹供給の増加・本船の大型化は一段落。
- ・ 海運市況は競争の激化による運賃低迷。

2015年の展望

- ・ コンテナ船は景気の低迷、レアル安の影響を受けて輸入の停滞傾向は昨年に引続き暫し続く見込み。レアル安は輸出には追い風だがインパトは限定的か。
- ・ 不定期船は引続きブラジル鉄鉱石輸出量は増加基調を見込むが、豪州産等の供給増も見込まれ世界的に船腹需給を引締めるまでに至るかは不透明。
- ・ インフラ面ではサントス港に於ける浚渫作業が大きく前進する事を期待。
- ・ 隣国アルゼンチン経済も建て直し見込みは期待出来ず、需給ギャップの改善の兆しは無い。
- ・ 海運における競合環境は引続き厳しい。

2013年に進んだ本船大型化の一方で需要は2年に亘り伸び悩み、業界全体としては厳しい状況が今暫くは続く。

航空貨物業界

2014年の回顧

- ・ 輸入総数量は対前年比 4.8%減
- ・ 輸出総数量は対前年比 1.0%減

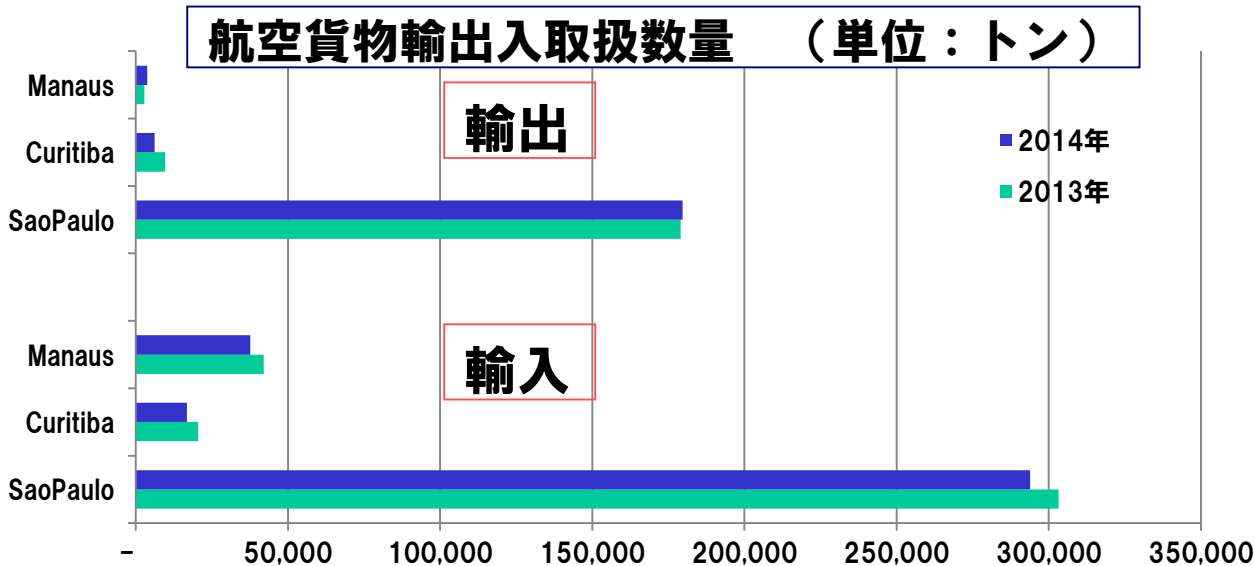
主要3都市計での比較

サンパウロ・マナウス・クリチバ

2015年の展望

- ・ 物量減の見込みではあるが、輸送リードタイムの面から戦略的に航空輸送を利用する体制は維持されるものと思われる。

更なる空港民営化の推進により、インフラの改善とリードタイムの短縮を期待する。



民営化済み空港

VCP (カンピーナス)
GRU (サンパウロ)
BSB (ブラジリア)
GIG (リオ)
CNF (ペロオリゾンテ)

民営化予定空港: 2016年以降

REC (レシフェ)
CWB (クリチバ)
CGB (クイアバ)

航空旅客業界

・ 2014年の回顧

- ・ **国内線** : 堅調に推移、旅客の伸びが座席の伸びを上回る
- ・ **国際線** : 堅調に推移、国内線同様の傾向
- ・ **空港インフラ** : GRU空港 TC-3 に国際線はほぼ集約
- ・ **業界動向** : VCPからの新規路線就航 (MIA, JFK, ORD)
AZULがVCP/Miami・Orlandoのデイリー運行開始

・ 2015年の展望

- ・ **国内線** : 景気低迷が懸念されるが、底堅い需要に支えられる見込み。
- ・ **国際線** : 景気低迷およびレアル下落による需要停滞懸念。
- ・ **業界動向** : 足元の原油価格下落は航空各社の業績に一義的にプラスのインパクト。景気低迷およびレアル下落による今後の需要冷え込みが懸念される。

・ 課題

- ・ 『空港 = 市内間 アクセスの改善』
- ・ 『国内線=国際線の乗り継ぎ利便性の向上』
- ・ 『離発着効率管理による便数増加』

旅行・ホテル業界

2014年の回顧

- ・ 国内線旅客数 : 前年同期比 約6.6%増。
- ・ 国際線旅客数 : 前年同期比 約5.7%増。
- ・ 旅行業界 : W杯期間中ビジネス客の大幅減、レジャーの国内は航空運賃、宿泊費高騰により減少、買物を兼ねた海外旅行が増加
- ・ ホテル業界 : 2014年ホテル稼働率は前年比7.5%増加、但し下期は前年比3%の減少 (FOHB- Forum dos Operadores Hoteleiros do Brasil)

2015年の展望

- ・ 国内・国際線 : 2月カーニバル、4月、5月等の連休による国内線の売り上げ期待、国際線利用客は前年と同じレベルで予想している。
- ・ 旅行業界 : ブラジル経済不調でビジネス客減少予想、国内は旅費、物価高騰の為に期待薄、海外旅行は引続き伸びを期待したいが、昨今のドル高リアル安の影響で減に転じることが懸念される、オリンピック先駆けの視察団などの増加に期待。
- ・ ホテル業界 : 2015年上期は最大4%の稼働率増に留まる見込み。(FOHB)

課題 = 「日伯間で査証免除がまだ締結されていないため、観光査証が引き続き日伯間観光客増加の障壁となっている、早期に解決を望む」

通信業界（携帯モバイル）

2014年の回顧

- 急速に4Gおよびスマートフォンの普及が進展。4Gの契約数は、前年から3倍以上増え677万。スマートフォンについては、年間販売台数が5,500万台を超え前年比50%増加。8割以上がAndroid端末。
- 3G/4G契約者数の伸びは著しく、主要4大キャリアの年間設備投資額の合計は210億レアルを上った。

2015年の展望

- スマートフォンの急速な普及に伴う写真・動画などのデータ通信が増加することから、4Gの普及はますます加速し、2015年末には1,000万ユーザを超える見通し。
- 端末市場においては、中国Xiaomi（小米）社の進出およびスマートフォン価格の低下により、販売台数は引き続き順調に伸びることが予想される。
- 一般ユーザの携帯の使い方が、音声からデータへとさらに大きく移行していくと予想され、モバイル端末の増加により、データ通信全体の発展がさらに促進される
- 法人ユーザにおいても、業務用モバイルアプリケーションへの関心が強まる傾向。

通信業界（テレコム・データセンター）

2014年の回顧

- Telefonica/VIVOが業界4位のGVT（Global Village Telecom: 仏メディアVivendiグループ）の買収を発表。
- Claro、NetおよびEmbratelが合併を発表。（3社ともカルロス・スリム氏のAmerica Movil Group）
- 3キャリア（VIVO、Claro、Oi）がTIMを分割買収するとの報道あり。一方、TIM側はOiとの合併によりユーザー数No.1キャリアになる方向を模索との報道。

2015年の展望と課題

- 通信業界再編が活発化、通信インフラ基盤の安定化、低廉化が期待される。
- データセンター市場の予測規模は18億リアル（2015年）は、ラテンアメリカの約60%を占め、2018年までに28億リアルに成長すると予想。
- コモディティ化したICT要素（メール、サーバー等）はより柔軟でコスト効果の高いクラウド型へシフトが進むが、通信インフラ基盤の脆弱性がネック。
- インターネットがビジネス基盤化する中、大都市中心部以外（郊外の工業団地等）で高速化/安定化/低価格化が求められている。

IT業界（サービス、インフラ、ソフト）

2014年の回顧

- 開発環境の集約化・標準化等により、開発やテスト工程のコスト削減を実現し、ソフトウェアファクトリビジネスの需要が堅調。
- コスト削減やコア業務への注力を背景とした、BPOやITOといったアウトソーシングの需要は引き続き堅調。
- W杯の影響により、ITプロジェクトの進行が多少遅れ、ビジネスの影響はなし。
- 大統領選を見越したIT投資の抑制や様子見により、IT市場全体の成長はやや鈍化傾向。

BPO - Business Process Outsourcing

ITO - Information Technology Outsourcing

2015年展望と課題

- 経済減速の中でも、ITは戦略ツールとして位置づけられ、企業のIT支出は前年比5.7%増のUS\$125.3billionになると予想。
- 企業は競争力維持強化のためERPやCRMといったアプリケーション/ソフトへの投資を期待。
- ビッグデータやマスターデータマネジメント（MDM）といった、大量のデータ管理需要の高まりに期待。
- 優秀なIT人材の確保、顧客からのコスト削減要求への対応は大きな課題。
- 電力不足への対応のため、ITインフラの強化・拡充が急務。

ERP - Enterprise Resource Planning (統合基幹業務システム)

CRM - Customer Relationship Management



- 再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス -



今年の厳しいブラジル経済環境を乗り越える為に、日伯間の人の動きを活発化する事により、航空旅客が動き、ホテル利用がアップし、それにつれて物が動き、海運、物流に繋がり、資金が動き活性化につながる、その基本となるのはブラジル・日本間の査証の簡略化が基本になると考える、日伯修好120年を記念して、是非とも前向きに動いて頂き、日系企業を支えて頂きたい。

ありがとうございました。

BTP コンテナ・ターミナル/SANTOS



EMBRAPORT コンテナ・ターミナル



AE0 (Authorized Economic Operation)

OEA (Operadores Econômicos Autorizados)

国際物流におけるセキュリティ確保と円滑化の両立を図り、国際競争力を強化するため、貨物のセキュリティ管理と法令遵守の体制が整備された事業者に対し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度。

現在27ヶ国参加、24組のAE0相互承認が成立し、そのうち日本は7ヶ国との相互承認が成立している。

AE0 相互承認一覧

2007年6月	ニュージーランド	米国	2011年1月	アンドラ	EU
2008年5月	日本	ニュージーランド	2011年5月	日本	韓国
2008年6月	カナダ	米国	2011年6月	韓国	ニュージーランド
2008年6月	ヨルダン	米国	2011年6月	日本	シンガポール
2009年6月	日本	米国	2012年5月	EU	米国
2009年7月	EU	ノルウェー	2012年6月	中国	シンガポール
2009年7月	EU	スイス	2013年10月	中国	香港
2010年6月	日本	カナダ	2013年11月	インド	香港
2010年6月	カナダ	韓国	2014年2月	香港	韓国
2010年6月	カナダ	シンガポール	2014年3月	韓国	メキシコ
2010年6月	日本	EU	2014年6月	日本	マレーシア
2010年6月	韓国	シンガポール			
2010年6月	韓国	米国			

参考1 モバイル市場

- ブラジルにおける携帯電話の契約数は増加しており、普及率は約138%。所得増加に伴い、プリペイド比率は低下傾向。

	2012年	2013年	2014年
携帯電話契約数 [万]	26,180	27,110	28,073
普及率 [%]	133	134	138
プリペイド比率 [%]	80.5	78.0	75.8

- ブラジル市場では、急速に2Gから3G/4Gへの移行が進んでいる。

•【単位：万】

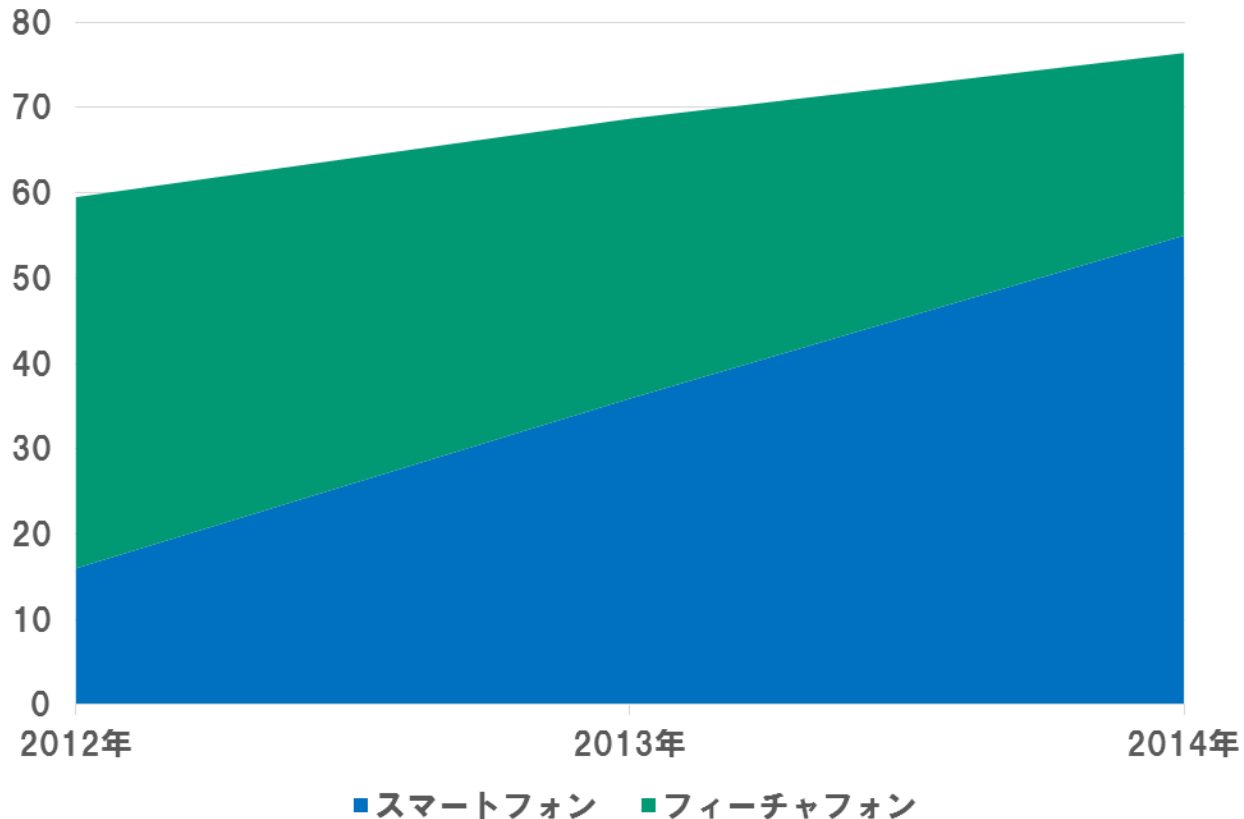
	2012年	2013年	2014年
2G	19,573	15,967	11,298
3G	5,247	9,476	14,466
4G	-	131	677
データカード	1,310	1,533	1,630

参考2 スマホvsフィーチャフォン（ガラケー）

- スマートフォンの販売台数は急速に伸びており、販売数全体の70%を超えている。

- (単位: 百万台)

●【販売台数】



海運関連データ

コンテナ船 (千TEU)			
ブラジル(1~11月期) 前年比較			
Description	2013年	2014年	増減
輸入	1,029	997	▲3%
輸出	416	476	15%
合計	1,445	1,473	2%

2014年 中国の鉄鋼石輸入(予想)		
Description	輸入量	シェア
全体	940百万ト	100%
豪州産	545百万ト	58%
ブラジル産	169百万ト	18%
その他	226百万ト	24%

中国向け鉄鋼石輸出シェア推移			
年	豪州	ブラジル	その他
2011	43%	21%	36%
2012	—	—	—
2013	51%	19%	30%
2014	58%	18%	24%

ブラジル鉄鉱石輸出 前年比較			
Description	2013年	2014年	増減
輸出額	317億ドル	258億ドル	▲18.5%
輸出量	320百万ト	344百万ト	4.50%

IT用語説明

- ・ **クラウドサービス**： 従来は利用者が手元のコンピュータで利用していたデータやソフトウェアを、ネットワーク経由で、サービスとして利用者に提供するものです。利用者側が最低限の環境（パーソナルコンピュータや携帯情報端末などのクライアント、その上で動くWebブラウザ、インターネット接続環境など）を用意することで、どの端末からでも、さまざまなサービスを利用することができます。
- ・ **BPO【Business Process Outsourcing】**：企業がコアビジネス以外の業務プロセスの一部を、外部の専門業者に委託することです。単に「業務プロセスアウトソーシング」と言うこともあります。業務の委託先はベンダー、依頼側はユーザーと呼ばれます。業務の企画・設計から、必要なIT技術の導入、人材や設備の準備、プロセスの運用までをトータルで外部に委託することで、ユーザーとしては、コアビジネスへの経営資源の集中、より専門性の高い専門業者への依頼による業務品質の向上、業務の効率化、コスト削減などのメリットがあります。
- ・ **ITO【Information Technology Outsourcing】**：ITアウトソーシング - 自社の業務をまとめた単位で外部に委託するアウトソーシングの種類の一つで、情報システムに関連する業務を委託すること。
- ・ **ERP【Enterprise Resource Planning】**：「統合基幹業務システム」や「統合業務パッケージ」と呼ばれています。最近では、中堅中小企業向けのERPパッケージも多数登場しており、比較的安価に導入することが可能です。調達・購買、製造・生産、物流・在庫管理、販売、人事・給与、財務・会計など、企業を構成する様々な部門・業務の扱う資源を統一的・一元的に管理することで、部門ごとの部分最適化による非効率を排除したり、調達と生産、生産と販売など互いに関連する各業務を円滑に連携・連結したりする。

IT用語説明

- **CRM【Customer Relationship Management】**：顧客との関係性つまり、企業と顧客が購買という形で長期的な関係を築くためのマネジメント手法のこと。「顧客関係管理」と訳し、単に「顧客管理」ということもある。顧客のデータベース(年齢・性別などの属性、購買履歴など)を作成・分析し、その客に合った商品の販促や、保守・サービスの提供、問合せやクレームへの対応など、顧客とのやり取りをきめ細かく管理するもので、これにより顧客の満足度を高め、既存客としての関係をキープして収益率をアップできる。
- **ビッグデータ (big data)**：市販されているデータベース管理ツールや従来のデータ処理アプリケーションで処理することが困難なほど巨大で複雑なデータ集合の集積物を表す用語である。その技術的な課題には収集、取捨選択、保管、検索、共有、転送、解析、可視化が含まれる。大規模データ集合の傾向をつかむことは、関連データの集合の分析から得られる付加的情報を、別の同じデータ量を持つ小規模データ集合と比較することにより行われ、「ビジネスの傾向の発見、研究の品質決定、疾病予防、法的引用のリンク、犯罪防止、リアルタイムの道路交通状況判断」との関連の発見が可能になる
- **MDM【Master Data Management】**：日本語ではマスターデータ管理と言われる、情報システムを稼働させる根幹となるマスターデータの管理を行うための手法またはそれを実現するソフトウェア製品である。

化学品 部会

高橋 智 部会長

Departamento de Produtos Químicos

Presidente: Satoru Takahashi

化学品部会

2014年の回顧と2015年の展望

副題：「再生目指すブラジル経済！どう頑張る日系ビジネス」

2015年2月24日

化学品部会アンケート(2014年の回顧と2015年の展望)

アンケート依頼: 52社

28社・38回答

(一部複数回答あり)

化学品部会 会員会社へアンケート実施

Adeka Brasil

[Daicolor do Brasil](#)

Fertilizantes Mitsui

[FUJIFILM do Brasil](#)

[Harima do Brasil](#)

[Hisamitsu Farmacêutica do Brasil](#)

[Kaneka South America](#)

[K-I Chemical do Brasil](#)

[Kuraray South America](#)

[Kurashiki Chemical do Brasil](#)

[Kito do Brasil](#)

[Mitsui Chemicals do Brasil](#)

[Nagase do Brasil](#)

[Nisso Brasileira](#)

[Otsuka Ind. Prods. Químicos](#)

Pigeon Produtos Infantis

[Pilot Pen do Brasil](#)

[Rhoto do Brasil](#)

[Shiseido do Brasil](#)

[Sumitomo Chemical do Brasil](#)

[Takasago Fragrâncias e Aromas](#)

[Three Bond do Brasil](#)

Sociedade Coml. Toyota Tsusho

[Toyo Ink Brasil](#)

[UBE Latin America](#)

Ueno Profit Assessoria

Azbil do Brasil

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil

Banco Sumitomo Mitsui Brasileiro

Bridgestone do Brasil

Celulose Nipo-Brasileira Cenibra)

EPCOS do Brasil (TDK)

[Idemitsu Lube South America](#)

Inabata Brasil

Itochu Brasil

[JX Nippon Oil & Energy do Brasil](#)

Kito do Brasil

Kurita do Brasil

[Kyocera do Brasil](#)

[Marubeni Brasil](#)

Midori Atlântica Brasil

[Mitsubishi Corporation do Brasil](#)

Mitsui & Co. (Brasil)

Miura Boiler do Brasil

Nagawa do Brasil

[Nichino do Brasil](#)

Nitto Denko America Latina

Okaya do Brasil

Sojitz do Brasil

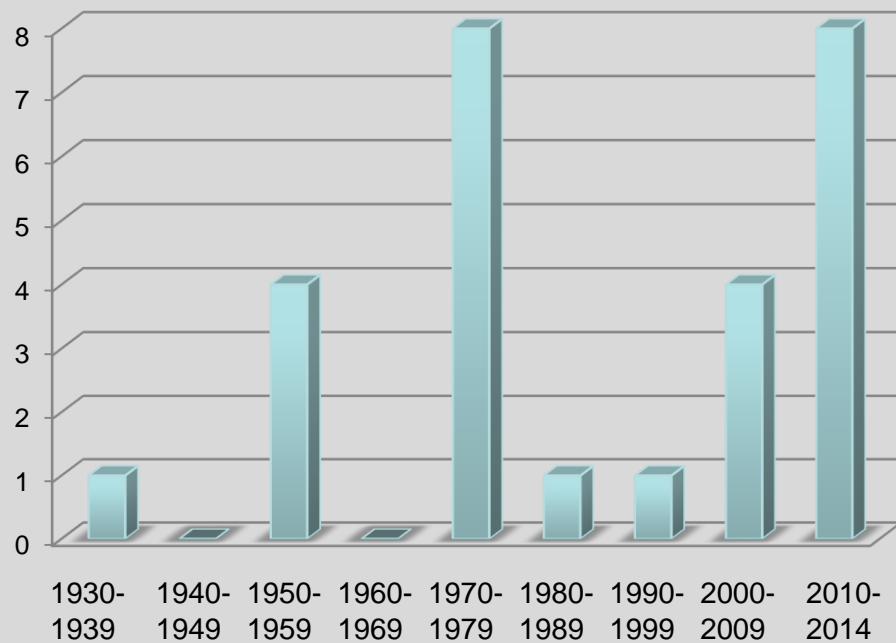
[Sumitomo Corporation do Brasil](#)

[Toray do Brasil](#)

[Unicharm do Brasil](#)

会員会社52社
28社38回答

回答を得た会員会社の約3割が、この5年間にブラジルで創業



38回答の事業分野

工業材料

15回答

合成樹脂
合成繊維
樹脂フィルム
高機能ファイバー
化成品中間体
樹脂用着色剤
接着剤・シール材
ロジン・誘導体
水処理薬品
自動車用内装部品

消費財製品

13回答

化粧品
公衆衛生用品
香料・香粧品
一般医薬品
家庭用殺虫剤
瞬間接着剤
筆記具・文房具
プラスチック製品
医療用フィルム
印刷用刷版
印刷用インキ

農業・畜産

7回答

農薬
飼料添加物

石油製品

2回答

潤滑油等

工業材料の主たる取引先業界

自動車、電子機器、食品、化粧品、医薬品、製紙、建築材料等

38回答の分類

工業材料

Daicolor
Harima
Kaneka
Kuraray
Kurashiki
Chemical
Kyocera
Marubeni
Mitsui Chemical
Mitsubishi Corp.
Nagase
Otsuka
Sumitomo
Chemical
Sumitomo Corp.
ThreeBond
Toray
UBE

消費財製品

Fujifilm
Hisamitsu
Pilot Pen
Rhoto
Shiseido
ThreeBond
Takasago
Fragrancias

農業・畜産

K-I Chemical
Mitsui Chemical
Nichino
Nisso
Sumitomo
Chemical

石油製品

Idemitsu
JX

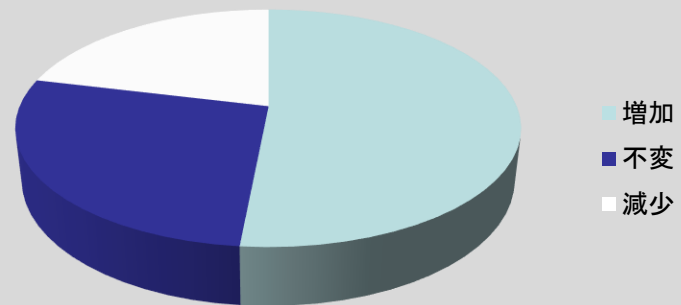
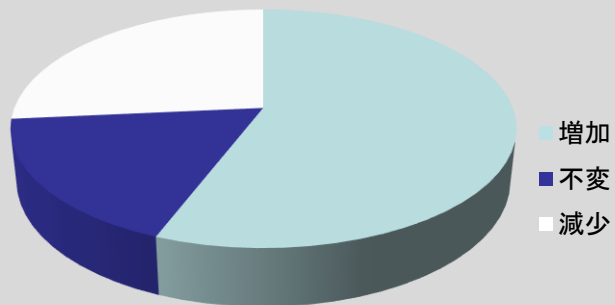
化学品部会合計

2014年の回顧と2015年の展望

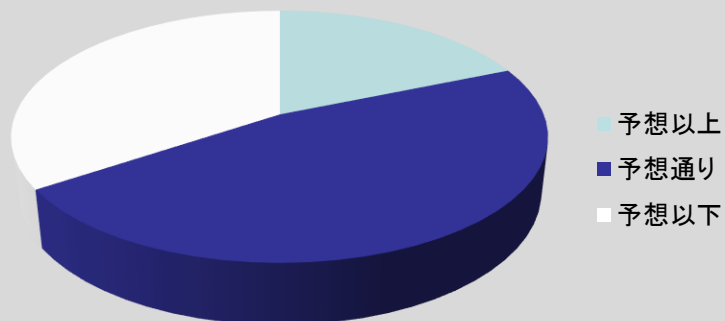
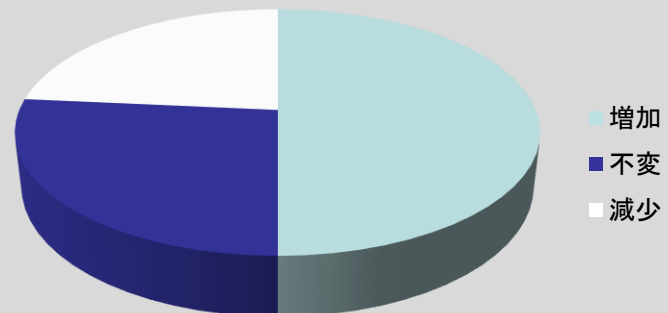
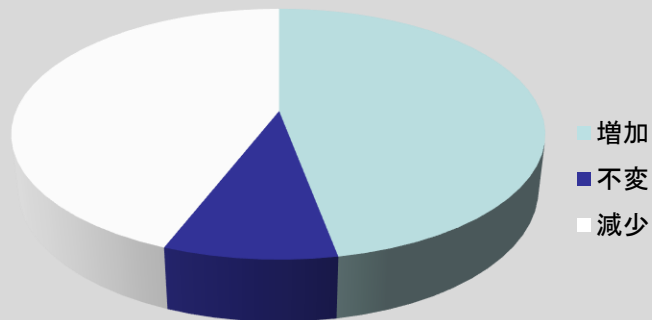
2014年 前年比実績

2015年 前年比予測

売上



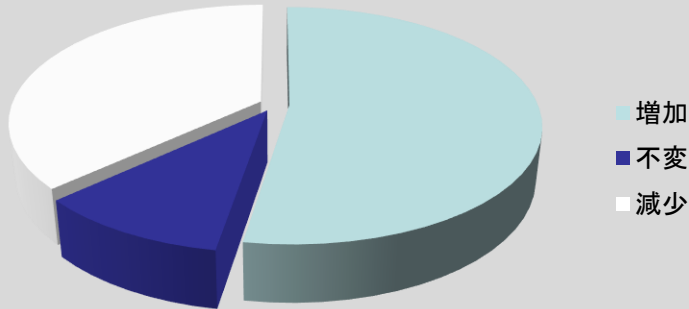
利益



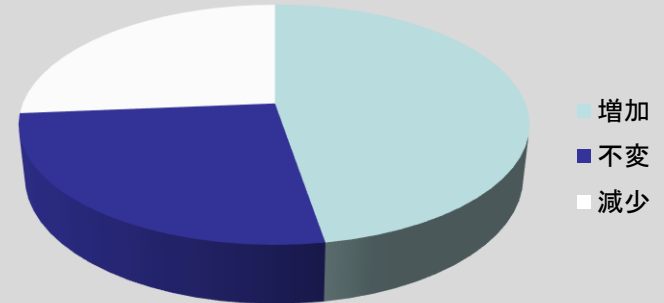
34回答

2014年 前年比実績

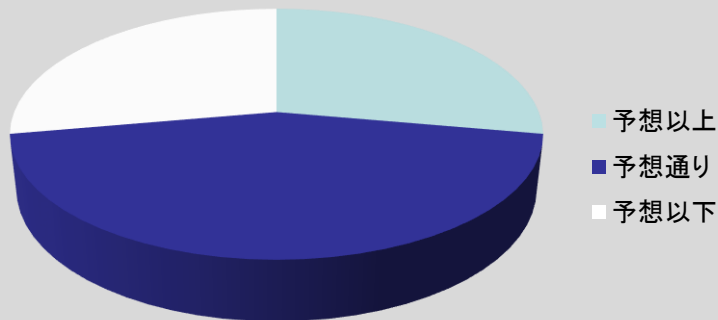
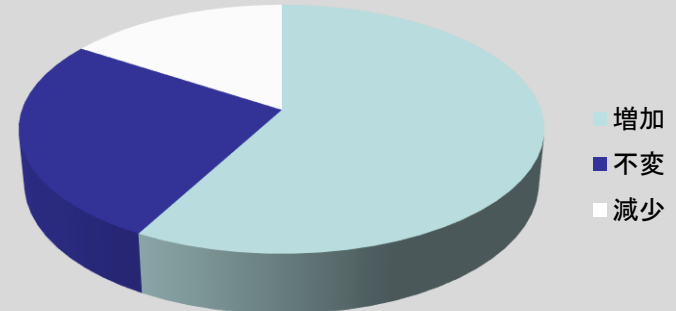
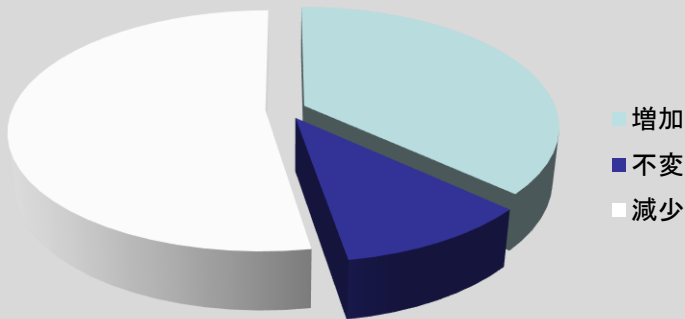
売上



2015年 前年比予測



利益



19回答

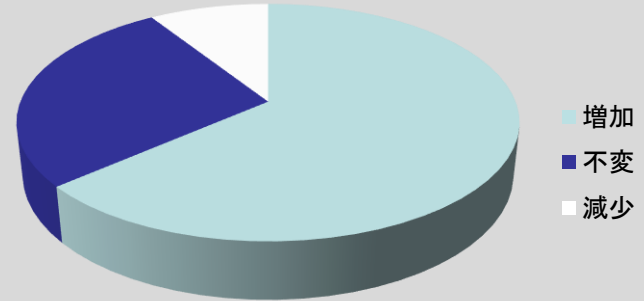
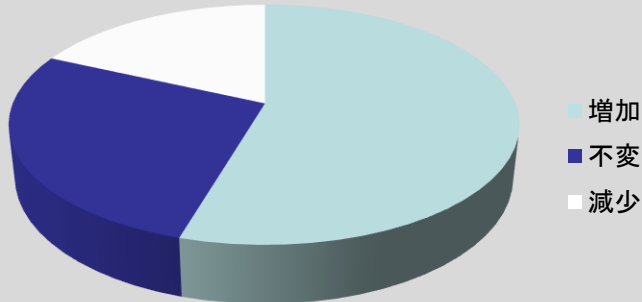
消費財製品

2014年の回顧と2015年の展望

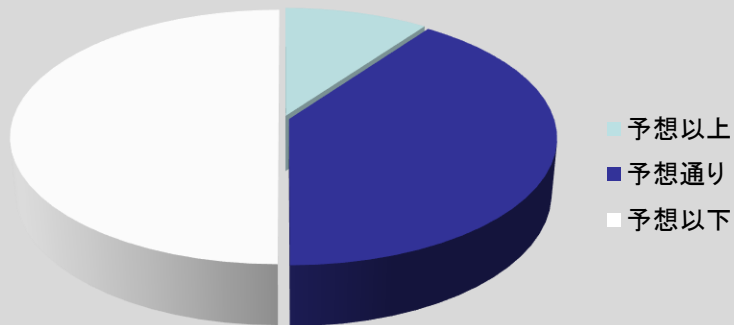
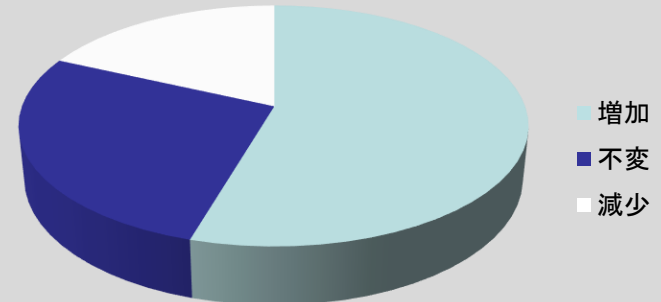
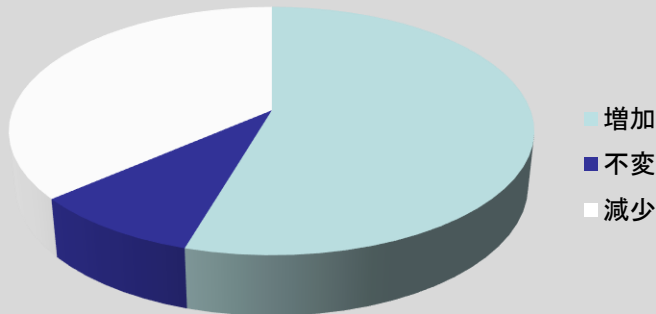
2014年 前年比実績

2015年 前年比予測

売上



利益



11回答

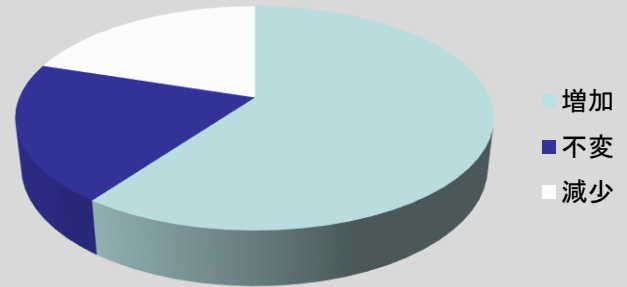
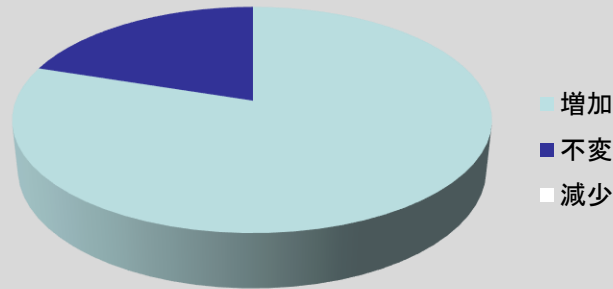
農業・畜産

2014年の回顧と2015年の展望

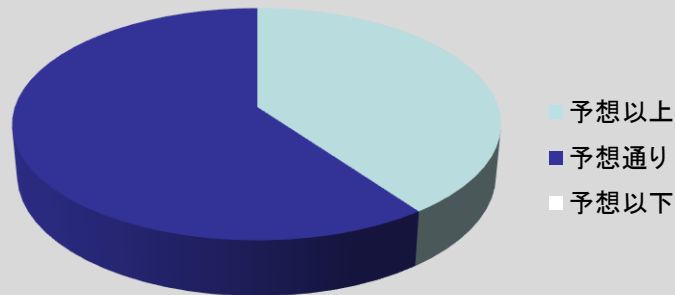
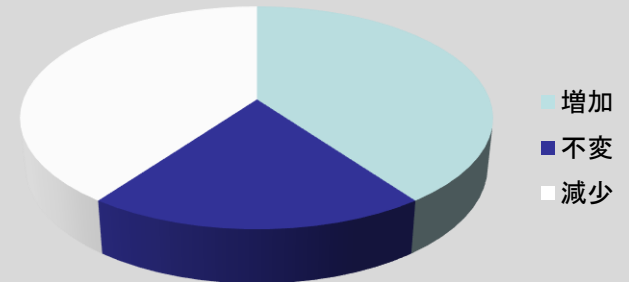
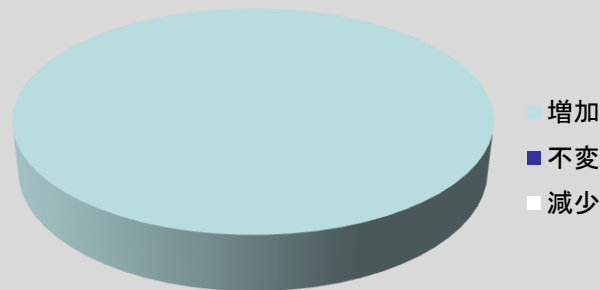
2014年 前年比実績

2015年 前年比予測

売上



利益



5回答

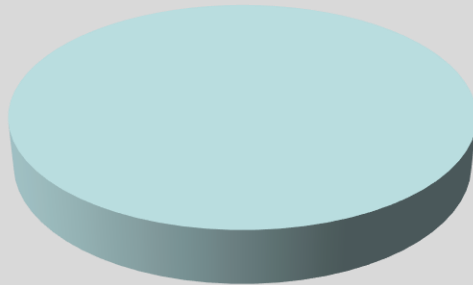
石油製品

2014年の回顧と2015年の展望

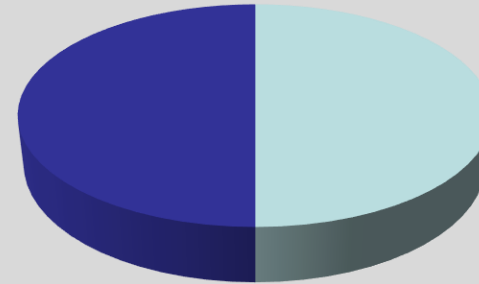
2014年 前年比実績

2015年 前年比予測

売上

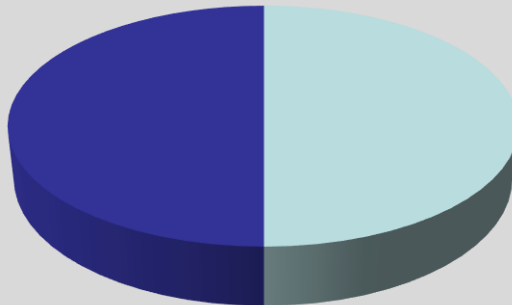


■ 増加
■ 不変
■ 減少

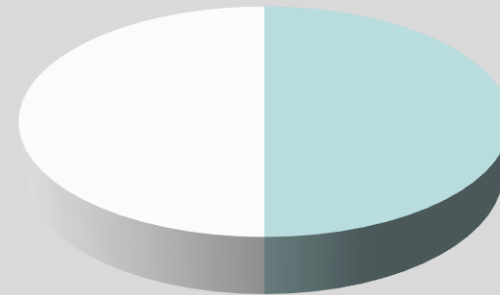


■ 増加
■ 不変
■ 減少

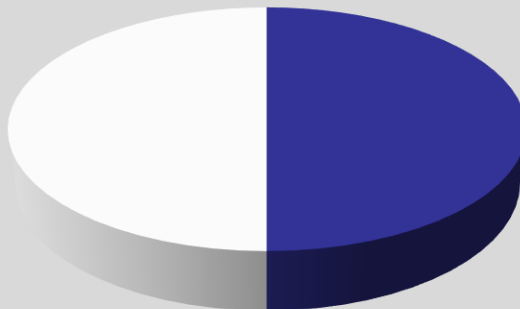
利益



■ 増加
■ 不変
■ 減少



■ 増加
■ 不変
■ 減少



■ 予想以上
■ 予想通り
■ 予想以下

2回答

「再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス」

工業材料

- ・現在の政府はインフレ抑制と称し、経済引締めを行っており、ブラジル経済は今後、益々悪化する
- ・せめてUS \$ 1.00=R\$2.20程度のレアル高になってほしい(希望)

- ・消耗戦、我慢の時
- ・生産効率アップ/コスト削減を目的とした設備投資を強化
- ・人員削減(幹部社員の減員)
- ・新規分野、新規顧客の積極的開拓継続

- ・やれることをやる。今は無理な投資はしない。売上最大と経費削減の徹底

- ・高度な生産技術の移転
- ・生産拠点の新設、買収でブラジル内需拡大に貢献できるもの作り

- ・概ねの競合が欧米の会社。2015年のブラジル経済が苦しいのは条件は同じ、いつか来る飛躍に備え地盤固め。 事業規模は縮小しても、シェアを維持

- ・原油価格値下がりする中でブラジル産業の競争力を付けることが急務

「再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス」

工業材料

- ・リアル安の状況で国内市場のみの販売には限界があり、国際市場への販売力向上が不可欠
- ・ブラジル政府の経済政策転換に注目し、3～5年後のブラジルの姿に対する戦略を今打っておく
- ・現政権に構造改革は期待できない。逆風は一様に吹いている。伸びる分野、産業、国はある。中南米の市場規模、事業機会に対して日系企業のシェアは低く、活動範囲は狭い。市場に飛び込めば商機はつかめる
- ・勝てる土俵を発掘する。品質、技術、組織能力で差別化する。用途開発・材料開発で需要を創る。変化に事業機会を見出す。日本のミドルマネジメントは優秀。日本の製品は必ず売れる。絶対負けない
しかしながら、現地化が下手。マーケティングが下手。戦略面が弱い。ハングリ―精神欠如 <= 要改善

「再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス」

消費財製品

- ・ブラジル化粧品市場は過去10年、年間10%成長。経済低迷でもあまり影響を受けず、活発な新商品開発も続くと予想。
→ この事業機会を取り込み事業拡大を図る計画。
- ・不条理な税制、高金利、不安定な為替、高い労務リスク等の課題を抱えるブラジルでは、海外企業が確実に安定して利益計上するのは容易ではない。
- ・国土が広く市場が分散。メーカー現地法人／代理店一社で全土カバーが難しい。
→ 地域および製品群毎に複数販売代理店に直接輸入販売を行わせ、メーカーの現地法人は受取口銭を原資にマーケティングと技術サポートを提供し、販売代理店の管理と販売支援を行うビジネスモデルに移行し、ブラジルの様々なリスクを回避を考えたい。
- ・ブラジル経済再生には複雑な税金の簡略化(透明化)、事務手続きのスピードアップ

「再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス」

消費財製品

- ・ブラジルコストに加え、輸入品販売は為替の逆風が予想されるが、より良い素材、新しい製品を紹介し続けて、新しいモノ好きのブラジル人、市場を刺激していくこと
- ・諦めず心を奮い立たせてALL JAPANで取り組んでいければと。日本からの視点でなく、当地の視点でカスタマイズ・技術サービスを進めていく事が重要
- ・これまでの飛躍的な経済成長が今後数年見込めない状況下、投資を圧縮し、収益性確保を優先する等、着実に永続的に存続しうる企業体を目指す
- ・ユニークテクノロジー、日系企業ならではの素材・コストダウンにつながる提案実施
- ・複雑な税制などブラジルでのビジネスをやる上で難しい問題はあるものの、販売無くして事業継続はない。ブラジルのニーズに合致した市場への販売強化。同時にブラジル内製化率をあげ、同時に内製化製品品質の向上をはかる事でイメージの植え付けと経営体質の強化を図る必要あり

「再生目指すブラジル経済！どう頑張る日系ビジネス」

農業・畜産

- ・為替変動・インフレを織り込んだリスク管理／財務管理
- ・変化する農業環境の中での価値の創造

- ・高性能(効果、安全性)で高品質な商品を、丁寧な技術サービスと合わせて供給し、農業生産に貢献していく

- ・間接業務・コスト合理化
- ・通貨レアルの運用改善(対ドル・円リスクと金利収入とのバランス)
- ・より本社依存型から現地主導型となり、現地市場のニーズに早期に機動的に対応
- ・既存ビジネスから周辺ビジネスへの展開
- ・現地での機能を拡充し、単なる製品販売市場にプラスαを

「再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス」

石油製品

- ・日系ビジネスもブラジル企業とのビジネスも、2015年は厳しくならざるを得ない。
- ・緊縮財政は痛みを伴う政策で、内需縮小の恐れが強く収益減少は避けられず。
- ・労働者保護政策を見直し、高く複雑な税制を見直し企業の競争力改善なくして
内需回復も難しい。
- ・ブラジルマーケットに対するこだわり(短期＋中長期計画)
- ・二兎を追う(高性能、価格競争力)
- ・周辺国とのシナジー効果(限定的ではあるが)

ご清聴ありがとうございました。

化学品部会

建設不動産 部会

藤井 健 部会長

Departamento de Construção e Imobiliária

Presidente: Takeshi Fujii

建設不動産部会

2014年の回顧と2015年の展望

－再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス－

1. 現状認識と今期の課題
2. 建設業界
3. 不動産業界
4. プレハブ業界
5. 特殊技術

1. 現状認識と今期の課題

1-1) アンケート結果

2014年の実績

2015年の展望

建設

不安定な受注（伯経済の減退→投資鈍化—特に日系企業）
新事業（省エネ技術、プレハブ）



非日系顧客の
取り込み
新事業展開

不動産

市場が鈍化（土地、賃貸、住宅）
ネットワークによる協力体制



情報駆使した
ビジネス展開

プレハブ

ターゲットシフト（仮設→本設）
日本流（納期、施工、工期）が浸透



新規顧客開拓

特殊
技術

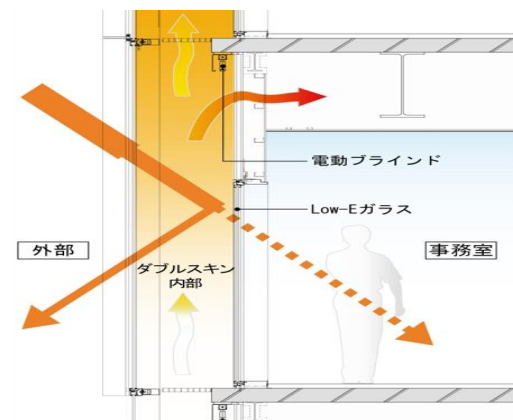
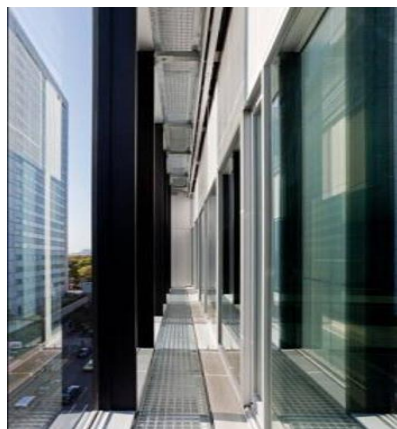
選挙の影響
大型物件で技術力発揮



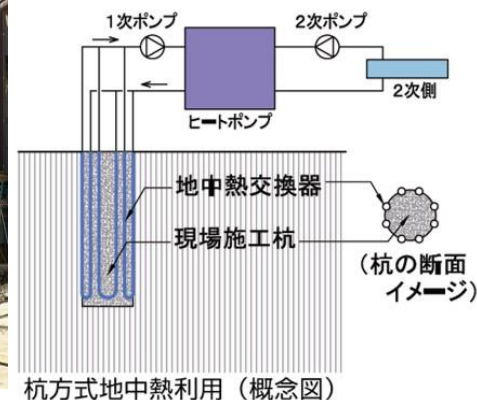
新分野の開拓
新工法の導入

2. 建設業界

2-1) 省エネ技術 (戸田建設) 「TODA BUILDING AOYAMA (青山)」 50以上の環境技術→CO2排出量40%以上削減



ダブルスキンカーテンウォール



地中熱利用

2-2) エコ技術のイニシアチヴ (ブラジル戸田建設)

「ブラジルと日本で実践される持続可能な建築とまちづくり」セミナー

(2014/11/11 於PUCクリチバ大学)



700人聴講

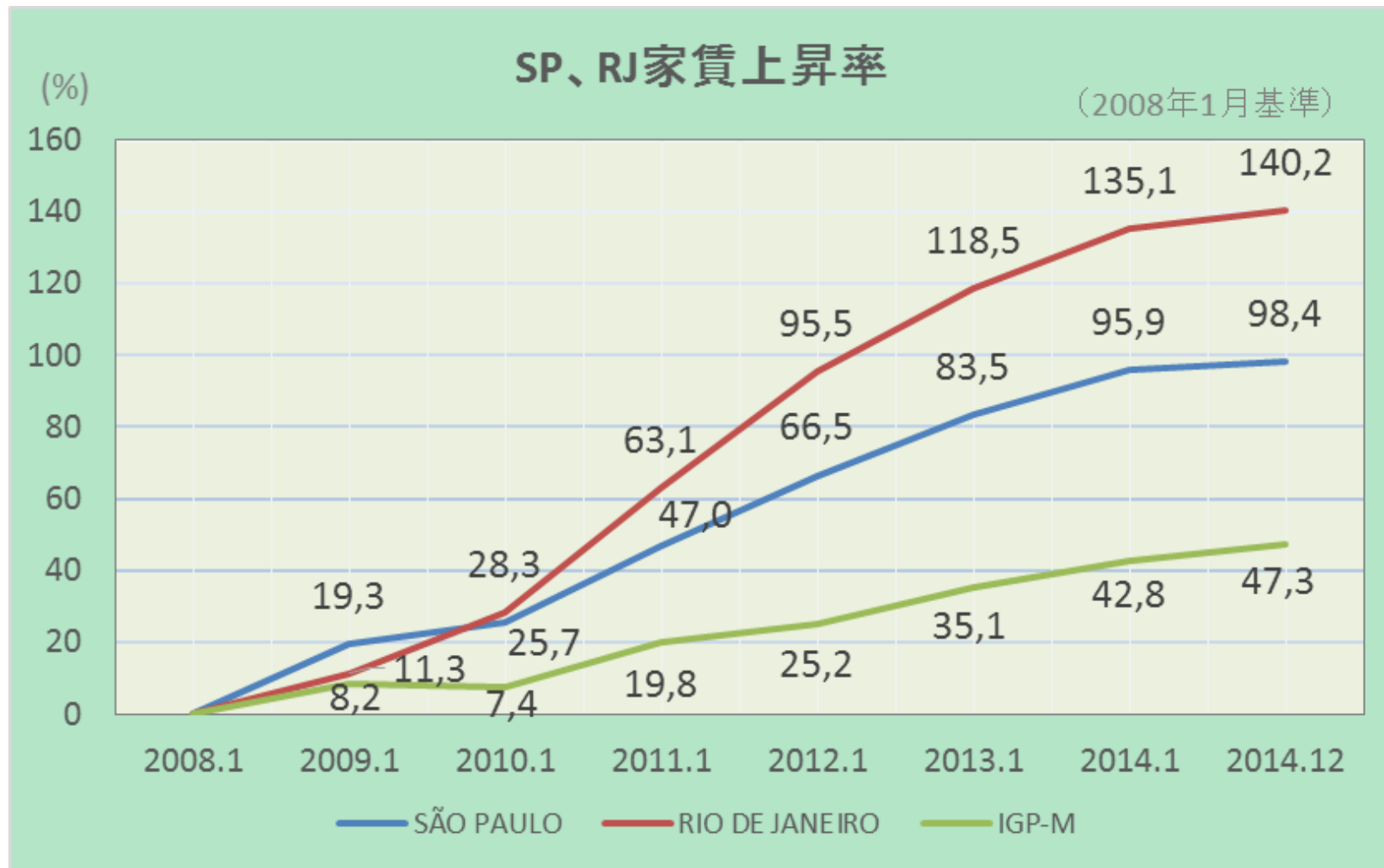
(建築設計者、建築関連企業、大学関係者、学生など)

日伯の「サステイナブル建築」の
実例紹介

隈研吾氏らによる講演
パネルディスカッション

3. 不動産業界

3-3) 賃貸マンション賃料の推移と見通し (STARTS)



4. プレハブ業界

4-1) 屋内外での新築・増築工事 (NAGAWA)

○施工を簡素化 - 規格化による短工期

○使用用途は多種多様 - 顧客ニーズに合わせた使用方法

<守衛所>



<食堂棟>



<1F:倉庫、2F:事務所>



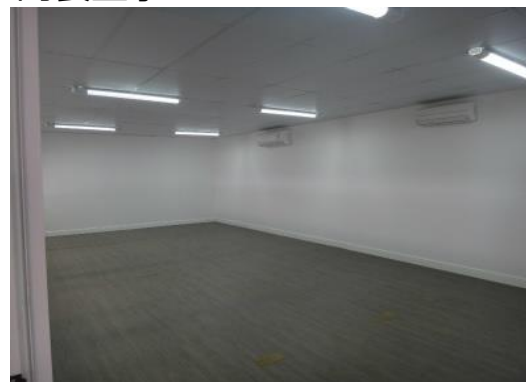
<守衛所>



<保管庫>



<内装工事>



4. プレハブ業界

4-2) 店舗モジュール化で全国展開に対応 (NAGAWA)

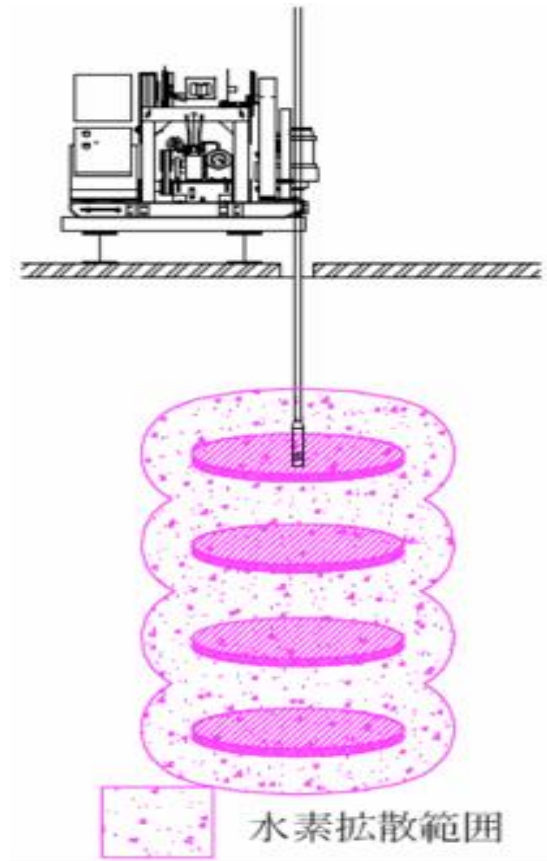
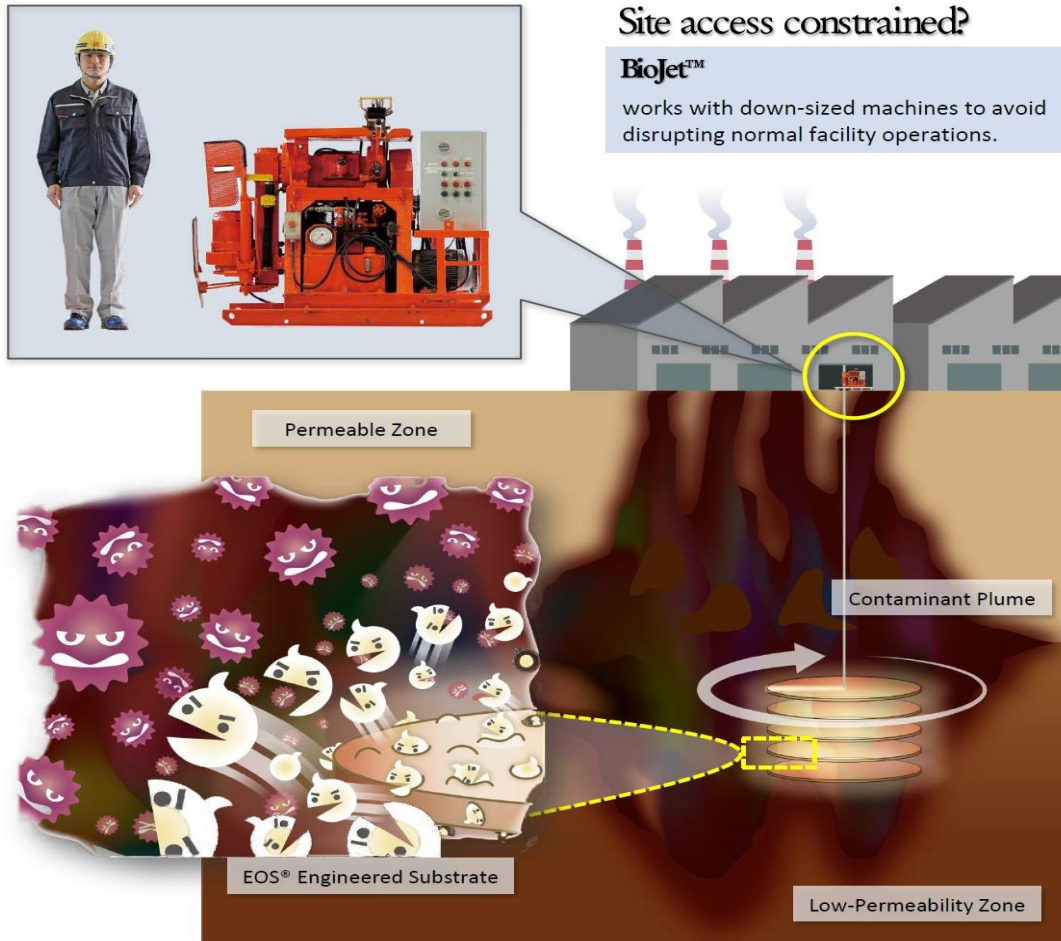
- 建物レイアウトの打合せ時間短縮
- 工場生産による安定した品質の提供



5. 特殊技術

5-1) 新分野：土壤汚染対応技術の導入（CGC）

BIOJET アメリカ企業と共同開発しアメリカ商務局より感謝状授与品



5. 特殊技術

5-2) 水中で汚濁しない注入材 (CGC)

水中不分離性、可塑性に優れているので、礫のように間隙が大きく水の流れのある地盤でも流されることなく注入が可能です。



【比較】従来のCBモルタル



ジオフォースの水中不分離状況

5. 特殊技術 展示会のご案内

8º SEMINÁRIO DE ENGENHARIA DE FUNDAÇÕES ESPECIAIS E GEOTECNIA
2ª FEIRA DA INDÚSTRIA DE FUNDAÇÕES E GEOTECNIA



SEFE8

Seminário de Engenharia
de Fundações Especiais
e Geotecnia
2ª Feira da Indústria de
Fundações e Geotecnia
23 a 25 de junho de 2015
Transamérica Expo Center Pavilhão D e E
São Paulo - SP



開催期間： 2015年6月23日(火)～25日(木)

場所： Transamérica Expo Center (パビリオンD、E)

ホームページ： <http://www.sefe8.com.br/>

連絡先： sefe8@acquacun.com.br

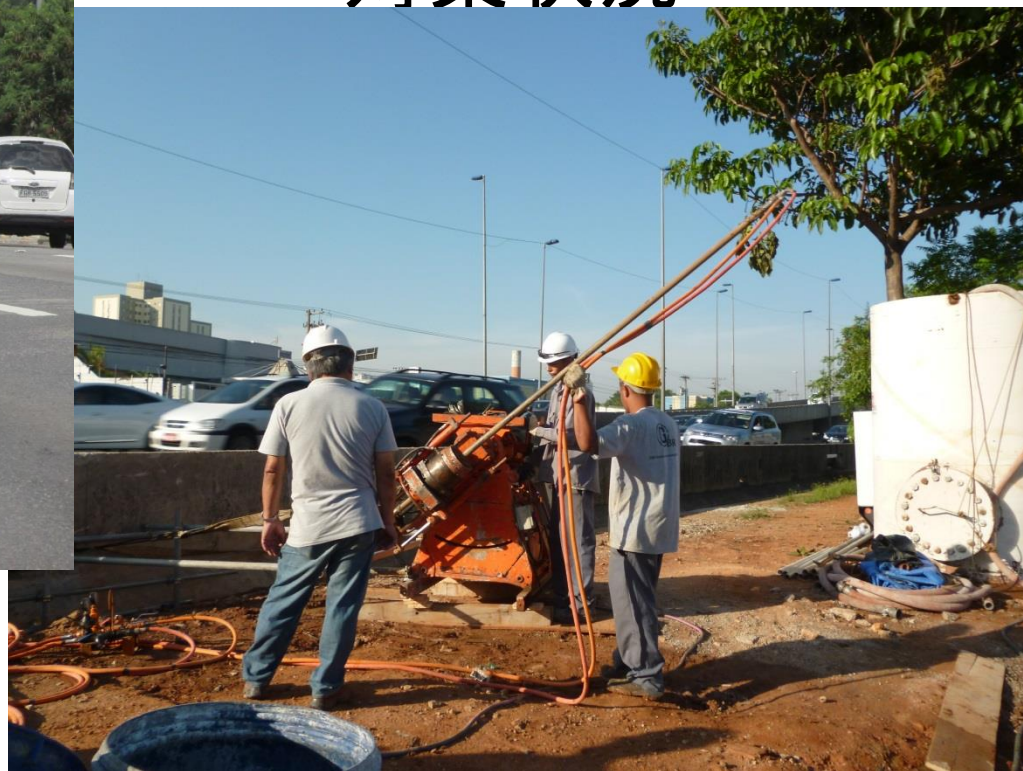
5. 特殊技術

5-3) 何故、頻繁に道路に穴が開くのか

- 同じ個所が2か月で3回陥没



対策状況



まとめ（再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス）

- ペトロブラフの汚職による、発注遅れやゼネコン不在
- 不動産の価格の鈍化と新築マンション売れ残り
- 労務材料等の建設費の高騰



昨年発生

安かろう悪かろうのブラジル企業の後始末をする日本企業
（数社から報告あり）



ビジネスチャンス

日本で当たり前前のことをやる、逃げずに、最後まで、責任を持って
実施する

リピーターを確保する

繊維 部会

横山 慎一 部会長

Departamento de Fiação e Tecelagem

Presidente: Shinichi Yokoyama

2015年度上期

業種別部会長シンポジウム

(繊維部会)

2015年の回顧と2015年の展望

再生目指すブラジル経済

—どう頑張る日系ビジネス—

綿花について

(繊維部会)

世界綿花需給予想

2015年 1月12日 米農務
省発表

単位：
千トン

	世界		中国		その他	
	13/1 4年 度	14/1 5年 度	13/1 4年 度	14/1 5年 度	13/1 4年 度	14/1 5年 度
季初在庫	19,589	22,134	10,965	13,653	8,624	8,481
生産	26,223	25,946	7,130	6,532	19,093	19,414
輸入	8,835	7,400	3,074	1,524	5,761	5,876
消費	23,753	24,437	7,511	7,947	16,242	16,490
在庫率 輸出	8,868	7,400	3,074	1,524	8,861	7,389
季末在庫	22,134	23,654	13,653	13,751	8,481	10,001

ブラジル国内綿花需給予想

CONAB 2015年 1月度発
表

単位：
千トン

	2014年実績	2015年予想
季初在庫	305	472
生産	1,734	1,543
輸入	32	18
消費	850	850
輸出	749	700
季末在庫	472	483

綿花相場比較

単位：US¢ / LB

NY定期

	翌3月限	同7月限	同10月限	同12月限	翌々年3月限	同7月限	同10月限	同12月限
2013年12月	84,64	83,98	79,75	78,43	78,96	79,21	79,06	78,81
2014年12月	60,27	62,00	63,28	64,42	66,79	66,80	66,88	65,78
変動率(%)	-28,8	-26,2	-20,3	-16,9	-14,4	-15,7	-15,4	-16,5

国内相場 (ESALQ 8日払い、R\$/LB)

	前年12月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	変動率(%)
2013年	1.59	1.91	2.02	2.07	2.16	2.09	2.13	34,0
2014年	2.13	2.24	2.01	1.91	1.71	1.66	1.66	-22,1

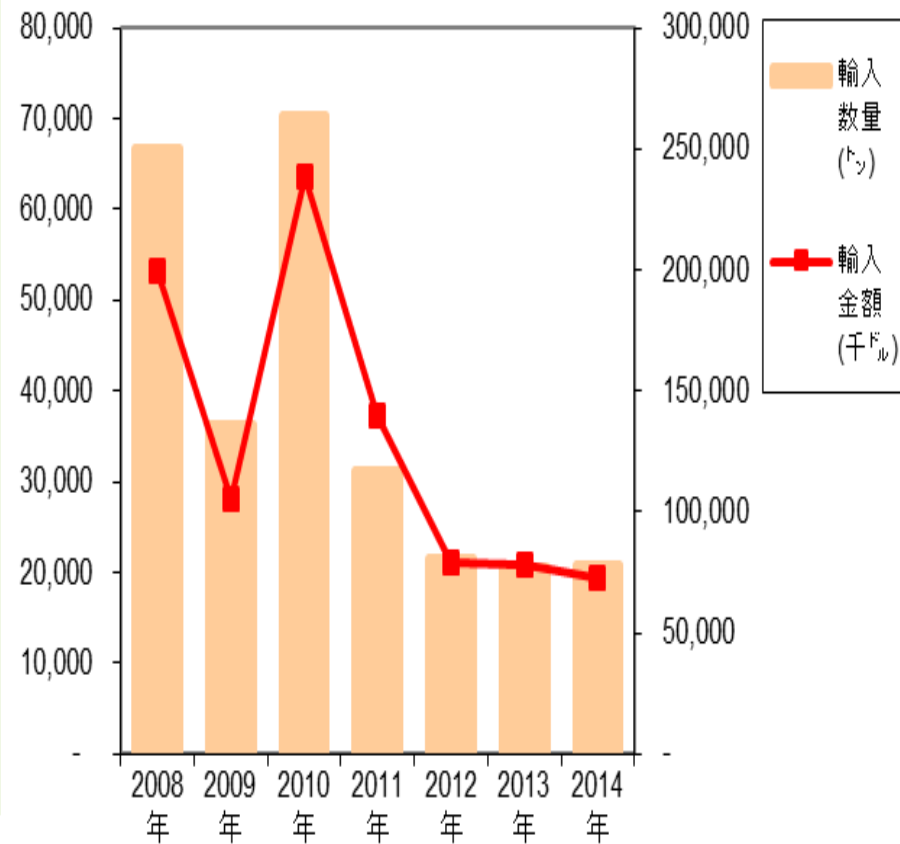
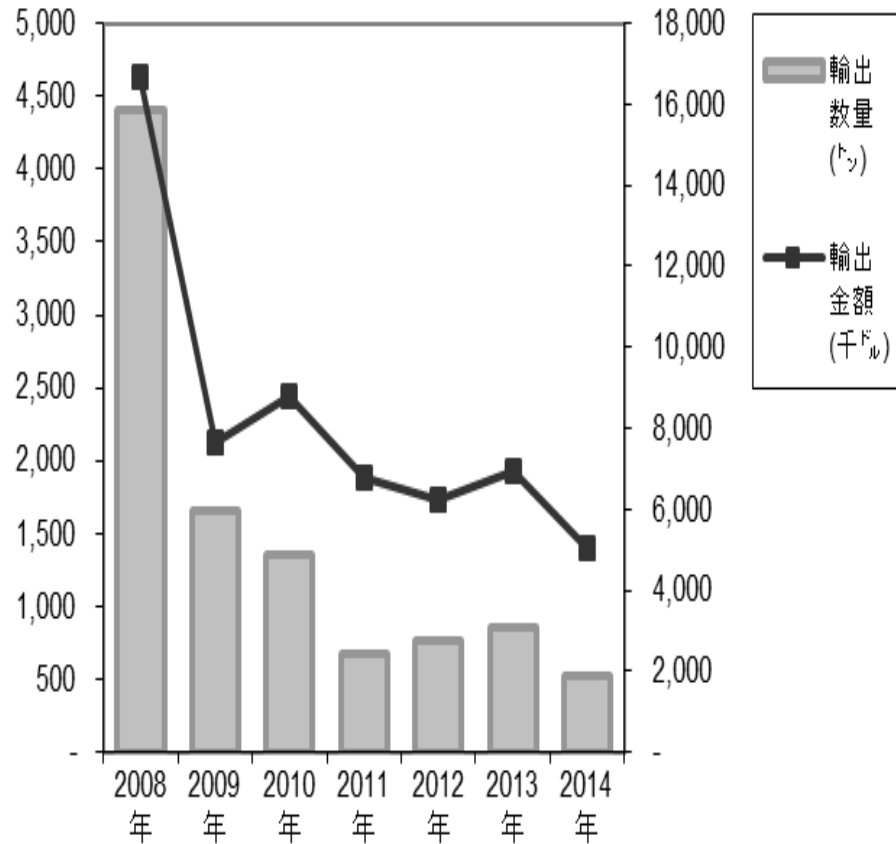
綿糸相場比較

単位：R\$/KG

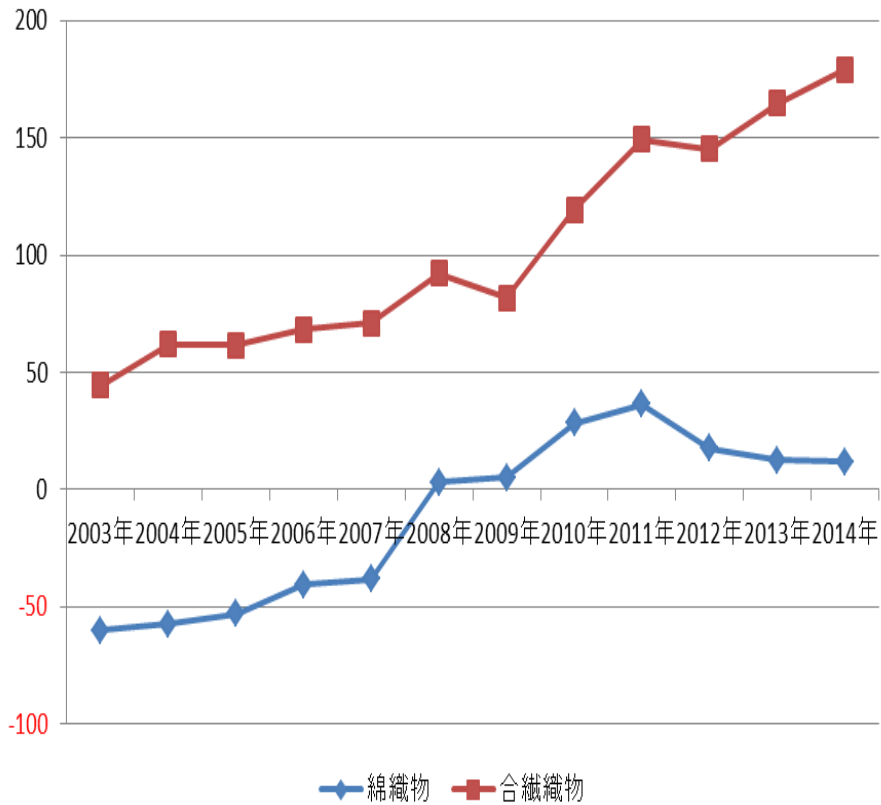
国内相場 (コーマ糸 30S、税込み現金
価格)

	前年12月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	変動率(%)
2013年	11.10	11.30	11.90	11.30	11.70	11.90	11.60	4.5
2014年	11.60	12.10	12.50	12.10	11.60	11.90	12.00	3.4

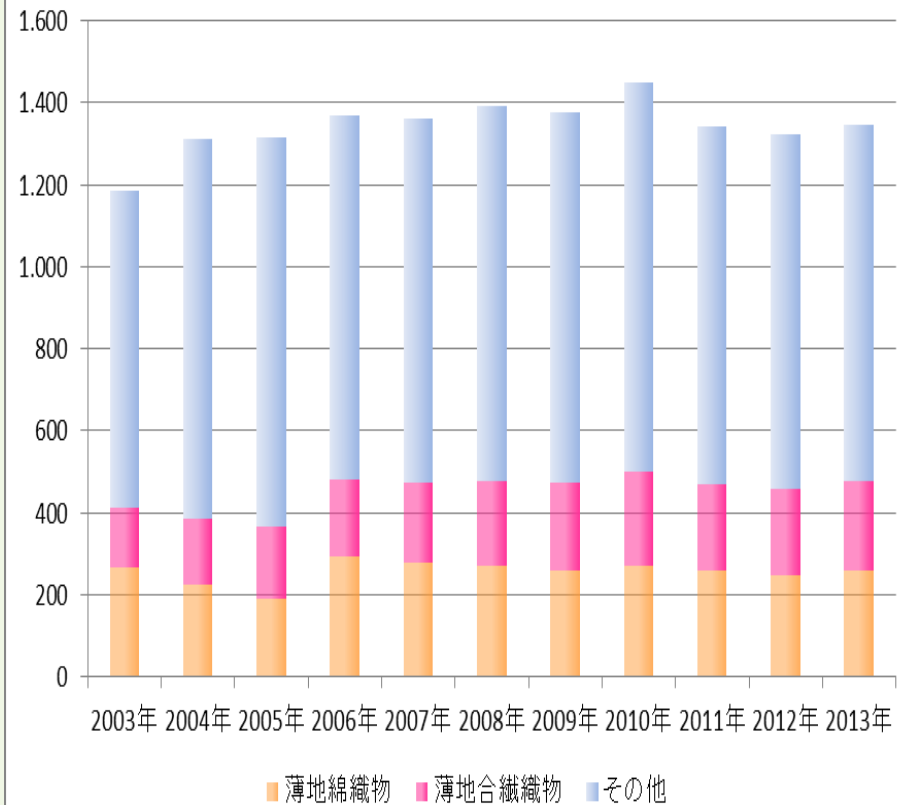
綿糸輸出入実績



織物の輸出入収支



織物生産量



テキスタイルについて

テキスタイルの輸入実績

ABIT資料

金額(FOB)：百万ドル，
重量：千トン

	2013年		2014年		2013/2014	
	金額	重量	金額	重量	金額増減(%)	重量増減(%)
テキスタイル全体	1515	300	1647	336	8.8	12.0
綿	224	30	211	29	-5.8	-3.3
合繊	701	156	695	163	-0.9	4.5
ニット	448	97	554	116	23.6	21.3
その他	142	17	187	28	31.7	64.7

縫製品の輸入実績

料

ABIT資料

金額(FOB)：百万ドル，重量：千トン

	2013年		2014年		2013/2014	
	金額	重量	金額	重量	金額増減(%)	重量増減(%)
縫製品全体	2,624	164	2,835	183	8.0	11.5
アパレル	2,376	123	2,555	129	7.5	4.9
リビング用品	140	18	157	25	12.1	55.6
その他	108	23	123	29	35.2	26.1

衣料について

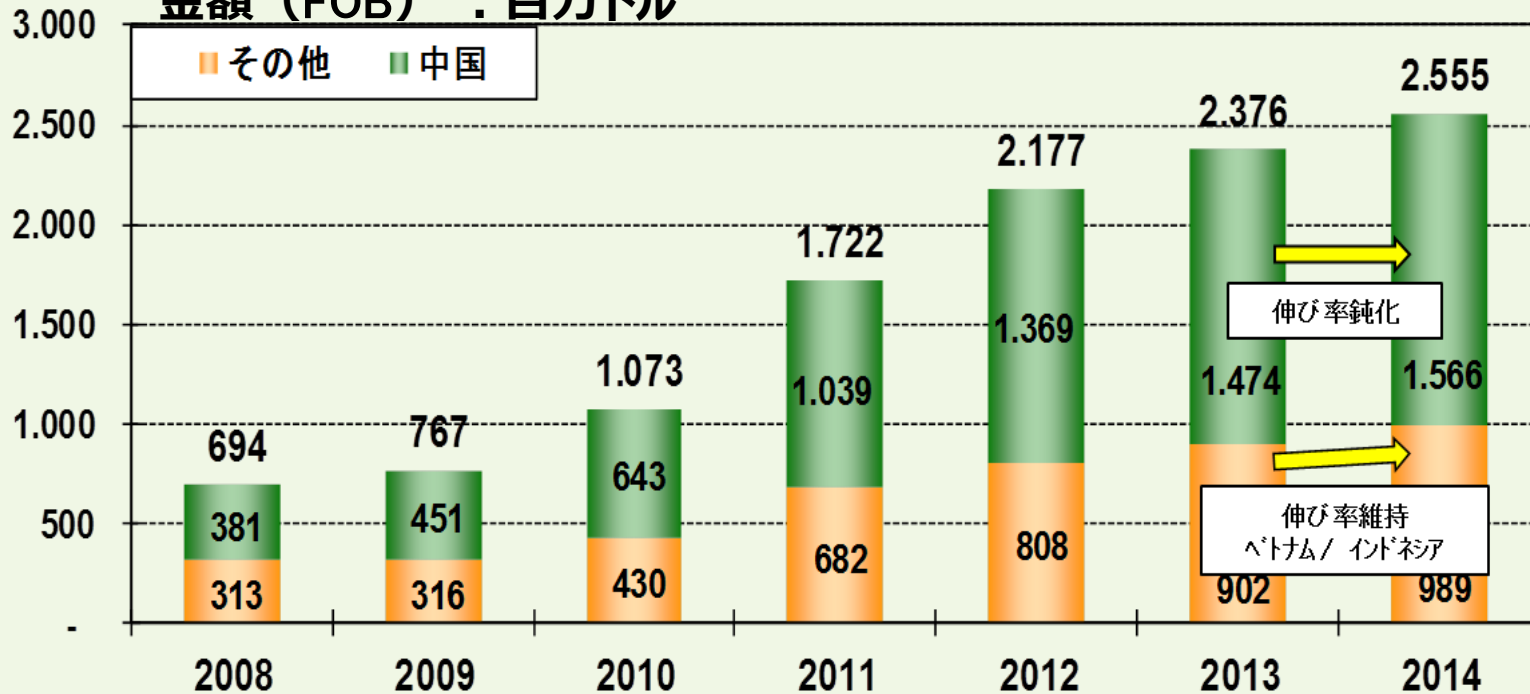
(繊維部会)

ブラジル衣料輸入

実績

SOURCE : Alice Web

金額 (FOB) : 百万ドル



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	14A /13A
中国	381	451	643	1,039	1,369	1,474	1,566	106%
その他	313	316	430	682	808	902	989	110%
合計	694	767	1,073	1,722	2,177	2,376	2,555	108%

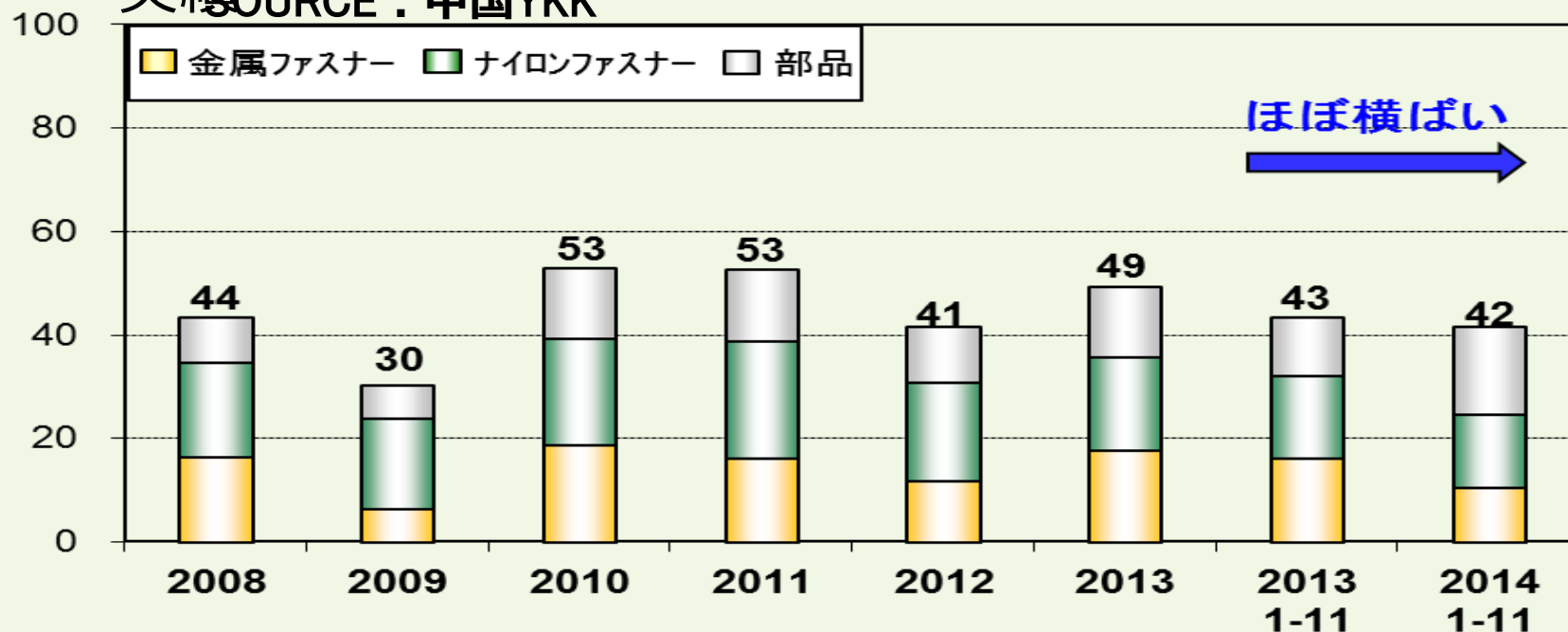
衣料について

(繊維部会)

ブラジル 中国ファスナー輸入

実績

SOURCE : 中国YKK



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2013 1-11	2014 1-11	14A /13A
金属ファスナー	16	6	19	16	12	18	16	10	65%
ナイロンファスナー	18	18	21	22	19	18	16	14	90%
部品	9	7	14	14	11	14	11	17	149%
合計	44	30	53	53	41	49	43	42	96%

2014年の回顧

期待に反した厳しい一年

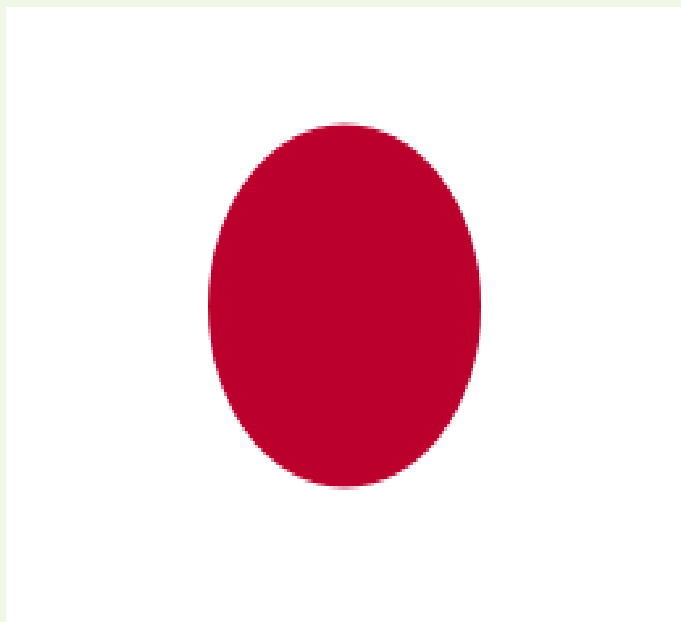
- ・消費低迷（経済情勢の悪化、w杯・大統領選挙の悪影響）
- ・安定した輸入品の流入（特に縫製品）
- ・電力・水供給不安とコストアップ

2015年の展望

好転材料に乏しい辛抱の一年（2016年以降の回復期待）

- ・景気低迷予想からさらに消費低迷。
- ・消費者の低価格品志向上昇
- ・レアル安による輸入抑制を期待するも、コスト・アップ(特に電力費)による採算悪化懸念。

ご清聴ありがとうございました。



出及



講評

佐野 浩明
在サンパウロ日本国首席領事

Comentário do
Cônsul Geral Adjunto do Japão
em São Paulo

Hiroaki Sano

コメント

**小林 和昭 参事官
在ブラジル日本国大使館**

**Comentário do
Secretário da Embaixada do Japão**

Kazuaki Kobayashi

閉会の辞

相原 良彦 総務委員長

ENCERRAMENTO

**Presidente da Comissão
de Coordenação Geral:**

Yoshihiko Aihara